

お水取りと仏像ベスト7・ツアー・行程表

○3月4日(日) = 第一日 =

＜越谷から東京駅までは、各自お越しください・ご一緒をご希望の方はご一緒に～＞

東京駅 9:03 発(ひかり465号・12号車) = 京都駅 11:48 着

(昼食は新幹線内で駅弁＜日本の味百覧＞をお召上がりください)

京都駅 12時発(チャーターバス) - 奈良市・興福寺・国宝館＜山田寺仏頭・阿修羅＞ - 奈良国立博物館 - 東大寺ミュージアム＜不空羅索観音(元・三月堂)＞ - 南大門＜金剛力士＞ - 東大寺戒壇院＜四天王＞ - 夕食＜和風レストラン春日・万葉弁当＞ - 東大寺お水取り見学 - コンフォートホテル奈良(宿泊)

○3月5日(月) = 第二日 =

ホテル 8時30分発(チャーターバス) - 唐招提寺＜盧舎那仏・千手観音＞ - 薬師寺＜薬師三尊・聖観音＞ - 昼食＜北小路・小路定食＞ - 藤の木古墳 - 法隆寺＜釈迦三尊・救世観音・百済観音・夢違観音＞ - 中宮寺＜弥勒菩薩＞ - 法輪寺＜薬師如来＞ - 夕食＜かめや・こなもん＞ - コンフォートホテル奈良(宿泊)

○3月6日(火) = 第三日 =

ホテル 8時30分発(チャーターバス) - 田辺観音寺＜十一面観音＞ - 宇治平等院鳳凰堂＜阿弥陀如来＞ - 昼食＜味生・点心弁当＞ - 高尾神護寺＜薬師如来＞ - 太秦広隆寺＜宝冠弥勒菩薩・泣き弥勒菩薩＞ - 京都駅 18時29分発(ひかり528号・12号車) = 東京駅 21:10 着 (夕食は新幹線内で駅弁＜京のおばんざい＞をお召上がりください)

＜東京駅からは、各自お帰りください・ご一緒をご希望の方はご一緒に～＞

◎コンフォートホテル奈良 0742-25-3211 奈良市三条町321-3 (JR奈良駅3分)  
ホテルは全員、シングルルームです。

◎緊急時連絡先 宮川 090-4139-2740 篠原 090-1210-0725

◎4日昼食と6日夕食の駅弁は一括購入いたしますが、飲み物は各自でご用意ください。

◎奈良のおみやげ (ご参考 店舗所在地については、お問合わせください)

○奈良漬 山崎屋 今西本店 森奈良漬店 ○墨 古梅園 ○筆 一心堂

○和菓子 鶴屋徳満の青丹よし 千代の舎竹村の青丹よし

白玉屋栄寿のみむろ最中(近鉄構内)

○お酒 奈良市内の蔵元で有名なのは「春鹿」

郷 土 研 究 会  
「お水取りと仏像ベスト7」ツアー・ニュース  
NO.1 H24.1.24

このたびはご参加お申込みをいただきまして、ありがとうございました。締切をまたず、満員となりました。あなたさまにはご参加していただけることとなりましたので、ご案内申し上げます。

◎今回のツアーの旅程案 下線のあるものはベスト7のほとけさま

次のとおりのプランを考えております。変更があることもありますので、ご了承ください。

〇3月4日(日)＝第一日＝

＜越谷から東京駅までは、各自お越しください・ご一緒をご希望の方はご一緒に～＞

東京駅 9:03 発(ひかり465)＝京都駅 11:48 着 (昼食は新幹線内で駅弁をお召上がりください)

京都駅 12時発(チャーターバス)→奈良市(東大寺戒壇院<四天王>→東大寺ミュージアム<不空けんじゃく観音(元・三月堂)>→南大門<金剛力士>←興福寺・国宝館<山田寺仏頭・阿修羅>→奈良国立博物館→東大寺お水取り見学(その前後に夕食)→コンフォートホテル奈良(宿泊)

〇3月5日(月)＝第二日＝

ホテル 8時30分発(チャーターバス)→薬師寺<薬師三尊・聖観音>→唐招提寺<ル舎那仏・千手観音>→法隆寺<釈迦三尊・救世観音・百済観音・夢違観音>→中宮寺<弥勒菩薩>→法輪寺<薬師如来>→コンフォートホテル奈良(宿泊)

〇3月6日(火)＝第三日＝

ホテル 8時30分発(チャーターバス)→宇治平等院鳳凰堂<阿弥陀如来>→田辺観音寺<十一面観音>→高尾神護寺<薬師如来>→太秦広隆寺<宝冠弥勒菩薩・泣き弥勒菩薩>→京都駅 18時29分発(ひかり528)＝東京駅 21:10 着

＜東京駅からは、各自お帰りください・ご一緒をご希望の方はご一緒に～＞

※ホテルはビジネスホテル・シングルを利用します。

※5日、6日の朝食はホテル、昼食は現地の食堂を利用。4日、5日の夕食は関西らしいものを食べたいと思います。6日の夕食は駅弁となります。

※今回の仏像ベスト7は、元埼玉県立博物館館長の林 宏一先生が、日本の仏像の中から、これだけは見ておいてほしいと選ばれたベスト10の中から、選ばせていただきました。ベスト10の中で、今回、行けないのは次のとおりです。

・観心寺・如意輪観音 (大阪府にあるため、今回は行けず) ・興福寺北円堂・無著・世観像 (常時公開されていないため) ・円空仏 (どの円空仏とは特定されてはいません)

つきましては、早速ながら、次のとおり、ご参加費のお支払いをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

◎金額 65,000 円 ◎2月5日(日)午前10時～午後6時 夢空庵(越谷市中町 TEL048-962-2651)へお手数ですがご持参お願いいたします。ご都合悪い場合は宮川(975-9139)までご連絡下さい

# 郷 土 研 究 会

## 「お水取りと仏像ベスト7」ツアー・ニュース

NO.2 H24.2.5

◎参加費をお預かりさせていただきました、ありがとうございました。

◎その後、決めましたことをご報告させていただきます。

### ○お食事の予定

第一日(3月4日(日)) 昼食 ちよつと早めですが、新幹線車内で駅弁(一括購入)  
夕食 奈良市内・和風レストラン春日で「みに会席」

第二日(3月5日(月)) 朝食 ホテル・レストランにて  
昼食 法隆寺近くの北小路(きたこみち)で「小路定食」  
夕食 奈良市内・かめやにて「関西の粉モン」  
～粉モンとは「小麦粉」を使ったお好み焼きなどの料理をいう～

第三日(3月6日(火)) 朝食 ホテル・レストランにて  
昼食 <検討中>  
夕食 新幹線内で駅弁をご賞味ください(一括購入)

◎宿泊する「コンフォートホテル奈良」はJR奈良駅前。電話0742-15-3211

### ◎お勉強のお願い

出発までに、今回の主目的である「仏像」についての勉強会を行なうことを考えていますが、お一人、お一人が、ご自分のために勉強していただくことが、イチバン、身につくことでもありますので、ぜひ、いろいろと参考書など、お読みいただければ～とお願いいたします。

### ○こんな本があります

- ・古寺巡礼 和辻哲郎著 岩波文庫 560円+税 まさに古典中の古典です
- ・大和古寺風物誌 亀井勝一郎著 新潮文庫 420円 和辻の上記と双璧
- ・よくわかる仏像の見方 西村公朝著 小学館 2310円 仏像の専門家の本
- ・私の大和路春夏紀行 入江泰吉著 奈良を撮り続けたカメラマンの写真とエッセイ

○～とは、いいながら、仏像の前では、ムツカシイことは考えないで、素直な気持で「見つめ」ましょう。そして、あなた自身が、その仏像を「好き」になれるか、それとも「これは、あんまり～」ということになるのか～です。

ほかのヒトには、どんなに「よい」仏像であっても、あなたは「嫌い」であってもいいではありませんか？

好き、嫌いは、あなたの感性で、決めるべきだと思います。







<p>郷 土 研 究 会</p> <p>「お水取りと仏像ベスト7」ツアー・ニュース</p> <p>NO.3 H24.2.16</p>
--

- 急な話で恐縮ですが、次のとおり、仏像についての勉強会をしたいと思います。
- もちろん、これにご出席されない場合でも、ツアーを楽しんでいただくことはできますが—  
そして、お話しする側だって、素人ですから、聞かなくていい、むしろ、聞いたら逆に、ソッ  
をするかもしれません。
- このニュースの先の号でも、書かせていただきましたが、今回のツアーは「仏像を素直に見つ  
める」というものですから、ご都合のつかない方は本当にご遠慮なく、お越しただかなくて  
結構です。お時間の許す方だけお越しください。
- 実施日時 2月28日(火) 午後2時～  
場 所 越谷市中央市民会館 4階第14会議室 <郷土研究会の名で申込み済>  
内 容 仏像について  
・山下裕二(明治学院大学教授)流 仏像鑑賞の心得10カ条  
・各時代別の仏像の特色
- ご参加いただける方は、資料印刷の必要上、2月25日(土)までに宮川まで、ご連絡くださ  
い。 TEL&FAX 048-975-9139
- 前号の時は未定でした、3月6日(火)の昼食は、嵐山近くの「味生～みしょう～」の「点  
心弁当」にいたしました。
- 

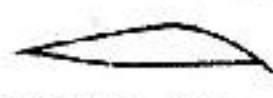


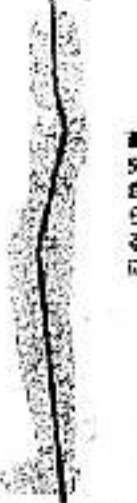
以 上



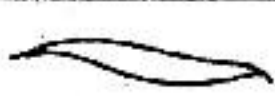
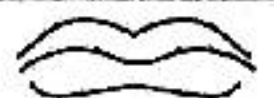

飛鳥仏の造形的特徴

目の形	口の形
	
杏仁形の日	アルカイックスマイル。口角が上がる
立像正面	立像側面
	
正統からの動きの変化は、四天王像が、最もわかりやすい。飛鳥時代の仏像は直立不動である。両腕はわずかに動きを見せるが自由さはまったくない	全体に薄く扁平な体型である。顔と脚を突き出し、全体の流れは堅く、自然さは感じられない

白鳳仏の造形的特徴

目の形	口の形
	
飛鳥時代と比較して長く長くなる。目頭が表現されるようになる	笑みに微笑は残るが、アルカイックスマイルではない
立像正面	立像側面
	
まだ直立不動であるが、両手に多少の動きが認められるようになる	顔は飛鳥仏のように突き出すことはなく自然だが、肩は変わらずに突き出している。肩の厚さも徐々に薄くなっていく

天平仏の造形的特徴

目の形	口の形
	
鋭いラインが表現されるようになる	透りが複雑になる。下部の下辺に凹凸が現われ、写実的になる
立像正面	立像側面
	
ポーズが自由に表現されるようになる。動きは激しく、重厚を感じるが、各部分が肉張されていない	バランスは全体的に自然になってくる。脚はボリュームが増し、重厚が出てくる

貞観仏の造形的特徴

目の形	口の形
	
天平時代より切れ長の目。強さが出てくる	形は天平時代とあまり変化は見られないが、より強い表現になる
立像正面	立像側面
	
天平時代の面形と動きに大きな変化はないが、貞観時代特有の力の肉張が見られるようになる	脚のラインが膝より後方にさがる。多少、肉張して表現することにより、力強さが表現される

醍醐仏の造形的特徴

目の形	口の形
	
上端がふくれて、伏し目になる。表情は温和	形式的な表現。力が入っていない
立像正面	立像側面
	
四天王像に関しては、持来像や菩薩像ほど大きな変化は見られないが、多少動きがおとなしくなる	顔面からの動きがほとんどなくなる。首から下は直立不動である

醍醐仏の造形的特徴

目の形	口の形
	
天平時代の目に似ているが、玉眼が多果されるようになる	再び、写実的な表現になる。力強い
立像正面	立像側面
	
再び自由な動きとなる。すべての動き、バランスが遠にわたっており、人体の骨格、筋肉の動きなど造形的に研究されている	顔、肩、脚の位置は大変自然である。動きとして肉張された部分もなく、「人が立つ」ということを意識に表現している

# 郷 土 研 究 会

## 「お水取りと仏像ベスト7」ツアー・ニュース

NO.5 H24.2.28

### ◎仏像の見方について

「見方」などというのは、いけないのかも知れませんが、信ずる対象であれば、「見る」のではなく、「拝観」なのでしょうから。

ただ、今回のツアーは、申し訳ないのですが、「美の鑑賞、歴史的遺産の見学」が目的なので、「ほとけさま」にはお許しをいただくことといたしましょう。

### ◎仏像鑑賞の必需品とは—

以前、仏像鑑賞ツアーに参加させていただいたことがあったのですが、皆さんは「懐中電灯？」と「単眼鏡」をお持ちになっていました。

（お寺によっては、そういうものを使ってはいけないというところもあるようですので、ご注意ください）

### ◎別項の山下裕二先生の「仏像鑑賞の心得 10カ条」に加えて—

全面的に賛成であり、特に『「好きな仏像」「嫌いな仏像」に分けてみる』というのに大賛成なのですが、わたし流を付け加えさせていただきます。

### ○「神は細部に宿る」という言葉があります

細かい部分に注目すると、面白いことが分かるかも知れませんが、仏像であれば、目じり、口もと、腕の曲がり方、手の指の流れ—などがあると思います。

仏像の微笑にしても、「どういう動きで微笑を表現しているか」を考えながら、見る見方もあるかと思えます。

そして、あらゆる仏像を見るときに、必ず、そのポイントを見ることにされれば、比較ができて、ますます、「仏像の通」になられることでしょう。

### ○仏像のバランスを見る

特に、頭部が大きすぎる仏像があります。お顔はよくても、チョットですね。

### ○なぜ、平安時代の仏像は微笑していないのか？

その時代までの仏教は、まだまだ、市民権が得られていなかったもので、仏像も信者獲得のためにニコニコしているけれど、平安時代になると、国家権力にも取りいれられて、もう微笑する必要がなくなったのか？ それを悪く引き継いだ江戸時代の仏像に対し円空、木喰の仏の微笑は強力な反語となったことでしょう。

### ○時代別の仏像の特徴が分かるようになると、仏像鑑賞が面白くなります

# 山下裕二流 仏像鑑賞の心得 10カ条

仏像をより楽しむための心得を山下先生が伝授  
この10カ条を頭に叩き込んで、奈良を訪ねれば、仏像ファンになること請け合いです！

## 回 第1条

仏像を、「女性」「男性」、「子ども」など、人に置き換えて  
見てみる。そうすると仏さまが  
より切実なものに見えてくる。

## 回 第2条

「国宝」「重要文化財」などの  
レッテルに左右されず、  
「好きな仏像」「嫌いな仏像」  
に分けてみる。

## 回 第3条

奈良のお寺は意外にも  
仏像の近くまで行けるところが多い。  
できるだけ仏さまに近づいて、  
目と目を合わせてみる。  
無視されたら仕方ないが……。

## 回 第4条

仏さまがいる  
**空間全体を味わう。**

## 回 第5条

顔やボディラインだけでなく、  
衣の襷や指先など、  
**細部も注視する。**

## 回 第6条

阿弥陀如来、薬師如来、十一面観音、  
十二神将、四天王など、多くのお寺にある  
同じ種類の仏像の中から、  
マイ・ベスト・ワンを決める。時代や作者  
などの違いが見え始めて、面白さが増す。

## 回 第7条

なぜこの仏像がここにあるのか、  
その背景をちよつと**勉強**する。

## 回 第8条

さらに一歩進んで、奈良時代、  
平安時代、鎌倉時代など、仏像制作ラッシュの  
時代の歴史をおさらいしてから見に行く。  
全体像がわかって感動も倍増。

## 回 第9条

**特別公開**などの時期を事前にチェック。  
めったに見られない仏さまに出会えれば、  
さらにのめりこむことに。

## 回 第10条

本尊だけ、あるいは主要なお堂だけでなく、  
お寺へ行ったなら、境内をくまなく**散策**する。  
ほとんどだれも注目していない仏さまが、  
実はけっこういらっしやいます。



郷 土 研 究 会  
「お水取りと仏像ベスト7」ツアー・ニュース  
NO.6 H24.2.28

◎3月4日(日) 東京駅へ一緒に行かれる方の時間表

7:40 越谷駅発<急行・浅草行>=せんげん台7:33 新越谷7:43 草加7:48  
キップは東京メトロ・上野までをお買いください  
上野からは団体で買ったキップ(東京都区内→奈良)を使用します  
最後部にお乗りください

7:59 北千住駅着  
8:05 北千住駅発 日比谷線・中目黒行  
8:13 東京メトロ・上野着  
8:19 JR・上野発 京浜東北線・磯子行  
8:27 東京駅着

8:30 東京駅・新幹線・中央のりかえ口・改札前・集合  
独自で東京駅へ来られる方は新幹線・中央のりかえ口・改札前へお越しください  
<南のりかえ口もありますので、お間違えなきよう>

新幹線は東京9:03発・ひかり465号です。(京都着11:48)

緊急時連絡先 宮川090-4139-2740 篠原090-1210-0725

◎当日お昼の駅弁はまとめて購入し、車内でお渡しいたします。お茶は各自ご購入ください。

◎お水取りは、7時からです。寒さ対策をお願いいたします。~靴下を2枚履くなど~

◎同じホテルに2泊しますので、貴重品以外のお荷物は、部屋に置いてお出かけいただけます。

◎6日の東京着は21:10の予定です。

---

4日、5日の宿泊先=コンフォートホテル奈良  
0742-25-3211 奈良市三条町321-3(JR奈良駅3分)

## これだけは見ておきたい日本の仏像ベスト10

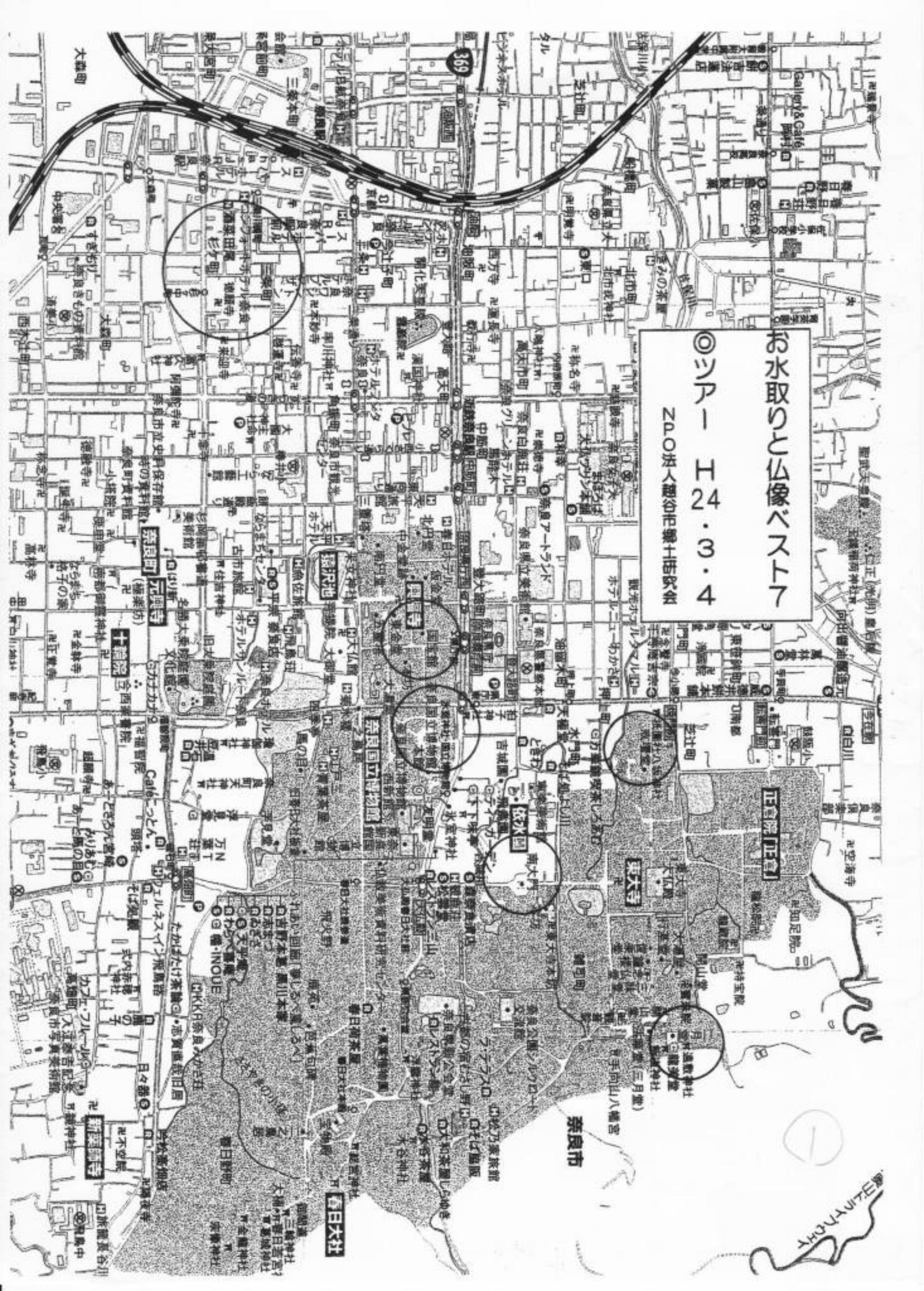
1. 法隆寺金堂釈迦三尊像 中尊 87.5 cm 左脇侍 92.3 cm 右脇侍 93.9 cm  
推古 31 年(623)光背裏銘 前年 2 月相次いで亡くなった上宮法皇並びに王后の冥福を祈って王后・王子・諸臣が造立 司馬鞍首止利仏師作  
北魏様式(龍門賓陽洞本尊 505~23 頃等が祖形) 螺型鑄造
2. 薬師寺薬師三尊像 中尊 254.7 cm 左脇侍 317.3 cm 右脇侍 315.3 cm  
藤原京本尊説 天武 9 年(680)発願 持統 2・11 年(688・97)  
平城京新鑄説 養老 2~神龜 3 年(718~26)  
初唐様式 完成された造形表現 螺型鑄造
3. 東大寺法華堂不空羂索観音像 362.1 cm  
旧綱索院本尊 「綱索院 名金縷寺、又改号金光明寺、亦禅院」(「東大寺要録」)  
天平 18 年(746)頃 盛唐様式 成熟した古典表現 脱活乾漆造
4. 東大寺戒壇院四天王像 持国 160.5 cm 増長 162.2 cm 広目 169.9 cm 多聞 164.5 cm  
天平年間 法華堂執行金剛神像とならび天平塑像の代表作  
精緻な古典的写実描写と優れた性格表現 塑造
5. 神護寺薬師如来立像 169.7 cm  
延暦年間(782~805)頃 和氣氏建立河内神護寺仏 延暦 12 年(793)頃(「神護寺略記」)  
重厚で威圧的な造形表現 頭頂から蓮台軸部までカヤ材一木造り
6. 観心寺如意輪観音坐像 108.8 cm  
承和年間(834~47)頃 肉感的な密教彫刻 木心乾漆造(カヤ材一木造に乾漆仕上げ)
7. 平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像 283.9 cm  
天喜元年(1053) 関白藤原頼通発願 大仏師定朝(?~1057)作  
和様の典型「仏の本様」 ヒノキ材寄木造
8. 東大寺南大門金剛力士像 阿形 836.3 cm 吽形 842.3 cm  
建仁 3 年(1203)7・24~10・3 運慶、快慶等 4 人の大仏師と慶派一門の仏師が参加  
平成元~4 年の大修理により阿形は運慶・快慶、吽形は定覚・湛慶が担当したことが判明  
写実と躍動感をめざした鎌倉彫刻の記念碑的作品 ヒノキ材寄木造・彫眼
9. 興福寺北円堂無著・世親像 無著 193.0 cm 世親 190.9 cm  
再興造仏は承元 2 年(1208)、窓大仏師法印運慶と一門の仏師が参加(「猪熊関白記」)  
建暦 2 年(1212)完成 無著は運慶第六子運助 世親は第五子運賢が担当(中尊台座墨書銘)  
確かな写実表現と深い精神性 木彫技術の完成点を示す カツラ材寄木造・玉眼
10. 円空仏  
遊行僧円空(1622~95)の鈍彫り風木彫 個性的で庶民的な神仏像 近代彫刻の萌芽



# お水取りと仏像ベスト7

## ツアー H 24・3・4

ZAO法人鎌谷市郷土研究会

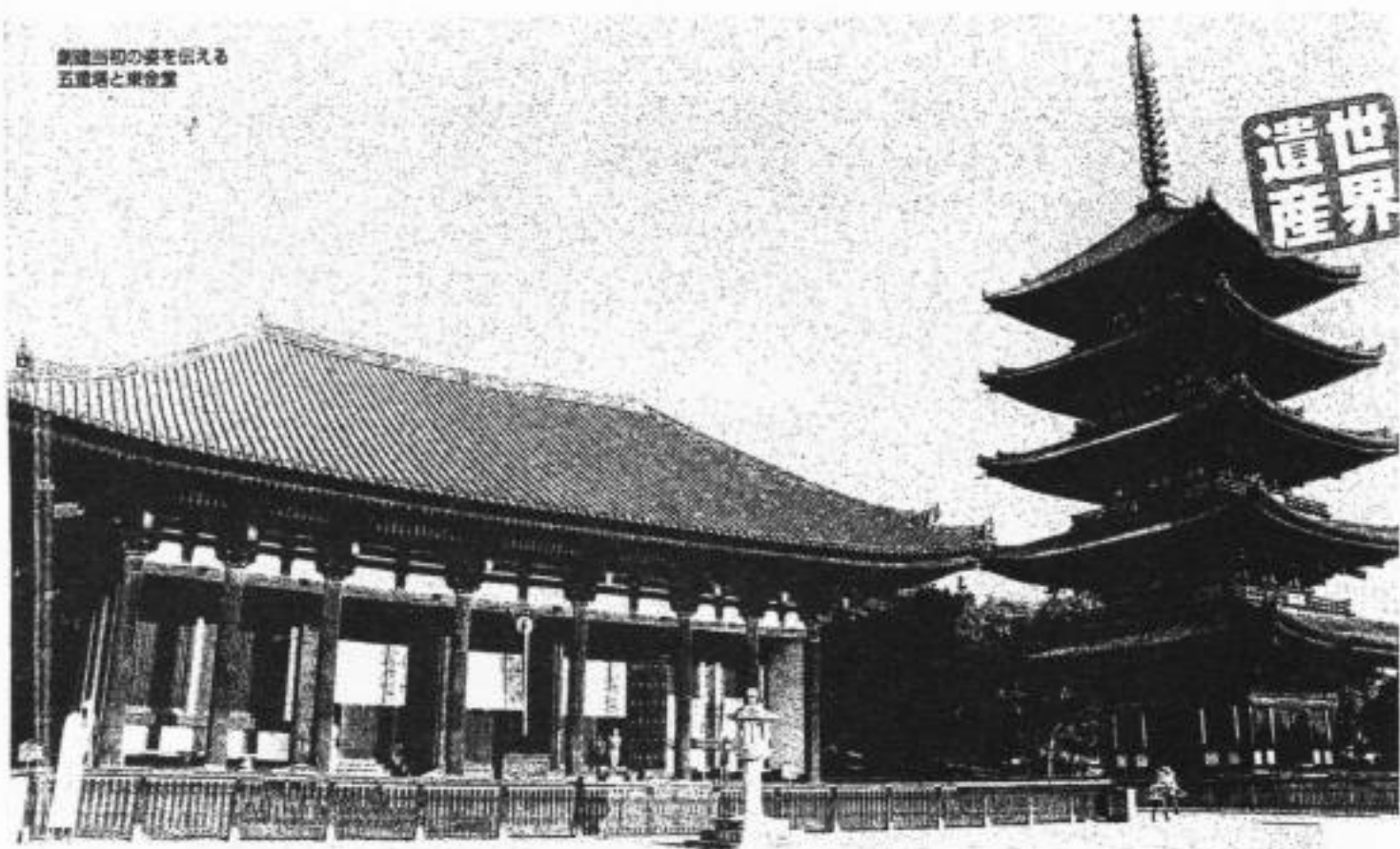


©ZAINYONOKY



# 興福寺

創建当初の姿を伝える  
五重塔と東金堂



とうこんどう

## 東金堂 国宝

聖武天皇が創建した。現在の建物は室町時代再建の6代目で、本尊はそこに造られた薬師如来像。鎌倉時代の文殊菩薩像と維摩居士像、躍動的な十二神将像なども立ち並び堂内は壮観だ。

ごじゅうのとう

## 五重塔 国宝

藤原不比等の娘でもある光明皇后が創建。以後5回焼失し、現在の塔は応永33年(1426)、東金堂にやや遅れて再建されたもの。高さは約50mで、古塔では京都・東寺の五重塔に次いで高い。

こくほうかん

## 国宝館

食堂(uesi)と細殿(moto)を模して建てられた文化財収蔵庫。名のおり、天平彫刻の傑作である阿修羅(別冊P9)などの八部衆像や十大弟子像、鎌倉期の金剛力士像など名だたる国宝を展示。館内がリニューアルされ、見やすくなった。



すっかり有名になった阿修羅像はここに展示されている

さんじゅうのとう

## 三重塔 国宝

境内の南西隅にひっそり立つ。平安時代後期に崇徳天皇の中宮が建立。現在の塔は平安末期の焼失後ほどなく再建されたものだが、平安期の優美な姿を残す寺内最古の建物だ。



高さ19m。初層が二・三層より広く安定感がある



# 阿修羅像

興福寺

天平六年（七三四）、光明皇后が母公  
極三千代の一周忌追福のため建立した西  
金堂には、釈迦三尊像を中心として、十大弟  
子・八部衆など計一九体の脱活乾漆造の群



像が安置されていた。この像もそのうちの  
一つである。西金堂は何度か被災したが、その  
つど災禍を免れ、今日まで残った。  
阿修羅はもともとは外道、つまり異教の神  
であっただけに、三面六臂という異様な姿に  
表わされているが、その後、釈尊に帰依した  
ことを示すように、その顔立ちは汚れを知ら  
ぬ少女のすがすがしさを見せている。

阿修羅像（八部衆立像のうち）  
脱活乾漆造彩色 像高153.4cm  
天平6年（734）将軍万福作  
国宝 奈良・興福寺国宝館





仏頭（旧東金堂本尊）銅造鍍金 像高98.3cm 白鳳時代  
（天武天皇14年（685）） 国宝 奈良・興福寺建寧館

## 仏頭

（旧東金堂本尊）

### ●興福寺

現在、興福寺国宝館でも指折りの名品とされるが、もともとは興福寺の仏像ではない。丸々とした豊満な頭部、若く凛々しい表情は飛鳥彫刻にはないものであり、おそらく中国隋から初唐へかけての様式を基礎としたものであろう。

もとは、後の持統天皇となる鸕野讃良皇女が、夫天武天皇と共に祖父蘇我石川麻呂と母のために造った像だが、やがて平安時代末期に興福寺に移され、東金堂の本尊とされたが、室町時代の火災で焼け落ちた。その時の傷が左側に大きな歪みとして残っているのがいたましい。





須菩提像

興福寺

八部衆像とともに、天平六年創建の西金堂に安置されたもの。釈尊の高弟一〇人を表わした像で、それぞれの個性的な風貌がみこ

とに造り分けられ、中国唐代の写実傾向を受けた天平という時代が造り出した本格的肖像彫刻といえよう。現存六軀のほとんどは老相だが、この須菩提像は清新な青年僧の姿で表わされている。その名称に確証はない。現在は乾漆独特の歪みて、やや硬い姿態だが、かつてはもっと丸みのある姿態だったろう。

須菩提像（十大弟子立像のうち）  
脱活乾漆造彩色 像高147.6cm  
天平6年（734） 将軍万福作  
国定 奈良・興福寺国宝館



金剛力士立像 木造彩色 像高：阿形  
 (左)162.0cm、吽形(右)163.0cm 鎌倉  
 時代(12世紀末-13世紀初め) 国宝  
 奈良・興福寺国宝館

●興福寺  
**金剛力士立像**

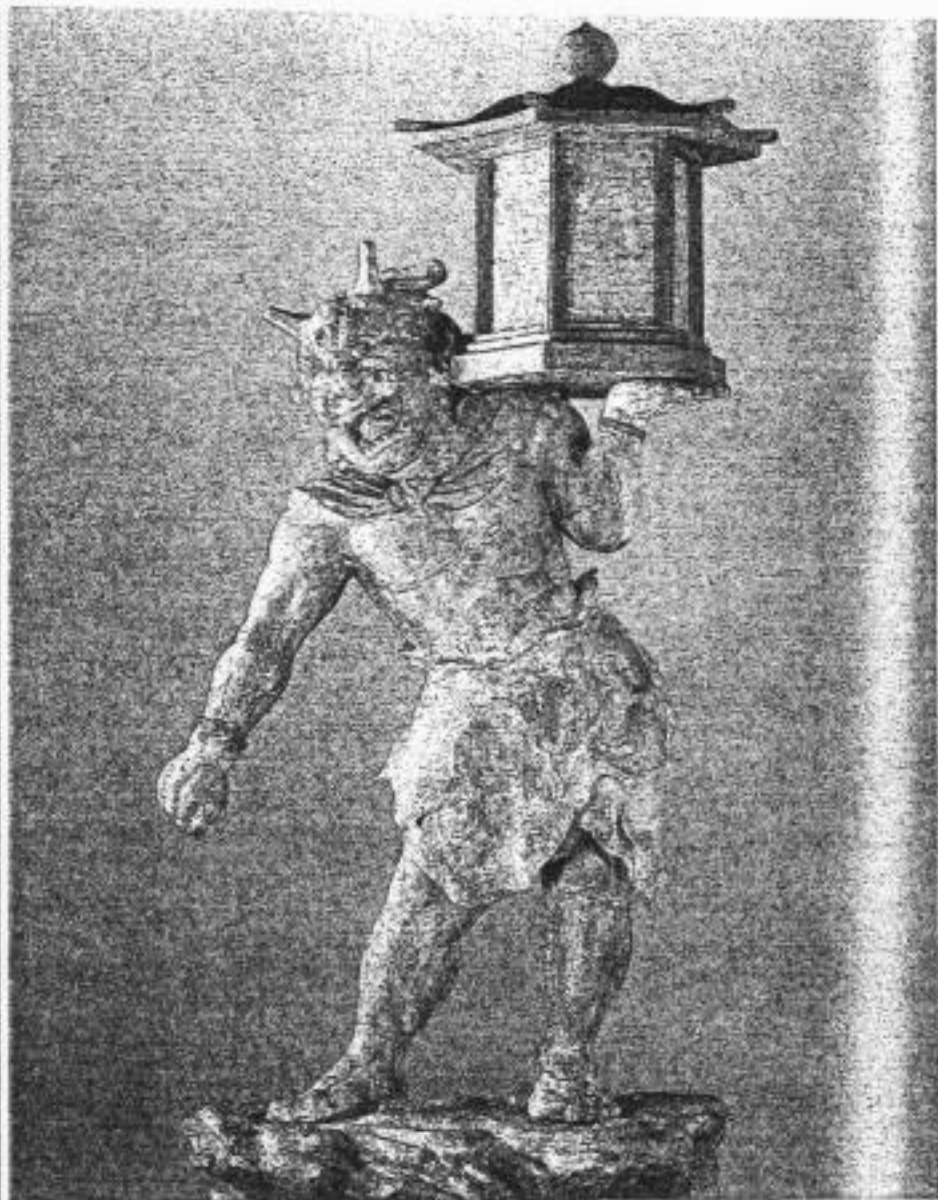
もと興福寺西金堂に安置されて  
 いた像で、屋内安置用なので、小  
 ぶりの像である。治承四年(一一  
 八〇)の兵火で焼けたのち、本尊  
 釈迦は文治五年(一一八九)ころ、  
 協侍菩薩が建仁二年(一一〇二)  
 ころ造られたというので、この像  
 もそれに近いころに造立されたと  
 思われる。

誇張に過ぎると思われるほど激  
 しい動態と筋肉、強烈な忿怒の表  
 情、風になびく袈の動きなどを丹  
 念に彫り出して、すさまじい迫真  
 感がある。定慶の作とする伝えが  
 あるが、彼あるいはそれに近い系  
 統の作者が想像される。





天燈鬼・竜燈鬼立像 木造彩色 像高：天燈鬼(右)77.9cm、竜燈鬼(左)77.3cm 鎌倉時代(建保3年(1213)) 康弁作 国宝 奈良・興福寺国史館



### ●興福寺 天燈鬼・竜燈鬼立像

恐ろしげだが、どこかユーモラスな姿の二像で、西金堂の仏前に灯明を捧げる灯台である。朱色の体を大きくひねり、口を開く天燈鬼、静かに立って口を閉じるが、それを補うように竜を巻きつける緑青彩の竜燈鬼と、まことにおもしろい対照を見せる。

寄木造で玉眼、髪の毛筋に載金を置き、竜燈鬼の眉は銅板を切つて用い、牙には水晶、竜の背びれに皮を用いるなど、工芸的な技巧をふんだんに用いているのも、このころの流行である。竜燈鬼の胎内に、建保三年(一一二五)運慶の三男康弁が造ったという銘記がある。

### 興福寺

法相宗

藤原鎌足のために創建された山階寺が飛鳥に移され既坂寺と称したが、平城遷都とともに現在地に移建され、興福寺となった。平安時代を通じて藤原氏の氏寺として繁栄するが、平重衡の兵火や度重なる火災によって焼失、再建が繰り返され、現在の伽藍となった。五重塔の隣の東金堂は、塔の雷火災でたびたび焼失し、現在のものは室町時代初期の再建。本尊として薬師如来像が祀られていたが、火災で体部を失い、現在、国宝館に仏頭として安置されている。

また南円堂の隣に、東金堂と対面して光明皇后が母、橘三千代夫人の一周忌に際して建てた西金堂があったが江戸時代に焼失、その時かろうじて救い出されたのが国宝館に安置される阿修羅(12ページ)などの八部衆像、および須菩提などの十大弟子像の天平仏である。



# 奈良国立博物館

## なら仏像館

一番の見どころは、やはり仏像。国内の博物館では最も充実した展示内容で、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏像が展示されている。



【如意輪観音坐像】 にょいりん かのんごぞう

【重要文化財】平安時代 9~10世紀  
腕が6本ある密教尊像。表情からは、厳しくも観音像らしい慈悲深い印象も受ける。江戸時代に丹後国の海中より発見されたとの伝承を持つ。



【愛染明王坐像】

あいぜん みょうおうざざう

【重要文化財】鎌倉時代 13世紀  
作者は仏師快成で、快尊・快弁が小仏師として参加。平重衡による東大寺大仏殿の兵火後の古材が使われたと推測される。



【十一面観音立像】

じゅういちめん かのんりゅうざう

【重要文化財】奈良時代 8世紀  
香木として有名な白檀から造られた、一本造の彫像。素材の緻密さを活かした豊かな表現と色彩の施しがほとんどない素地の木肌が気品を漂わせている。

【薬師如来坐像】

やくし によらいざざう

【国宝】平安時代 9世紀  
伏し目の表情やなで肩の体つきなどが穏やかな印象を与えるが、目鼻立ちの彫が深く、衣文は鋭く力強い表現が施されている。一部を除きカヤの一材で彫られている。



※ここで紹介しているのは代表的な収蔵品。定期的に陳列替えをしているので、展示されていない場合もある

# 東大寺

天平十三年(741)、聖武天皇は仏教国家の象徴として国分寺建立の詔を出した。さらにその総括として大仏を造ることを思い立ち、当時の都紫香(しよか)に近い甲賀寺で工事を始めるが、間もなく平城に遷都することとなり、平城外京の東北隅の現在地で再び建立を始め、国分寺として東大寺と称したのが始まりである。もともとこの地には、後に東大寺



堂の下には良井(ろうべん)にまつわる伝説を宿す「良井杉」が立つ



時代の異なる2堂が見事に調和した名建築

ほつけどう(さんがつどう)



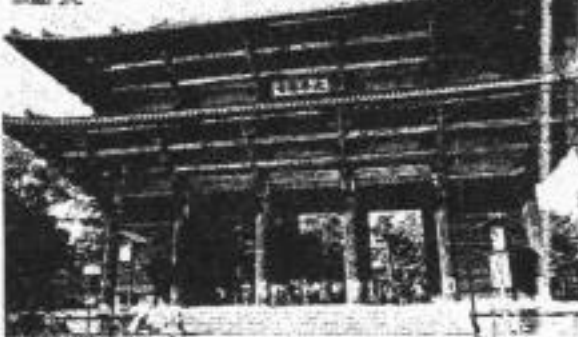
東大寺の現存最古の建物。奈良時代の奇標造の正堂に、鎌倉時代に入母屋造の礼堂を付設したもので、名建築の声が高い。堂内には不空羅素観音立像(別冊P4)はじめ多数の天平仏を安置する。

にがつどう



境内東方の高台に立つ。現在の建物は江戸時代の再建。旧暦2月に修二会(お水取り)が行われることから二月堂と呼ばれる。舞台から大仏殿の屋根越しに奈良市街が見渡せる。

巨大な大仏殿に異なった豪華な二重門



なんだいもん



東大寺の正門。現在の門は鎌倉時代に再建されたもので、高さ25.5m。また左右に安置された仁王像は高さ約8m。運慶が快慶ら一門を率いて69日間で作成させたと伝わる。

かいだんどう



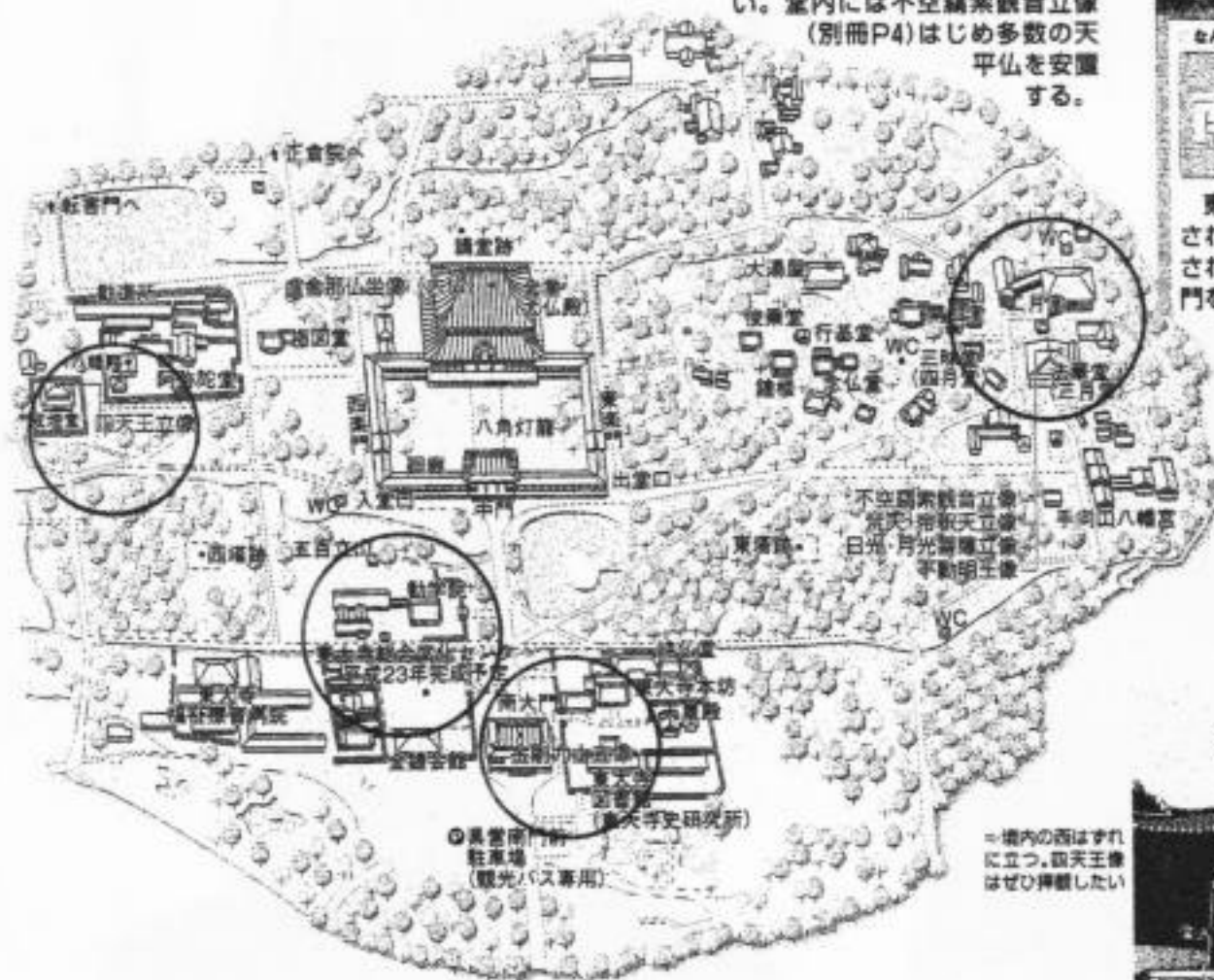
戒壇とは僧が守るべき規律「戒」を授かる場所。現在の堂は江戸時代に再建された4代目。堂内に安置された塑造四天王立像(別冊P7)は天平時代の極めて写実的な傑作として名高い。



境内の西はすれに立つ。四天王像はぜひ拝観したい

の初代別当(住職)となった良井(ろうべん)によって草創されたといわれる金鐘寺(後の金光明寺)。大和国分寺で法華堂はその本堂(後の金光明寺)であったので、その由縁でこの地に定められたのだろう。工事開始後、大仏本体の完成まで8年、主要な伽藍の完成まで15年、建設事務所である造東大寺司が廃されるまでに実に四十五年という長い長い造営であった。

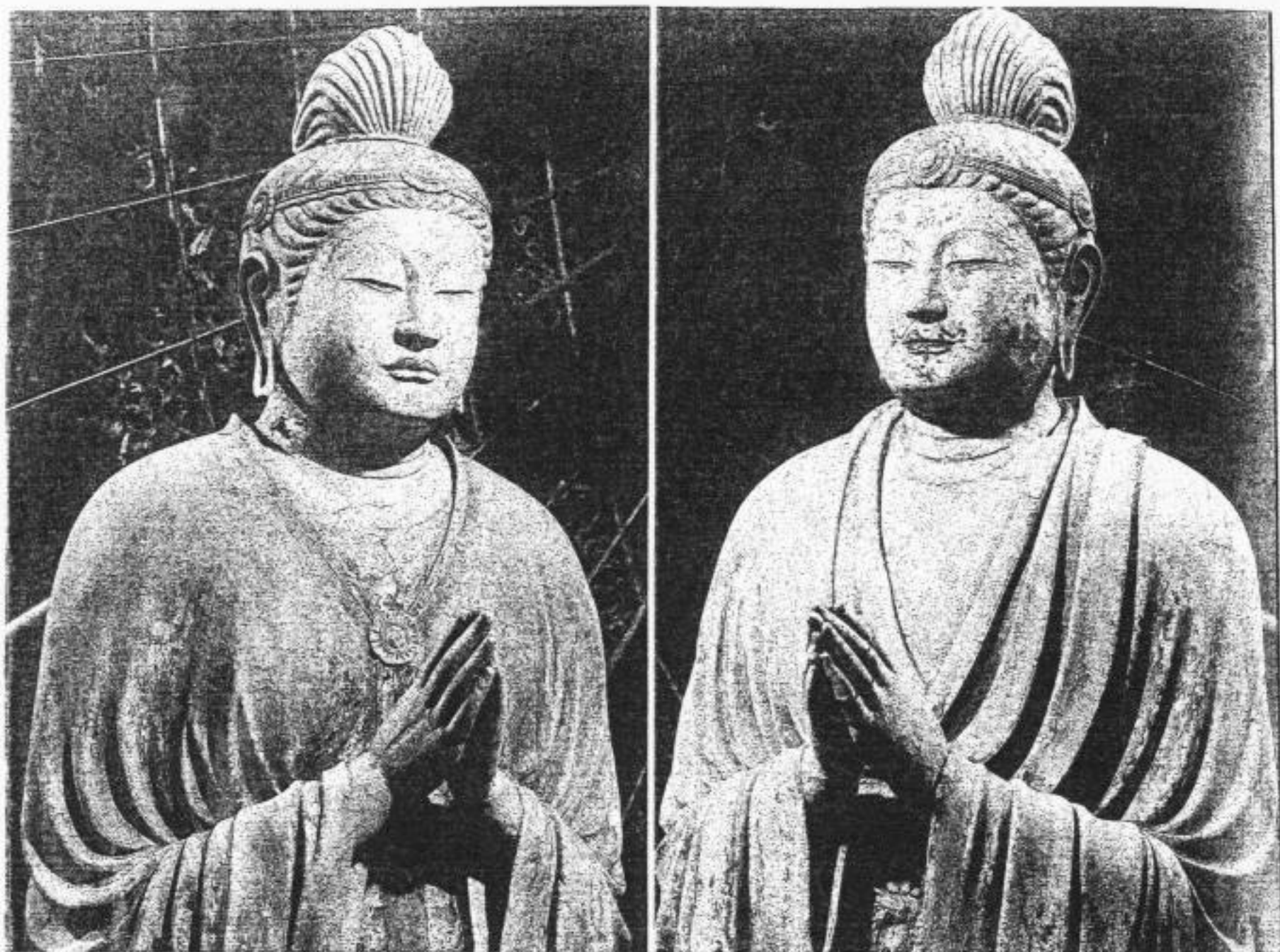
その大仏も二度の火災で大部分が失われ、天平の面影を留めるのは大仏蓮弁の毛彫、大仏殿前の灯籠、不空羅素観音像をはじめとする法華堂(三月堂)の諸仏や戒壇院の四天王像などにすぎなくなりました。











伝日光菩薩立像・伝月光菩薩立像 塑造彩色 像高：日光（右）206.0cm、月光（左）207.0cm  
天平時代（8世紀半ば） 国宝 奈良・東大寺法華堂（三月堂）

伝日光菩薩立像  
伝月光菩薩立像

東大寺

不空羼索観音像の左右足元に立つ。だが、材質や大きさが堂内の他像と違い、後世他堂から移された客仏で、その服装から見て天部像なので、梵天・帝釈天像かと思われる。合掌して、おとなしやかに祈る姿には静寂な雰囲気があふれ、端正なたたずまいのうちに高い精神性を匂わせており、天平彫刻の写実の極致ともいべき作品である。どちらかといえば、日光像は男性的な表現といえ、月光像に女性的な優しさが感じられる。



誕生釈迦仏立像 銅造鍍金 像高47.0cm 天平時代(天平勝宝4年<752>ころ)  
国宝 奈良・東大寺公慶堂

## 誕生釈迦仏立像

### ●東大寺

丸々とした童顔に笑みを浮かべ、柔らかなふくらみとくびれを持った肉付けは、いかにも幼児の表現にふさわしく、ごく自然で写実的である。その顔立ちは大仏殿前に立つ八角灯笼火袋の音声菩薩にも近く、造立当初の大仏を想像させるものがある。

付属の灌仏盤は、胴回りに山・雲・草花樹木・蝶鳥などを線刻し、正倉院宝物に通ずるものがあり、天平工芸の代表作でもある。天平勝宝四年(七五二)大仏開眼会の前日四月八日に行なわれた灌仏会(釈迦誕生を祝う法会)の本尊と考えられ、大仏にふさわしく、誕生仏中でもとくに大きな像である。





四天王像 增長天 戒壇院



四天王像 持国天 戒壇院



21 827. Shitennō Ten (持国天)



21 827. Zangliang Ten (增長天)

四天王像 国宝 戒壇院 大仏殿をはさんで、法華堂と対称の位置にある戒壇院は、天平勝宝七年（七五五）、戒律を伝えた唐僧鑑真によって建てられた。戒壇の四周には、当初銅造の四天王像を安置したが、数度の被災の間にいつしか失われたという。現在の像は鋳造で、近世に至って地蔵から移されたものである。激しい動感を表わす武神の多いなかで露骨な力の表現を避け、動きを抑えた静かな雄姿に、内に秘めた迫力を見事に表現した傑作である。日本の仏像のなかでも最高の作品として、広く親しまれている。ことに広目天像の、眉根を寄せ遙か彼方を見据える顔立ちが、高邁な哲学者の姿を思わせ、人の心を捉えてやまない。





金剛力士立像 木造彩色 像高：阿形（左）836.0cm 漢慶・定覚作、呼形（右）842.0cm 運慶・快慶作 鎌倉時代（建仁3年<1203>）  
 国宝 奈良・東大寺南大門

## 金剛力士立像

東大寺

南大門の左右に立つ仁王像。平安時代末期の兵火後の東大寺復興の最後の事業として、運慶を中心とする四人の大仏師と一六人の小工が、この巨像を六九日という短期間で仕上げたのは、運慶工房の完成した組織力を示す。細かい木寄せを用いながら全体の形を的確にとらえ、統一ある構成に仕上げた慶派仏師たちの力量のほどは、まことにみごとなものといえよう。現在は東西に向き合っているが、当初は共に南を向いて立っていた。







2

お水取りと仏像ベスト7  
 ◎ツアー H24・3・5  
 NPO法人越谷市郷土研究会





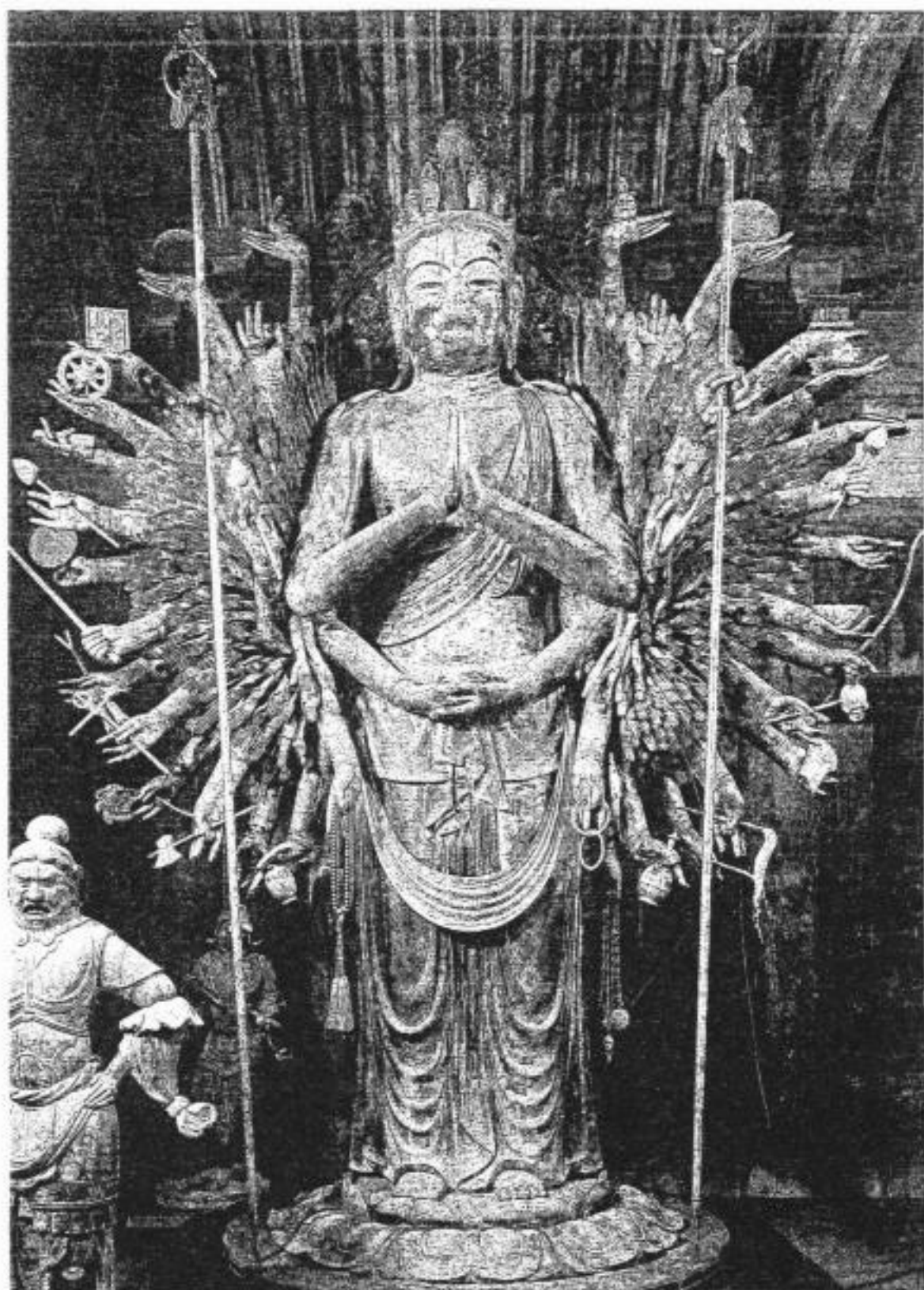


盧舎那仏坐像 脱活乾漆造像 像高339.0cm 天平時代(8世紀末) 国宝 奈良・唐招提寺金堂

盧舎那仏坐像

唐招提寺

金堂の中央に安置され、行燈で、鮮血を流して胎り困めた胎子乾漆造像。この寺の他像とは異なり、東大寺法華寺五枚の上人たちによつて造られたものによつて、表情は東大寺法華寺の梵天・摩訶天像に近く、いっそうの写真的表現がめだち、天平時代末期の造像の傾向を示している。体部に比して顔部が過大であり、一種の敬しさがめだつのは、天平時代末期から平安時代のごく初期にかけての持統白鳳雲に、作者も思われ、持統白鳳の造像といふ名が見られる。



千手観音立像 木心乾漆造漆落 像高536.0cm 平安時代(8世紀末)  
 国宝 奈良・唐招提寺金堂

## 千手観音立像

●唐招提寺

金堂の本尊盧舍那仏(29ページ)の右側に侍す五メートルを超す巨像で、いわゆる丈八(二丈八尺)像といわれるものだろう。何本かの木材を継ぎ合わせた心材に、かなり細かく像形を彫り出した上に、乾漆を盛り上げたものと思われる。あこの張った四角い顔、太めで柔らかくはあるが形式化した衣文線、寸胴ともいえる単純な肉付けの体軀など、延暦一五年(七九六)ころの作と思われる同堂内の薬師如来立像に近く、やはり同じころの作であろう。背後の脇手は当初実際に千本あったと思われるが、現在は九五三本が残っている。



国宝

# 薬師如来

唐招提寺では、本尊の向かって右の脇侍を務めるのが薬師如来。美壺は持っていないが、かつては光背に七仏薬師、日光・月光菩薩、十二神将がついていたといわれる。本尊と同じ唐様式で、ゆったりした造形。



唐招提寺 薬師如来像 (複製) 奈良県唐招提寺

【薬師如来】やくしにょらい  
安置場所：金堂  
制作年：平安時代  
素材：木心乾漆造  
発願者：不明  
製作者：如宝  
像高：336.5cm  
拝観：通常拝観可能

## ご本尊の脇を 固めるお薬師さん

### 経蔵



寺の建立以前に米蔵として使われていたもので、唐招提寺最古の建造物。17本の校木が壁を作る校倉造。この北側にはひと回り大きい宝蔵が並んで建ち、両棟とも国宝。

### 講堂



平城宮の会議場だった東朝集殿を、寺の建立に伴い移築したもの。鎌倉時代に大改修が行われたもの、平城宮唯一の遺構として貴重。弥勒如来などを安置する。国宝。

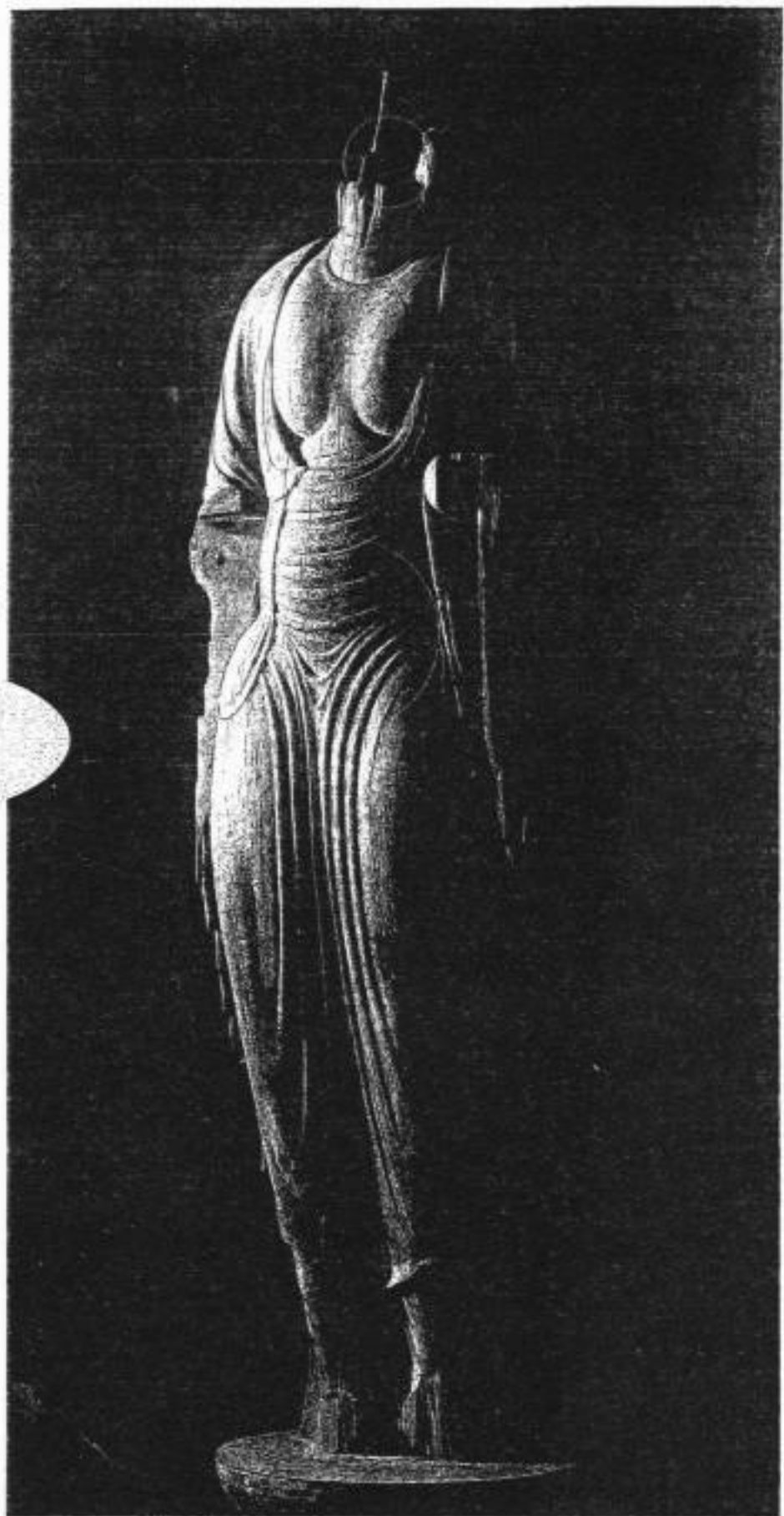
# 如来形立像

## 唐招提寺のトルソー“が”想像力をかきたてる

トルソーとは、イタリア語で胴体だけの彫像のこと。何の仏像として作られたかすら不明なので、如来形とされている。なぜ破損したのか、破損前はどのような顔だったのか……など、想像と興味は尽きない。



1970年に建設された鉄筋コンクリートの収蔵展示施設。如来形立像など多くの破損仏を含む奈良時代の木造群や、旧講堂の大日如来坐像などを安置する。「天平の甕」で知られる金堂の隅尾も、ここで見られる。



### …頭部

過去、多くの人がここにどのような頭部が乗っていたのかと想像をふくらませた

### …衣文線

頭部がないからこそ、衣文や大腿部のラインの流麗さが引き立つ

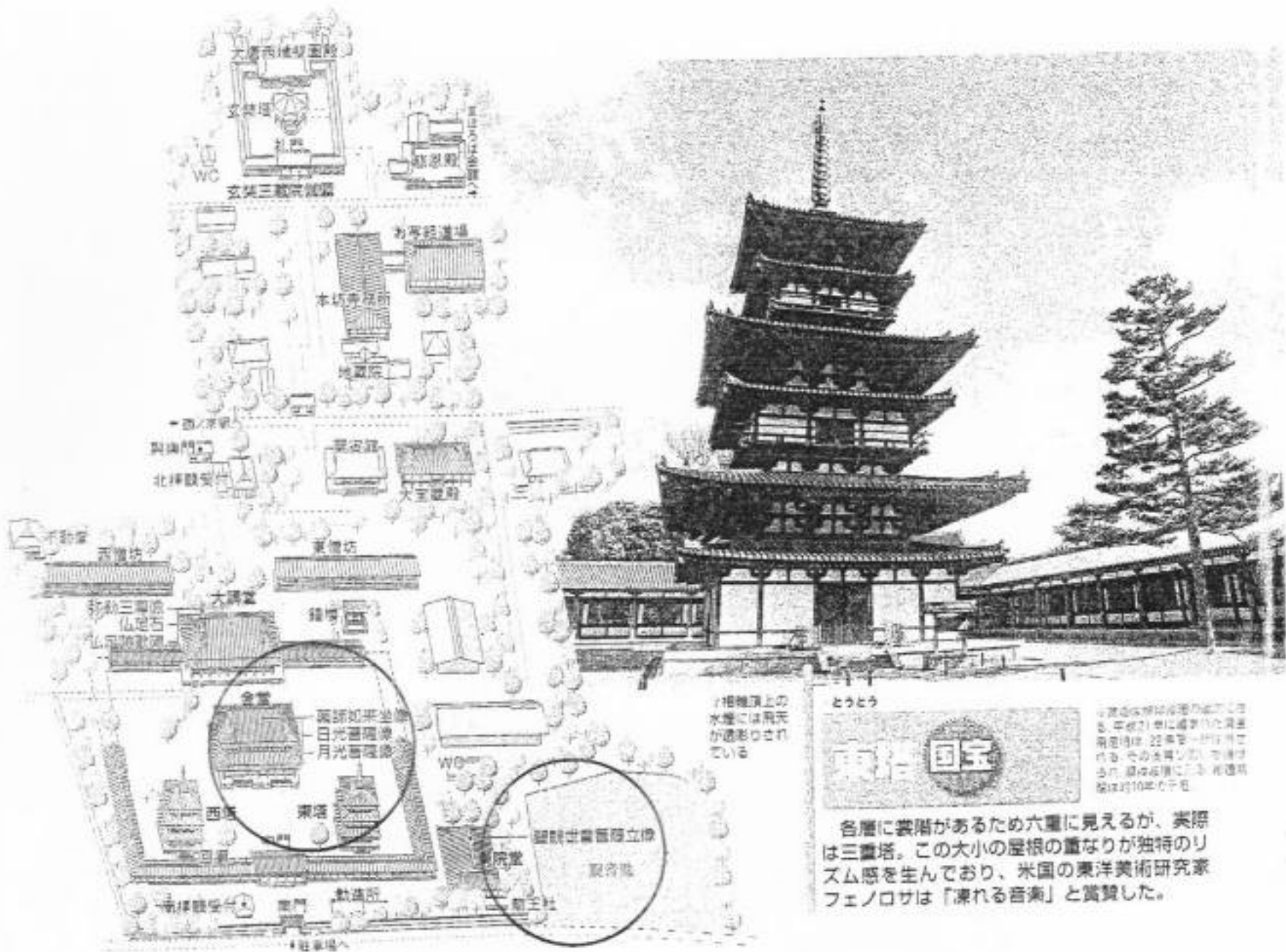


### Profile

- 【如来形立像】
- にょらいぎょうりゅうぞう
- 安置場所：新宝蔵
- 制作年：奈良時代
- 素材：桓・一木造
- 発願者：不明
- 製作者：不明
- 像高：154cm
- 拝観：通常拝観可能







塔頂上の水盤には飛天が透彫りされている



この塔は神代卷の造りである。平安21年に造られた。高さ約22メートル。塔の頂上には、透彫りされた飛天が彫られている。創建は約10世紀と見られる。

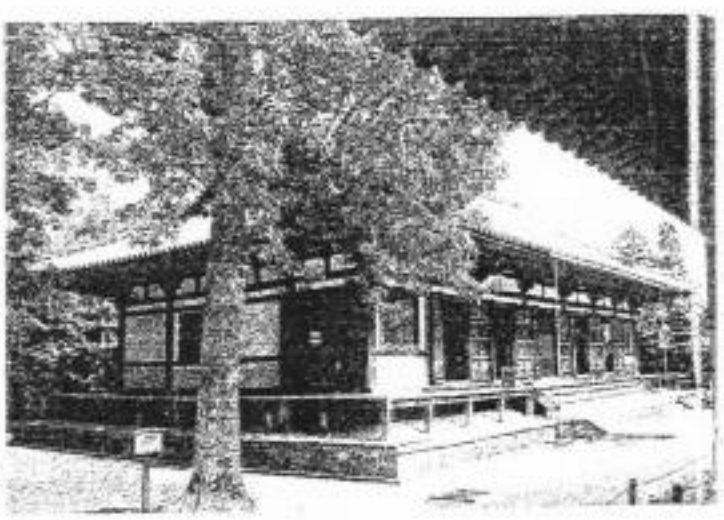
各層に裳階があるため六層に見えるが、実際は三層塔。この大小の屋根の重なりが独特のリズムを生んでおり、米国の東洋美術研究家フェノロサは「凍れる音楽」と賞賛した。

どういんどろ



回廊の東南隅近くの外側に立つ。創建は奈良時代。現在の堂は鎌倉時代の再建で、寺内の建物では東塔に次いで古い。本尊は国宝・金銅聖観世音菩薩像。若々しく爽やかな表情が印象的。

香室内親王が母元明天皇のために創建したとされる



## 薬師寺 法相宗

薬師寺は天武天皇が皇后（後の持統天皇）の病氣平癒を祈って、藤原京に建てられたが、平城遷都とともに養老二年（七一八）に現在地に移された。東西の塔・金堂・中門・回廊・講堂を配する形式は薬師寺式伽藍とよばれる。

金堂の本尊薬師三尊像（30〜31ページ）は、高い建造技術や完成された表現などから、古代彫刻の頂点を示す作例として評価を受けており、台座の文様はシルクロード由来の影響を強く受けたものである。また堂内に置かれた天平時代の仏足石も国宝に指定される。





薬師三尊像 銅造鍍金 像高：中尊255.0cm、左脇侍  
312.0cm、右脇侍309.0cm 8世紀初め  
国宝 奈良・薬師寺金堂

薬師三尊像

薬師寺

この像は7世紀末の作とし、8世紀の作ともいわれる。像の作風は初唐の影響を受けた唐風の仏相（長べいじ）であり、さらに基壇は盛唐の様式をそそいだことは確かである。袈裟の切所も手前側から自由である。衣の表現も写實的で、金銀の輝きも感じられない。顔立ちも初唐時代の像のような「面」とは異なり、上へた成人の印象もよく、顔の片側に重心をかけた、直交かきつけて、わずかに顔をひねったポーズも、まことに特徴的である。



観音菩薩立像 銅造鍍金 像高189.0cm 8世紀初め  
 国宝 奈良・薬師寺東院堂

観音菩薩立像

●薬師寺

ゆったりと構えた腕の動き、奥行きのある丸い体軀だが、直立する姿は古様である。

衣のひだは浅く左右対称で硬く、同寺金堂の薬師脇侍像(30×31センチ)のような微妙な肉どりは見られず、顔立ちも白鳳仏の童子形と異なっており、青年のようにキリリと引き締まってはいるが、なお平仏の写実とは違って、鎬立っている。

制作時期は不明だが、東院堂の建てられた養老年間(七一七―七二四)であることは、様子が中国西安の宝慶寺の十一面観音像(七〇三年)に近いことから察せられよう。







釈迦三尊像 銅造鍍金 像高：中尊36.4cm、左脇侍92.0cm、右脇侍93.9cm 飛鳥時代（推古天皇31年(623)）止利作 国宝 奈良・法隆寺金堂

### 釈迦三尊像

法隆寺

金堂の中の間に安置される。一光三尊形であり、中尊と脇侍二菩薩をすべしと云ふ。中大光背の裏に、「前年にじくたつた聖徳太子の供養のために推古天皇三十二年（六二二）に止利師が造つた」という銘文が刻まれ、造立の由来がわかる点は貴重である。

やや長めの頭、まごころない体つき、文様のような硬い衣のひたなど、写実とかげ離れた表現であるが、近寄りたたいほこの厳しさと理知的な香に満ち満ちている。中国が朝鮮時代の北魏末から東西魏のころ（六世紀後半）の影響を受けた作である。

内壁の壁画は、

昭和二四年焼失し、焼損した壁画の一部は大空庵院に展示される。

### ●西院

法隆寺は、聖徳太子が父用明天皇のために推古天皇一五年（六〇七）に創建したと伝えられるが、天智天皇九年（六七〇）に焼失した。その後、現在のいわゆる法隆寺式伽藍が再建されたと考えられる。四天王寺式の旧伽藍址は若草伽藍とよばれ、南大門東側に塔心礎が残されるが、非公開。





…光背  
本尊とはほぼ変わらない光背。銘文には607年の造立とあり、事実なら日本最古の仏像となる

# 薬師如来

…肩  
肩や膝の部分は、明らかに丸みを帯びている。本尊と見比べるとわかりやすい

本尊である釈迦如来の向かって右に坐し、単体で見ると本尊そっくりだが、微妙に丸みを帯びた体の特徴。このため、光背の銘文には釈迦如来坐像の前に完成との記述があるが、実は後にできたものとするのが現在の通説だ。

聖徳太子の父への  
思いが込められた薬師如来





阿彌陀三尊像（伝橘夫人念持仏）銅造鍍金 像高：中尊33.3cm、両脇侍各26.9cm 白鳳時代（7世紀後半） 国立 奈良・法隆寺大蔵院

阿彌陀三尊像  
（伝橘夫人念持仏）

法隆寺

光明皇后の母公、橘三千代が念持したとい  
う伝承をもつ、厨子入りの阿彌陀像である。

三尊は、蓮池の波文を浮き出した銅板から  
生い出る二本の蓮華上に安置され、背後には  
精緻な透かし彫り光背、後背には蓮華上に化  
生した人びとや化仏が浮き彫りされ、阿彌陀  
浄土のさまを表わしている。

像は体軀も手つきもしなやかで、衣も薄い。  
整った体軀や衣文線の美しいリズム、脇侍の  
腰をひねったポーズには、次なる天平時代の  
到来を予告するみずみずしさが見られる。





観音菩薩立像（夢違観音）銅造鍍金 像高87.9cm 白鳳時代  
 (7世紀末-8世紀初め) 国宝 奈良・法隆寺大宝藏院

かんのおんはさつりびつぞう  
**観音菩薩立像**

ゆめちがひかんのおん  
 (夢違観音)

●法隆寺

上半身裸形で衣も薄く、体軀の肉付けが直接感じられる。顔立ちも、小ぶりの指先も子供の愛らしさを見せるが、その肉付けに天平時代の自然さはなく、直立の姿態、鼻梁や唇などが鎚立ち、形も単純化されている点などは、このころ入ってきた初唐の様式が十分にこなしきれていないことを物語っている。

悪夢を見た時、この像に祈れば吉夢に替えてくれるというので、夢違観音とよばれる。頭部の飾り以外は一ふきで鑄出すが、台座は江戸時代の後補である。



かんんのんぼまつりゆうぼう  
**観音菩薩立像**  
(救世観音)

法隆寺

東院の中心に当たる夢殿の本尊として、厨子内に納められている。救世観音とよばれ、聖徳太子在世中に太子と等身に造られたと伝えられる。長く秘仏として守られているた

め、保存もよく、今なお金色燦然と、当初の漆塗が輝いている。体軀がやや扁平で、S字状をなす側面の形姿は金堂の釈迦三尊の脇侍（ワベージ）に近く、いっそうの厳格さと神秘性をたたえている。そのあまりの厳しさをえ、止利派とは異なる作家を想定する説もある。樟材で、本体は内割りもない、ほとんど完全な一木造である。

観音菩薩立像（救世観音）木造漆塗  
 像高197.0cm 飛鳥時代（7世紀前半）  
 国宝 奈良・法隆寺夢殿





かんのんほまつりゆきょう  
**観音菩薩立像**  
(百済観音)

法隆寺

八頭身という、極端なほどに背の高い姿がいかにも異様なので、早くから「異朝将来」つまり異国からもたらされたという伝えまで生み、「百済観音」という別称もつけられた。

止利様の像と違って、丸みのある額立ちが、小さな目鼻、浅い彫りとともに柔らかく、いかにも優しさを感ぜさせる。肩にかかる髪を波状に散らし、頭上に宝髻を持つ点も止利様にはない特色で、天衣の先端を前後に翻すのも止利様の正面観照性と異なる。樟材の一木造で、内部に背面から内判りが施されており、飛鳥時代も末期の作であろう。

観音菩薩立像（百済観音）木造彩色  
 像高209.4cm 飛鳥～白鳳時代（7世紀  
 半ば） 国定 奈良・法隆寺百済観音堂



## 多聞天像

●法隆寺

金堂の四隅にあって、仏たちを守護する武装神・四天王の一つである。本来忿怒の像だが、これはわずかに眉根を寄せるだけの表情

しか見せず、丸太をそのまま刻んだかのように置立して、後の時代の四天王とは異なる姿である。

肘を体軀に密着させる形、直線的で、ひだを階段状にたたみかける衣文表現などは飛鳥彫刻に多いが、体側に垂れる天衣が、裾近くで前方へ跳ね上がっている様子は、同寺の百済観音像(15ページ)に見

られるところでもある。

この像と同じ百済の光背裏に四人の作者の名が刻まれているが、その一人「山口大口費」は白雉元年(650)に千仏像を刻んだと記録されており、像の制作もこれに前後する時期と考えられる。像身は内割りもない樟材の一木造、光背と足下の邪鬼も同様である。

多聞天像(四天王立像のうち) 木造彩色  
像高133.3cm 飛鳥-白鳳時代(7世紀半ば)  
国宝 奈良・法隆寺金堂





本堂

現在の本堂は、高松宮妃殿下の発願で1968年にコンクリートで建立されたもの。戦国時代の寝殿造の形式に従い、後を前にして建てられた。

TEL) 0745-75-2106  
 住) 生駒郡斑鳩町 法隆寺北1-1-2  
 時) 9:00~16:30 (10月1日~3月20日は~16:00)  
 休) 無休  
 料) 拝観500円  
 付) なし  
 交) JR法隆寺駅からバスで4分、中宮寺前下車徒歩3分  
 map) P77

Toshiki Aoki

法隆寺夢殿のある東院伽藍の、さらに東に隣接して建つ中宮寺は、聖徳太子が母である穴穗部間人皇后(あなほべのはしひと)のこうこうのために創建した尼寺。当時は、いまより500m東にあり、現在地に移ったのは天文年間(1532~1555)のこと。現在も女性の住職が法灯を守り続ける聖徳宗の古刹だ。主な堂宇は本堂のみだが、この堂内に坐すのが、飛鳥の微笑み。とよばれる笑みをたたえた菩薩半跏像。かつては鮮やかに彩色されていたというが、いまは下地の黒漆が露出し、肌は黒光り。「かえって落ち着いた気高さを感じさせるね」と、山下先生も見惚れる仏像だ。

(C) 法隆寺

# 中宮寺



:: Profile

【菩薩半跏】ほさつはんか  
 安置場所: 本堂  
 制作年: 飛鳥時代  
 素材: 檜  
 発願者: 不明  
 製作者: 不明  
 像高: 坐高87.9cm  
 足先までの総高126.1cm  
 拝観: 通常拝観可能

寺伝では如意輪観音とされるが、如意輪観音信仰は奈良時代以降のものであり、弥勒菩薩は半跏思惟姿で表わされる場合が多いため、この像も弥勒菩薩と考えられる。ただし、国宝指定名は菩薩半跏像。飛鳥仏とは思えないほど丸みを帯びているが、口元のアルカイックスマイルは、粉れもなく飛鳥仏のもの。

国宝  
**【菩薩半跏】**  
 いつまで眺めても飽きない  
**”飛鳥の微笑み”**

中宮寺には東側にも入り口があるが、受付があるのは西側の入り口。法隆寺夢殿からは歩いてすぐ



## 【仏像ひと口コラム】

Q 半跏座ってなに?  
 A 両足の甲をそれぞれ反対の腿に乗せて座る結跏趺坐に対し、片足だけを乗せるスタイル。特に左足を垂れ、右足を左腿に乗せ、右手の指で頬に触れる姿を半跏思惟と呼ぶ。

Temple Map

Tel) 0745-75-2686  
住) 生駒郡斑鳩町  
三井 1570  
時) 8:00~17:00  
(12月~2月末は  
~16:30)  
休) 無休 料) 拝観  
400円 P) 10台  
(無料) 交) JR法隆寺  
駅からバスで4分、  
中宮寺前下車徒歩15分  
map) P77

法輪寺創建の詳細は不明だが、聖徳太子の病  
氣平癒を願い、その子である山背大兄王が建立  
したとする説もある。講堂には飛鳥時代から平  
安時代にかけての仏像が多く収蔵されており、  
仏像めぐりには外せない寺だ。

# 法輪寺

《《ほうりんじ》》

# 法起寺

《《ほうきじ》》

日本最古の三重塔が世界遺産に登録されてい  
る法起寺は、法輪寺同様に山背大兄王が建立し  
たといわれる。簡素な収蔵庫に安置された本尊  
の十一面観音はガラス越しの鑑賞になるが、そ  
れでも堂々とした存在感を感じさせる。

Temple Map

Tel) 0745-75-5559  
住) 生駒郡斑鳩町  
大字同半 1873  
時) 8:30~17:00  
(11月4日~2月21日は  
~16:30)  
休) 無休 料) 拝観300円  
P) 5台(無料)  
交) JR法隆寺駅から  
バスで8分、法起寺前  
下車すぐ  
map) P77

重要文化財

## 【十一面観音】



十一面観音  
生駒郡斑鳩町  
安部郡内：安部  
制作年：7世紀末  
素材：石  
所在地：生駒郡斑鳩町  
法起寺  
開創：不明  
修築：不明  
保存：生駒市教育委員会

重要文化財

## 【十一面観音】



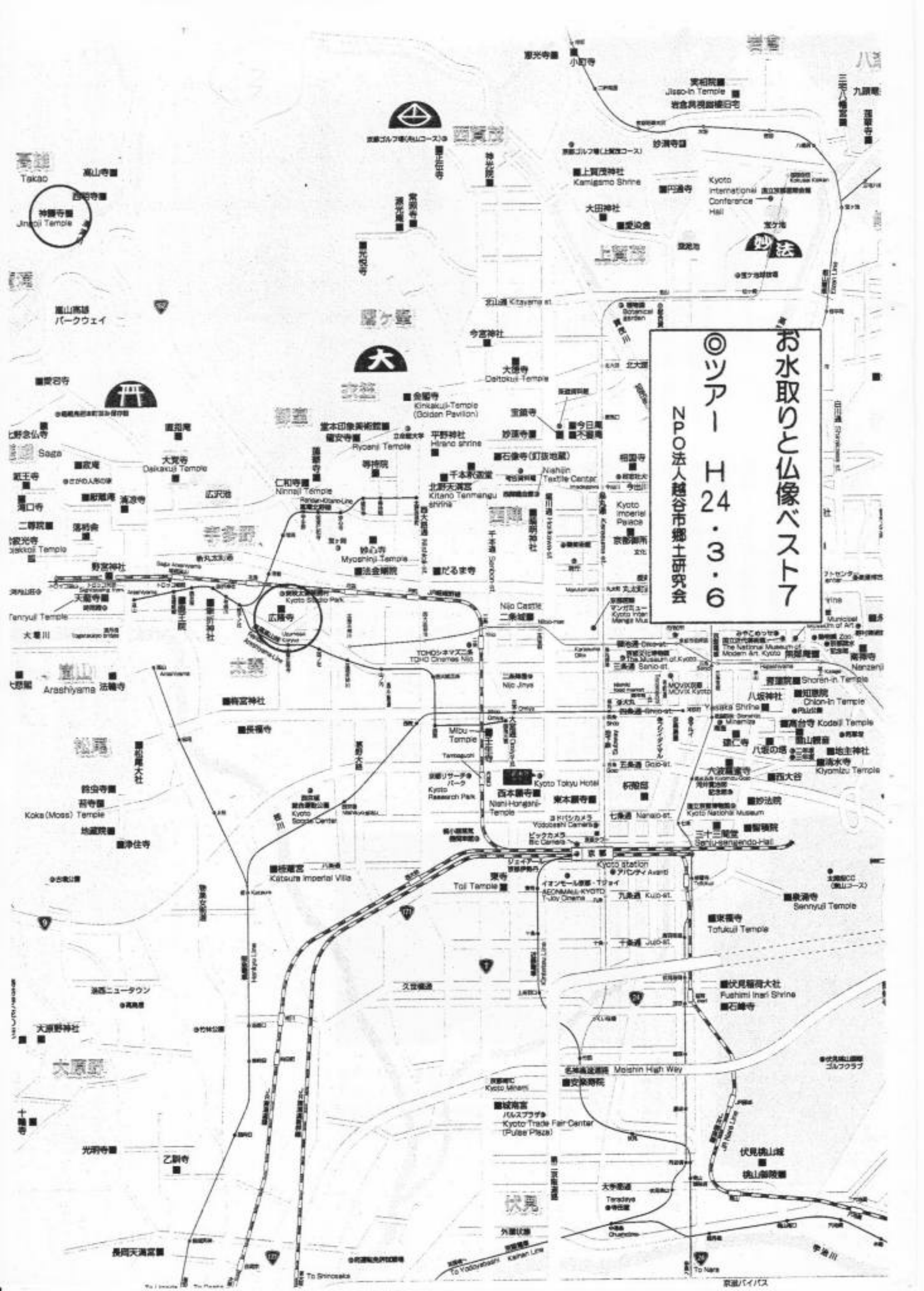
十一面観音  
生駒郡斑鳩町  
安部郡内：安部  
制作年：7世紀末  
素材：石  
所在地：生駒郡斑鳩町  
法起寺  
開創：不明  
修築：不明  
保存：生駒市教育委員会

講堂の本尊。4m近い  
体軀が、2m弱の他の諸  
仏の中でひとときわ大き  
く、大きな目や太い眉、  
厚い唇が力強さを感じさ  
せる大作。蓮華を挿した  
水瓶を左手に持ち、長い  
右手を膝まで伸ばした  
姿は、オーソドックスな  
十一面観音のスタイル。



法輪寺の十一面観音と同  
じく、仏像の材料として  
珍しい杉の一木造で、表  
面の金箔もよく残ってい  
る。一般に観音像が手に  
持つ水瓶には汚れをさら  
う霊水が入っているとさ  
れ、水瓶に挿した蓮華は、  
煩惱に汚されていないと  
いうことを象徴する。





**お水取りと仏像ベスト7**  
**ツアー H24・3・6**  
 NPO法人越谷市郷土研究会

Takao  
 高山寺  
 神護寺  
 Jindai Temple

嵐山  
 パークウェイ

大覚寺  
 Daikokuji Temple

七野念仏寺  
 Shichinoenbutsu-ji

大覚寺  
 Daikokuji Temple

二尊院  
 Nishu-in

天光寺  
 Tenkouji Temple

野宮神社  
 Nomiyama Shrine

大堰川  
 Tagarakuji Stream

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

法輪寺  
 Hoshin-ji

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

大

# 十一面観音立像

観音寺

切れ長で微妙なカーブを描く眼、小ぶりの鼻や口、ふっくら張る頬、乾漆特有の柔らかく自然に翻る天衣や腰裳の衣文、豊かな胸と

引き締まった腰。写実的で天平時代の理想美をよく示し、全体に次ページの聖林寺像に似ている。条帛や天衣の形式、腰裳のひだなどがそれだが、聖林寺像が完熟した姿、いわば一時代の終末を表現しているのに、これは青年のような若々しさに満ちており、来たるべき時代へ上昇してゆく力強さが感じられる。

十一面観音立像  
木心乾漆造漆箔 像高173.0cm  
天平時代(8世紀末)  
国宝 京都・観音寺本堂







### ●観音寺本堂

奈良時代の創建を伝えられるが、中世の戦乱で壊滅し、現在は十一面観音像を安置する本堂と庫裏、鎮守社などを残すだけとなった。現在の「本堂」は昭和の再建。



### ●地祇神社

観音寺の境内にある鎮守社。社殿は板葺の流造で、互葺の覆殿の中に鎮座する。



### ●観音寺三重石塔

観音寺のあたりはかつて百濟人の根據地であったことから、佛化人文化の影響を感じさせる石塔。

## 「伊

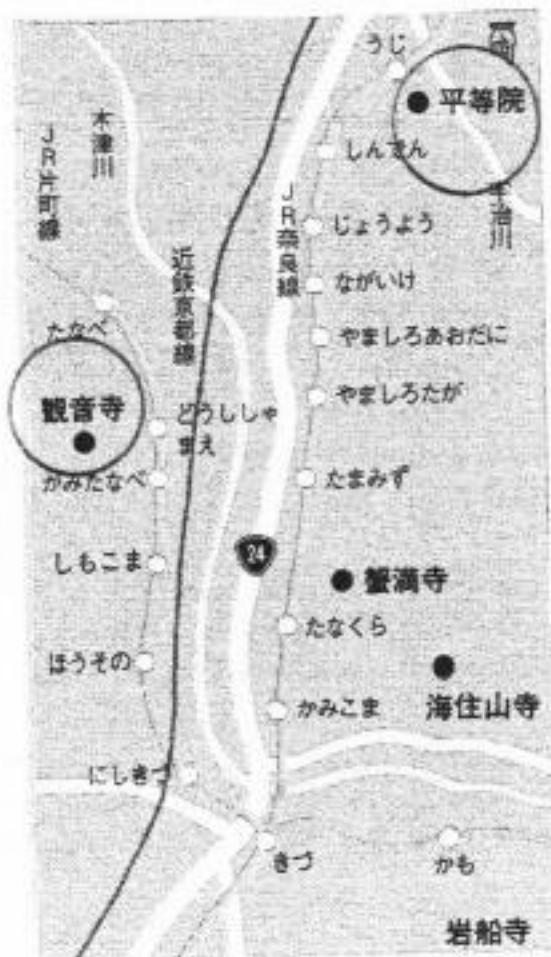
賀の山中に発する木津川は、南山城の溪谷を縫いつつ西へ流れる。笠置、加茂を経て平野に出ると、景色は一変し、ゆるやかな大河となつて、北上する。その川筋には、点々と、十一面観音が祀られている。「(木津川にそって)」

「JR片町線・近鉄京都線の「三山木駅」から西へ約四キロ。天平時代に作られた国宝「十一面観音立像」(77頁)を安置する「観音寺」は、茶畑が取り囲むおたやかな里山の中にひっそりと佇んでいる(76頁)。寺伝では天平十六年(744)に観音寺の前身にあたる寺院に安置され、その後幾世を経て、天平の息吹を今に伝えている。

観音寺は「普賢寺大御堂」ともい、天武天皇の勅願により義淵僧正が「親山寺(筒城寺)」を建立。良弁僧正が伽藍を増築し、「息長山普賢教法寺」と号して、実忠和尚を第一世とした。興福寺の別院として藤原氏の庇護により隆盛したが、中世に伽藍を焼失し、現在は「本堂」(●)だけがひっそりと立っている。

観音寺の十一面観音は、しばしば聖林寺の十一面観音(●)と比較されるが、厳しい眼差しで体勢にも抑揚が激しい聖林寺像に比べて、若々しく華やかな気配が満ち満ちている。

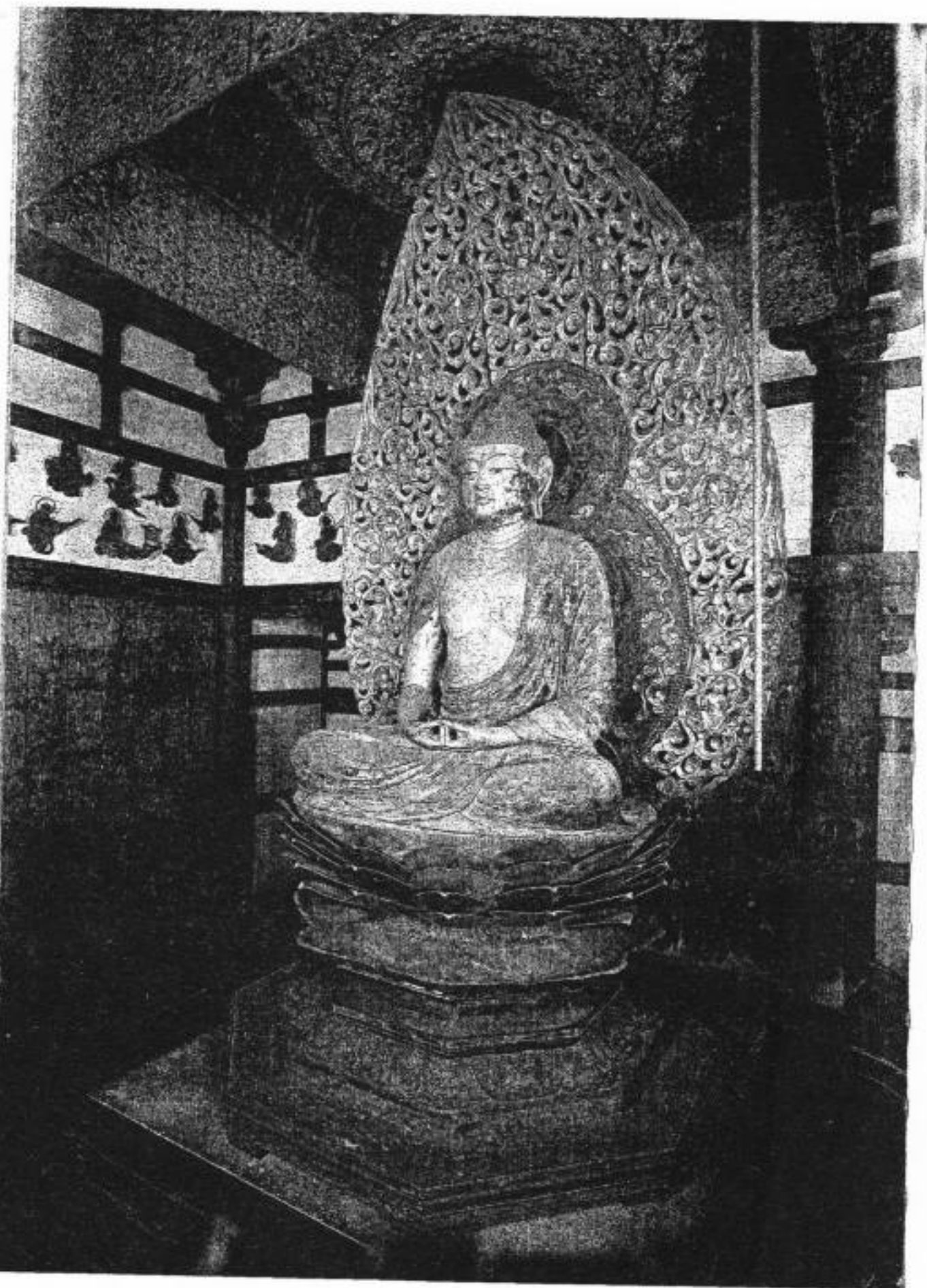
本堂の前には澄賢・石塔寺の塔を思わせる古い「三重石塔」(●)があり、西側の丘の上に



は鎮守社の「地祇神社」(●)が建つ。社伝では、もと観音寺の北東の山手にあつたが、天文年間(1532-1555)に現在地に遷ったという。祭神に「御霊天皇」として継体天皇を祀るとあり、このあたりにあつたとされる継体天皇の「筒城宮」との関連が推測される。

白洲正子は、十一面観音が安置された「天平十六年」は、聖武天皇が信樂の甲賀寺で、大仏建立を発願されたのと同じ年だということに注目している。そして、伊賀・甲賀と結ぶ木津川の水系、山伝いの陸路などを考慮して「普賢寺は単なる中継地や聯絡事務所ではなく、それは遷都の安全を祈る重要な寺院だったのでないか。」と想像した。

つまり、ここでも、十一面観音は、水の神として木津川のほとりに祀られたと言うのだ。



## 阿弥陀如来坐像

あみだにょらいごそう ●国宝 ●平安時代後期(1053年) ●本造・流造 ●像高278.8cm ●定朝作  
理想的な仏像は、拝するものの心の中になんの抵抗もなく素直に入ってくる。仏師定朝のつくり出した阿弥陀像のスタイルはそのような明快さをもち、なおかつ顧主の美的嗜好をも満足させるものであった。定朝様といわれるその様式は永く仏づくりの理想とされた。

## 平等院

びやうどう

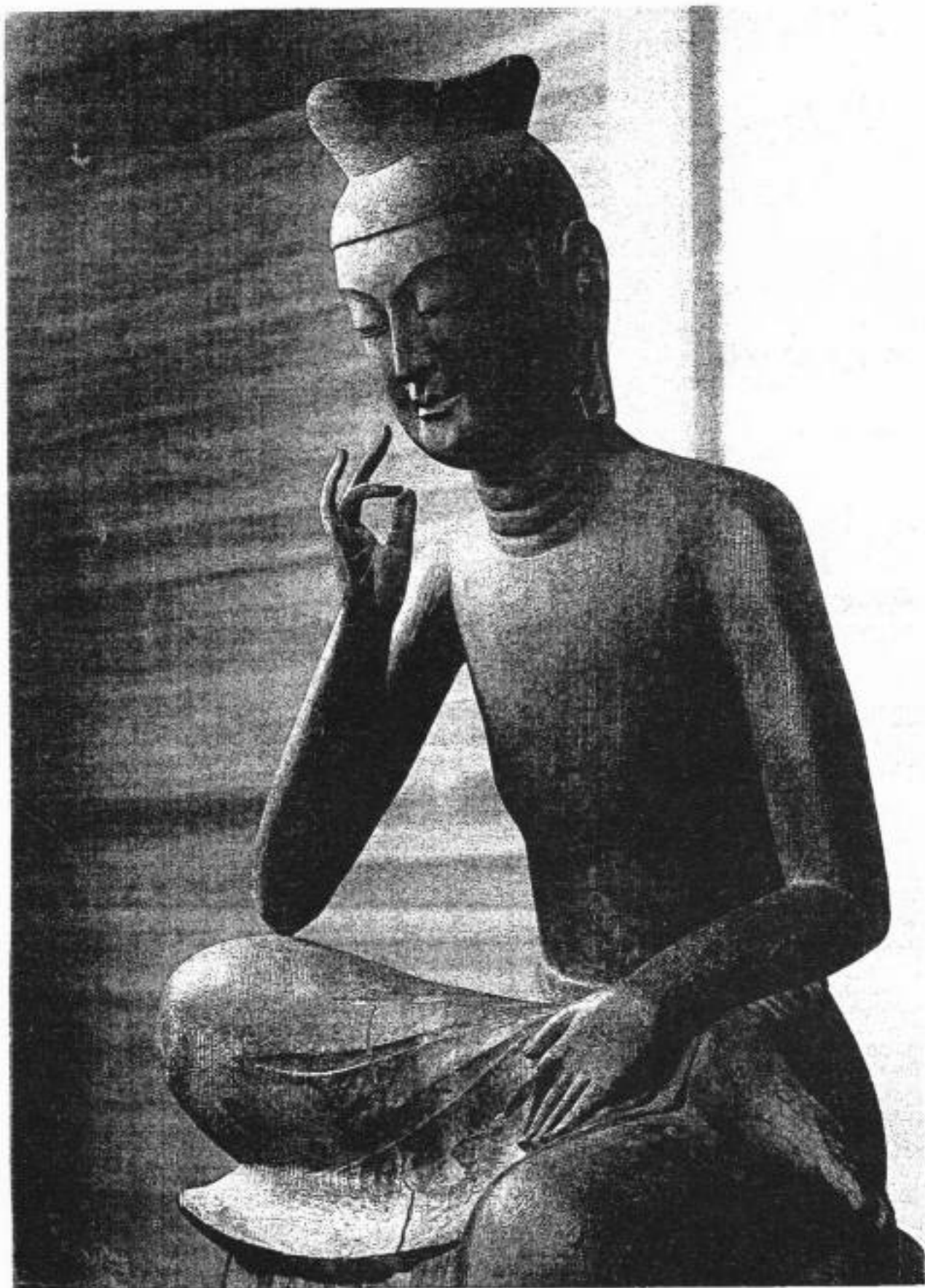
平等院はもと藤原道長の別荘であり、それを子の頼通が寺に改め、平等院と称した。

鳳凰堂は天喜元(一〇五三)年に頼通が建立した。平等院内の阿弥陀堂のことで、阿字池を前にして翼廊を左右に伸ばした姿が鳳凰に見えることや、大棟に鳳凰をいたたくことから鳳凰堂と呼ばれる。末法の世に極楽浄土を現出しようとして造営された平等院は、多くの堂塔伽藍が立ち並び豪華を誇ったといわれる。大半の建物を失ったが、池に映る鳳凰堂全体と内窓に浮かぶ阿弥陀如来に、今も、藤原朝の貴族が描いた浄土が偲ばれる。



鳳凰堂 国宝(世界遺産)





### 弥勒菩薩半跏像 (宝冠弥勒)

みろくはさつはんかそう (ほ  
うかんみろく) ●国宝●三田  
時代(鎌田)●木造・漆箔●高  
123.2cm  
頬杖をつき足を組むという自  
由なポーズはシッダールダ  
(釈迦の出家前の名)の慈悲の  
姿から発しているが、朝鮮半  
島では弥勒として信仰され  
た。秦河勝が聖徳太子より  
隔った像との観が一般的。

## 広隆寺

こうりゅうじ

京都の人々には大秦のお太子  
さんとして親しまれている。古  
仏の多い京都有数の寺として名  
高い。なかでも有名なのは国宝  
第一号となった弥勒菩薩像で、  
創建当時の本尊とも伝えられて  
いる。この像は渡来氏族である  
秦氏が聖徳太子より賜ったも  
の。これを本尊として推古天皇  
一一二(六〇三)年に建立された広  
隆寺は、京都でもっとも古い寺  
の一つ。

かつては蜂岡寺、秦氏寺、  
葛野寺、大栗寺などと呼ばれ、  
秦氏の氏寺であった。





弥勒菩薩半跏像（宝髻弥勒）  
 木造漆箔 像高66.3cm  
 飛鳥～白鳳時代  
 （7世紀半ば）  
 国宝 京都・広隆寺新靈宝殿

## 弥勒菩薩半跏像

（宝髻弥勒）

●広隆寺

この像は、同寺の有名な宝冠弥勒（16ページ）と同じ木製でも、飛鳥時代の一般の像と同じように樟材を用いており、頭上には冠がなく、中央に大きな宝髻（もとどり）を戴いている。さらに目鼻立ちも、目の開きも大きく、高い鼻、厚手の唇と、すべて大ぶりであるが、どことなく暗く、憂いを含んだ表情を示していて、「泣き弥勒」という異称さえ持っている。

体つきも宝冠像が胸・腹と、ごく薄手であるのに対して、これは丸みをそなえていながら、まるで金銅仏を思わせるように硬く、強く、全体的に宝冠像とは対照的な表現である。作者もまったく異なるものと思われる。

両肩から垂れ、体を離れた天衣など薄さを強調する部分に、皮革を用いている点も珍しい。飛鳥時代としても、白鳳時代に近い七世紀半ばの作である。





薬師如来立像

神護寺

和氣清麻呂が八世紀末、延暦年間に河内国（大阪府）に造った神護寺の本尊で、その後寺が神護寺と合併したので、像も京都・高雄の地に移された。

眉・眼・唇以外はほとんど彩色のない素木の美しさを生かした一木の、豊かな体軀を、鋭い刀法で仕上げるのは、大きな螺髪、鋭いまなざし、分厚い唇の魁偉な容貌とともに、平安時代初期彫刻に共通する特色ではあるが、この像ではとくに、その傾向がいちじるしい。

薬師如来立像  
木造素地 像高170.0cm  
平安時代（8世紀末）  
所在 京都・神護寺本堂

# 神護寺

じんごじ

周山街道の途中、高雄山の山腹にある。清滝川の溪谷を降り、そこから長く険しい石段を登ったところが仁王門である。境内には書院、鐘楼、毘沙門堂、大師堂、金堂、多宝塔といった幾多の歴史を秘めた名刹らしい建物群が建っている。

東寺や高野山金剛峰寺とともに真言密教の寺院として古い歴史をもつこの寺は、和氣清麻呂建立の和氣氏の氏寺・高雄山寺が前身。最澄や空海が灌頂を行った寺で、唐から帰国したばかりの空海が大和四(八〇九)年、一四年間住持を務めた。その後、天長元(八二四)年、清麻呂建立の神願寺が合併され、神護国祚真言寺と称したのがこの寺号のはじまりである。



## 薬師如来立像

やくしにょらいりゅうざう ●国宝 ●奈良時代 ●木造 ●像高170.6cm  
神護寺の前身だった高雄山寺の本尊と思われる像。奈良時代以来、山を根拠地に活動する僧たちにより、山に寺が築かれることが相次いだ。そこに祀られる仏像は、神仏習合思想を背景に、慈悲相とは異なる威相が多い。顔部から台座の蓮肉まで檜の一本造り。



境内の西側にある地藏院からは、山々を縫って流れる清滝川の溪谷、錦雲溪が見える。紅葉の高雄としても有名な秋の神護寺は見逃せないだろう。



# 郷 土 研 究 会

## 「お水取りと仏像ベスト7」ツアー・ニュース

NO.4 H24.2.28

○今回のツアーで見る仏像（◎）と、見られるかも知れない仏像（○）の作られた時代

### ◎飛鳥時代 <仏教伝来の538年ころから大化の改新645年まで>

◎釈迦三尊立像	法隆寺	○薬師如来立像	法隆寺
○救世（くぜ）観音立像	法隆寺	○百済（くだら）観音立像	法隆寺
○四天王立像	法隆寺	○菩薩半跏像（伝・如意輪観音）	中宮寺
○宝冠弥勒半跏像	広隆寺	○宝髻弥勒半跏像	広隆寺

### ◎白鳳時代 <大化の改新645年から平城京遷都710年まで>

◎薬師三尊立像	薬師寺	○夢違（ゆめちがい）観音立像	法隆寺
○旧東金堂本尊仏頭	興福寺	○阿弥陀三尊立像（伝橋夫人念持仏）	法隆寺

### ◎天平時代 <平城京遷都710年から平安京遷都794年まで>

◎不空羂索観音立像	東大寺	◎戒壇院四天王立像（塑像）	東大寺
○盧舎那仏立像	唐招提寺		
○伝・日光菩薩立像		○伝・月光菩薩立像	東大寺
○八部衆立像（阿修羅など）	興福寺	○十大弟子立像	興福寺
○十一面観音立像	観音寺		

### ◎貞観時代 <平安京遷都794年から遣唐使廃止894年まで>

◎薬師如来立像	神護寺		
○薬師如来立像	唐招提寺	○千手観音立像	唐招提寺

### ◎藤原時代 <遣唐使廃止894年から平家滅亡1184年まで>

◎阿弥陀如来座像	平等院		
○雲中供養菩薩像（51軀）	平等院		

### ◎鎌倉時代 <平家滅亡1184年から南北朝の合一1333年まで>

◎金剛力士立像	東大寺	○天燈鬼・竜燈鬼立像	興福寺
○金剛力士立像	興福寺	○四天王立像	興福寺

# 興福寺

法相宗の大本山である興福寺は、藤原氏という一族の氏寺でありながら、東大寺や薬師寺などの国家寺院と肩を並べた大寺院。仏像界の超人気者、阿修羅像を筆頭に多くの国宝仏を所蔵しており、仏像を語る旅では決して外してはならない寺院だ。

TEL 0742-22-7756  
 住 奈良市登大路町48  
 時 東金堂・国宝館  
 9:00～17:00  
 休 無休 料 境内自由  
 (南金堂拝観500円)  
 国宝館拝観500円  
 ※2010年3月1日～  
 600円) P167頁(有料)  
 交) 近鉄奈良駅から  
 徒歩5分 map) P28、110

## 八部衆

左二手  
 各手の持物は失われてお  
 り、左二手には水晶と日輪  
 を持っていたといわれる

左三手  
 二手の持物だったと考えら  
 れているのは武器。左は刀  
 鉈

右二手  
 高く掲げた右の二手には月  
 輪を持っていたと考えられ  
 ている

右三手  
 やはり武器である鉈のよう  
 なものを持っていたといわ  
 れる



## 阿修羅

二つの顔に六本の腕という異形の阿修羅は、根絶の眷属である八部衆の一人で、本来は戦闘マニアの悪神。けれども興福寺の阿修羅像は、気品を漂わせる美しい少年像。日本を代表する仏像のひとつだ。

仏像界のスーパー・ハースターは

# 憂いを帯びた美少年

### 銅(くしろ)

騎輪のようなものは銅と呼ばれる装身具。リボンのようになっているオシヤレ

### 裳の花文様

裳に見られる花文様は、所々に咲く花で宝相華(ほうそうげ)といわれる

### 裳

武装者の八部衆の中で、阿修羅像のみ禿身に裳をまとった姿で人間に似







…左の顔

向かって左の顔は唇をかみ、何かの決意を表わすかのよう



…右の顔

向かって右側の顔は、まだ悟りきれず、迷いの中にあるかのような表情



…足

板金網と呼ばれる草履のようなものを履き、海辺を表わす須弥座の上に立つ



…手

左右の第一手は合掌する。又手(やしゅ)とも呼ばれる合掌はインドの敬礼法



…正面の顔

迷いを脱して悟りに達したのか、正面の表情には穏やかなひたむきさが

【仏像ひとココラム】

Q阿修羅ってなに？

A 古代インドの悪神で、帝釈天に何度も戦いを挑んだ勇ましい戦闘神。両者が激しく戦う様子から、修羅場という言葉が生まれたほど。釈迦の説法を受けて仏教に帰依してからは、護法を担う善神となった。

Qもとは真赤な色だった？

A 現在もうっすらと彩色が認められるように、興福寺の阿修羅像はかつては赤く染まっていた。戦闘神としての激しさを強調するためだったと思われる。奈良国立博物館には、赤色で彩色された復元構造物がある。

:: Profile

【八部衆】はちぶしゅう

安置場所：国宝館

制作年：734年

素材：乾漆造

発願者：光明皇后

製作者：将軍万福

像高：阿修羅 153.4cm

五部淨 50.0cm

沙羅婆 154.5cm

鳩摩荼 150.5cm

乾闥婆 148.0cm

迦楼羅 149.0cm

緊那羅 152.4cm

摩睺羅伽 155.4cm

拝観：通常拝観可能

Where? 国宝館



舊居の食事の場だった食堂の遺構の上に、1959年に建設された鉄筋コンクリート製の耐火式宝物収蔵庫。食堂の外観を復元した建物で、八部衆立像や十大弟子像など、主だった彫刻や絵画、工芸品などを収蔵・展示する。



Kofukuji Temple

奈良公園周辺



蛇  
蛇を柄杓化した神といわれるため、蛇が頭上から背後に回り、左肩にかかる

沙羯羅



五部浄

…冠  
頭上には、鼻の欠けた象の冠をかぶる。また、興福寺の八部衆像の中で、唯一胸部から下も消失している

【仏像ひとココラム】

Q「高年ってなに？」  
A 古代インドで信仰されていた神々が、仏教に取り入れられたもので、仏法を守るのが彼らの役目。興福寺ではこのメンバーだが、寺によって顔ぶれは異なる場合もある。なお、八部衆は正統には八人ではなく、八つの種族を表わしている。

Q「ゴキウって異形なの？」  
A 八部衆はもともと仏教の教えに基づいたものではなく、いわば異教の神々の集まり。容姿に関する言い伝えもさまざまで、不明な部分も多い。そのため、仏教に取り入れられてからも釈迦如来などとは異なる異形のままだといわれる。

…炎髪  
毛を直立させたヘアスタイルは炎髪と呼ばれ、十二神将や明王にも多い

●● 興福寺

インドからやってきた、  
仏教を守る  
異形の少年群像

武装した姿で、仏法を守護する八部衆。興福寺の像は、阿修羅をはじめ、あどけない顔立ちをした少年像が多いところが特徴だ。「ジャンニーズ軍団だね」と山下先生も目を細めるほど、可愛さたっぷりだ。



Kofukuji Temple

…歯と牙  
鳩槃荼は死者の魂を吸う悪鬼。開いた口から牙をのぞかせた表情がそれを物語る



鳩槃荼

奈良公園周辺





かろう  
迦楼羅

…とさか

インド神話では巨大な鳥とされているため、鳥の頭部と人間の耳を持つ

…領巾 (ひれ)

肩からかけたスカーフ状のもの。害虫などを払う呪力を持つとされた

…獅子冠

インド神話では音楽の神、翼にかみつくような獅子の冠が特徴

…閉じた目

八部衆像で唯一目を閉じる。鼠疫のシフから、かなり強く閉じていると思われる



…ヒゲ

ヒゲをたくわえた姿により八部衆唯一の老相とされるが、正確な年齢はもちろん不明

ひばから  
畢婆迦羅



…天衣 (てんね)

甲冑の上に巻き、左右になびく絹の布。観音菩薩なども身にまとう

まだある必見ポイント  
五重塔



高さ50.8mで、日本では京都、東寺の塔に次いで二番目に高い五重塔。5回の焼失を繰り返し、1426 (応永33) 年頃に再建された。国宝。

東金堂



かつて五重塔とともに回廊で囲まれていた仏殿で、現在の建物は1415 (応永22) 年の再建。堂内の須弥壇には、薬師如来、日光・月光菩薩、四天王像などが並び、国宝。



乾闥婆



角

人間でも神でもないという半神性を表わすためか、額に角を持つ姿

第三眼

眉間の窪みは三つめの目。この像のもっとも異彩な部分だ

国宝

## 【十大弟子】

釈迦につき従った  
個性豊かな  
10名の阿羅漢



目健連

舍利弗

【十大弟子】じゅうたいでし  
安置場所：国宝館  
制作年：743年  
素材：乾漆造  
発願者：光明皇后  
製作所：持統万福  
像高：舍利弗 152.7cm  
目健連 148.0cm  
須菩提 147.5cm  
富楼那 148.7cm  
迦旃延 144.3cm  
羅睺羅 149.4cm  
拝観：通常拝観可能

まだある必見ポイント  
北円堂



興福寺の創建者、藤原不比等の聖堂のため、721(養老5)年に建造。現在の建物は1210(承元4)年の再建で、国宝。堂内に安置された運慶作の弥勒仏坐像、無著菩薩・伎観菩薩立像も国宝。

像名	高さ
目健連	148.0cm
舍利弗	152.7cm
須菩提	147.5cm
富楼那	148.7cm
迦旃延	144.3cm
羅睺羅	149.4cm

Q&amp;A

## 【仏像ひと口コラム】

Q 十大弟子ってなに？

A 生涯に1250人もいたという釈迦の弟子の中で、特に戒律を守り、布教に努めた十人の高弟を指す。説法をさせたら強一。超能力では誰にも負けないなど、それぞれに得意分野がある。

## ●興福寺

修行を通じて仏にもっとも近づいた人間を、阿羅漢と呼ぶ。釈迦の弟子である十大弟子も、この阿羅漢の一員だ。顔触れは八部衆と

同様、寺や経典によって異なり、興福寺では現在6体の像が残されている。各像に個性があるので、一体一体をじっくり見比べたい。



迦旃延

羅睺羅

須菩提

富楼那







### …3つの目

不空羅索観音は3つの目に8本の手を持つ三目八臂の異色

### …光背

48本の光背が光輝くイメージを演出する。透かし彫りも精緻

### …手に持ったロープ

絹本と野はれるロープは古代インドの野麻



国宝

## 【不空羅索観音】

…Profile

【不空羅索観音】  
ふくろけんさくかんのん  
安置場所：法華堂  
制作年：747年頃  
素材：脱活乾漆造  
発願者：不明  
製作者：不明  
像高：351cm  
拝観：通常拝観可能

まだある必見ポイント  
二月堂



お水取りの名で親しまれる修二会が行われる建物。当初、修二会が旧暦2月に行われていたため、二月堂の名がある。高台に建つ舞台造で、現在の建物は江戸時代の再建。



すべての衆生を救い取る

# 縄持つ番人

国宝

# 四天王

数ある四天王像のなかでもス  
ター級なのが、戒壇堂の四天王。  
写真などでもおなじみの、等身大  
の四人衆だ。「こういう人、いるよ  
ね」と山下先生が感心するほどリ  
アルで、天平の彫刻のなかでも屈  
指の完成度を誇っている。



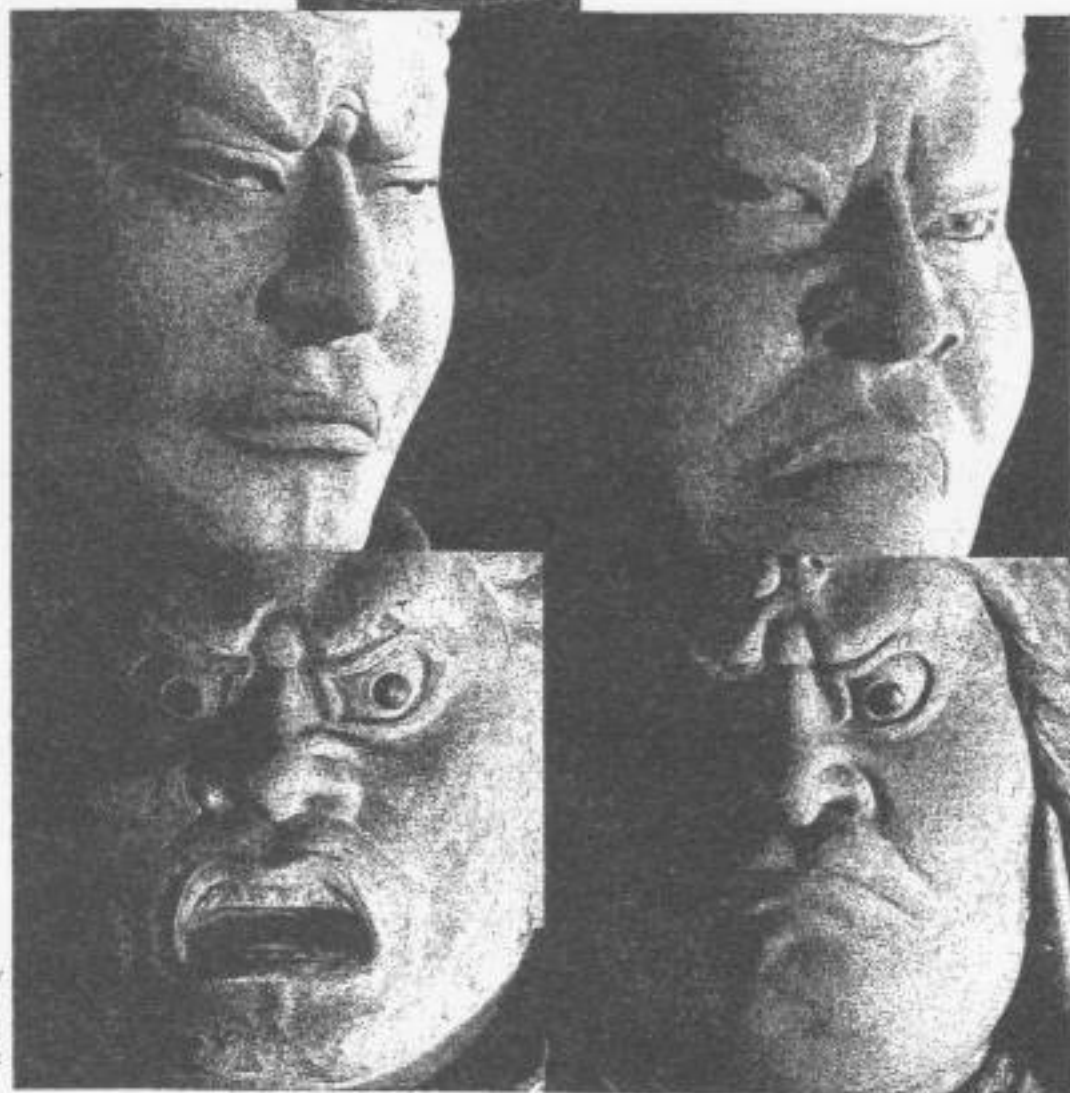
たもんでん  
多聞天

北方の守護神で四天王のリー  
ダー格。釈迦の遺骨を納めた宝  
塔を掲げ、仏教の守護神である  
ことを示す。堂内の向かって右  
奥に立ち、隣の広目天と左右対  
称に作られることも多い



こうもくてん  
広目天

「普通じゃない目を持つ者」と  
いわれる西方の守護神。堂内  
の向かって左奥に立ち、右手  
に筆、左手に巻物を持つこと  
が多い。内に怒りを秘めたよ  
うな表情が印象的



Where? 戒壇堂

日本初の授戒の場として、鑑  
真が建立した戒壇院の中に  
建つ堂。当初の戒壇院にはほ  
かにも講堂や僧坊など講堂が  
あったが、焼失を繰り返して、  
戒壇堂と千手堂のみが江戸時  
代に復元された。内部中央に  
多宝塔を祀る。



じこくてん  
持国天

東方を守り、「国を支える者」  
とされる守護神。通常は堂内  
の向かって右手前に安置され  
る。武器を持ち、片足をあげ  
て邪鬼の頭を踏みつけるスタ  
イルが一般的。兜をかぶるも  
のも多い



# リアルにして迫力満点。

## 四天王像の完成形!



せうちようてん  
增長天

堂内の向かって左手前にいる  
南方の守護神。本尊の手前  
に立ち、威嚇するかのような動  
きのある姿をし、隣の持国天  
と左右対称の姿をしているこ  
とも多い

- Profile
- 【四天王】してんのう
  - 安置場所：戒壇堂
  - 制作年：奈良時代
  - 素材：塑像
  - 発願者：不明
  - 制作者：不明
  - 像高：持国 152cm  
增長 65cm  
広目 163cm  
多聞 165cm
  - 拝観：通常拝観可能



## 参 考 書

### ◎3月4日分

- るるぶ情報版・奈良大和路 JTBパブリッシング編・刊 10.2
- 日本の仏像 100選 佐藤昭夫監修 主婦と生活社刊 02.5
- 奈良大和路の仏像 佐藤昭夫監修 JTB出版販売センター刊 97.10
- 国宝4 彫刻I 富樫 譲編 文化庁監修 毎日新聞社刊 92.11
- 誰も知らない東大寺 筒井寛秀著 小学館刊 06.11

### ◎3月5日分

- タビリエ・奈良大和路 JTBパブリッシング編・刊 06.11
- るるぶ情報版・奈良大和路 JTBパブリッシング編・刊 10.2
- 日本の仏像 100選 佐藤昭夫監修 主婦と生活社刊 02.5
- 仏像ワンダーランド奈良(JTBのMOOK) JTBパブリッシング編・刊 09.11
- 国宝4 彫刻I 富樫 譲編 文化庁監修 毎日新聞社刊 92.11
- 奈良大和路の仏像 佐藤昭夫監修 JTB出版販売センター刊 97.10

### ◎3月6日分

- 京都ガイドまっぴ 京都 東急ホテルのパンフレット
- 京都 仏像を訪ねる旅 伊東史朗監修 講談社刊 96.4
- 日本の仏像 100選 佐藤昭夫監修 主婦と生活社刊 02.5
- 国宝4 彫刻I 富樫 譲編 文化庁監修 毎日新聞社刊 92.11





# 東大寺修二会

奈良が誇る伝統行事のルーツに迫る!

## みどころ・ポイント

東大寺お水取りのルーツと言われる笠置寺を訪ね、修二会の発祥や由来を笠置寺住職より解説いただきます。東大寺では手向山八幡宮上司権宮司より、二月堂、遠敷神社、飯道神社などをご案内いただきます。今年で1261回を数える「お松明」をご拝観いただきます。



お松明イメージ 提供:奈良県観光協会

**B-0311 日帰り(昼食付)**

■旅行日/平成24年3月3日(土)・4日(日)・5日(月)・6日(火)

■会費/おひとり 7,000円

【コース】各のりば=笠置寺(住職による解説)=茶がゆ御膳の昼食…東大寺(二月堂、遠敷神社、飯道神社)…東大寺二月堂修二会(お水取り)セミナー…二月堂(18:00頃到着)修二会・お松明拝観後、現地解散(お松明は19:00から約20分間(10本))

※歩きやすい服装でご参加下さい。

※当日は非常に気温が冷え込むことが予想されますので、防寒具の準備をおすすめいたします。

※バスガイドは同行しませんが、添乗員が同行します。

※バスのお座席は、当日ご案内いたします。

東大寺二月堂修二会(お水取り)セミナー

場所:東大寺総合文化センター 金鐘ホール

3月3日(土)・4日(日)

東大寺長老 文学博士

森本公誠 氏  
(予定)

3月5日(月)・6日(火)

奈良国立博物館 学芸部長

西山 厚 氏  
(予定)

### 記念品

厄除けストラップ、修二会ガイドブックを記念品としてお渡しいたします。

のりば	学園前北口	近鉄奈良駅ラインハウス前
出発時間	9:40	10:10



# 唐招提寺

## 国宝金堂平成大修理のあゆみ



写真：渡辺 剛

唐招提寺は奈良時代、天平宝字3(759)年、平城京の右京、和上が新田部親王の旧地を賜って創建された鑑真和上の私寺から始まります。先ず平城宮内の朝集殿を賜って法を説くべき講堂とし、諸堂が整えられました。和上が遷化(763年)した後、和上とともに来朝した二世法載、三世義静を継いだ中央アジア系の碧眼の僧、如宝の時代に、伽藍の中心である金堂は完成しました。

国宝金堂はこれまで4回の大修理を受けましたが、平成7(1995)年の阪神淡路大震災を契機にして行われた調査により、構造上の欠陥も指摘され、屋根裏に補強材を追加する構造補強などの解体修理を行いました。また、年輪年代法による測定の結果、軒の木材が天応元年(781)に伐採されたものと分かりました。これは、金堂の建立年代にかかわる重要な発見でした。

金堂大修理に伴い国宝の盧舎那仏、薬師如来像および千手観音像の巨大な乾漆仏も造像以来、初めて堂外に出て修理されました。これらの修理により金堂及び諸尊の威容を取り戻すことができました。

10年間多くの方々のご縁と熱意をいただき、創建1250年にあたる平成21(2009)年秋に国宝金堂平成大修理の落慶法要が無事執行されました。これまで長年にわたり物心両面でご協力いただいた有縁の皆様、ここに衷心より感謝申し上げます。

合掌





# 国宝金堂平成大修理

西暦年	西暦月	建築	仏像
1998	6	金堂修理調査工事着手	
2000	1	金堂素屋根建設着手	薬師如来像搬出 (奈良国立博物館へ寄託)
	3		仏像修理所建設着手
	4		盧舎那仏・千手観音像解体着手
	8		盧舎那仏・千手観音像から搬出、修理着手
2001	4	金堂解体修理着手	
	8	金堂屋根瓦おろし着手	
2002	4		梵天・帝釈天・四天王像修理着手
2003	3	平成の鴈尾制作	盧舎那仏・千手観音像 第一期修理完了
	10	金堂解体調査完了	
2004	1	金堂基壇発掘調査開始	
2005	3	金堂組立工事着手、 立柱式	梵天・帝釈天・四天王像修理完了
2006	7		奈良国立博物館から 薬師如来像搬入、修理着手
2007	3	金堂屋根瓦葺完了	
	8	平成の鴈尾を載せる	
2008	3	金堂素屋根解体完了	三尊第二期修理着手
	4		三尊堂内搬入完了、組立開始
2009	6	金堂修理完了	
	10	国宝金堂平成大修理完了	



# 唐招提寺金堂の歴史

西暦年	年号	仏堂	仏像
759	天平宝字三	新田部親王の旧地を戒院となす (唐招提寺創建)	
760	天平宝字四	平城宮の東朝集殿を移して 講堂を造営する	
763	天平宝字七	鑑真和尚上陸(七十六歳)	
781	天応元	金堂造営中(軒の木材がこの年 伐採される)	
810	大同五	五重塔建立をもって伽藍が整う	
1185	文治元		地震により 千手観音像が倒れる
1256	康元元	金堂修理	盧舎那仏像を修理
1266	文永二		千手観音像を修理
1270	文永七	金堂修理	千手観音像供養
1282	弘安五		薬師如来像の修理が 成り、開眼供養
1294	永仁二		盧舎那仏修理供養
1323	元享三	金堂修理 鴈尾(東方)を補作	
1692	元禄五	將軍徳川綱吉、白銀五百枚を 施入 金堂の修理を始める	千手観音像修理
1695	元禄八	綱吉の母、桂昌院、戒壇再建の ため黄金七百両寄進	
1899	明治三十二	金堂解体修理完成	
1917	大正六		千手観音・盧舎那仏・ 薬師如来像修理完成
1919	大正八		薬師如来像の左掌から 銅銭三枚発見
1972	昭和四十七	講堂解体修理完成	
1994	平成六	防災設備完成	
2000	平成十二	国宝金堂平成大修理	盧舎那仏・薬師如来・ 千手観音像修理完成



# なら仏像館 Nara Buddhist Sculpture Hall 展示会場案内図

●国家 National Treasure ●重要文化財 Important Cultural Property

H23.12.27



⑥ ●木造不動明王坐像 正寿院  
Seated *Fudo Myōō* (Sk. *Acala*)  
Shōju-in



⑦ ●銅造菩薩半跏像 神野寺  
Seated *Bosatsu* (Sk. *Bodhisattva*)  
with one leg pendant Kōno-ji



⑧ ●木造十二神将立像のうち未将 室生寺  
J. *Hissujishin*, sign of Ram, One of the  
Standing Twelve Divine Generals  
Murō-ji



⑨ ●木造薬師如来坐像 当館  
Seated *Yakushi Nyorai*  
(Sk. *Bhaisajyaguru*)  
Nara National Museum



⑤ ●木造菩薩半跏像 文化庁  
Seated *Bosatsu* (Sk. *Bodhisattva*)  
with one leg pendant  
Agency for Cultural Affairs



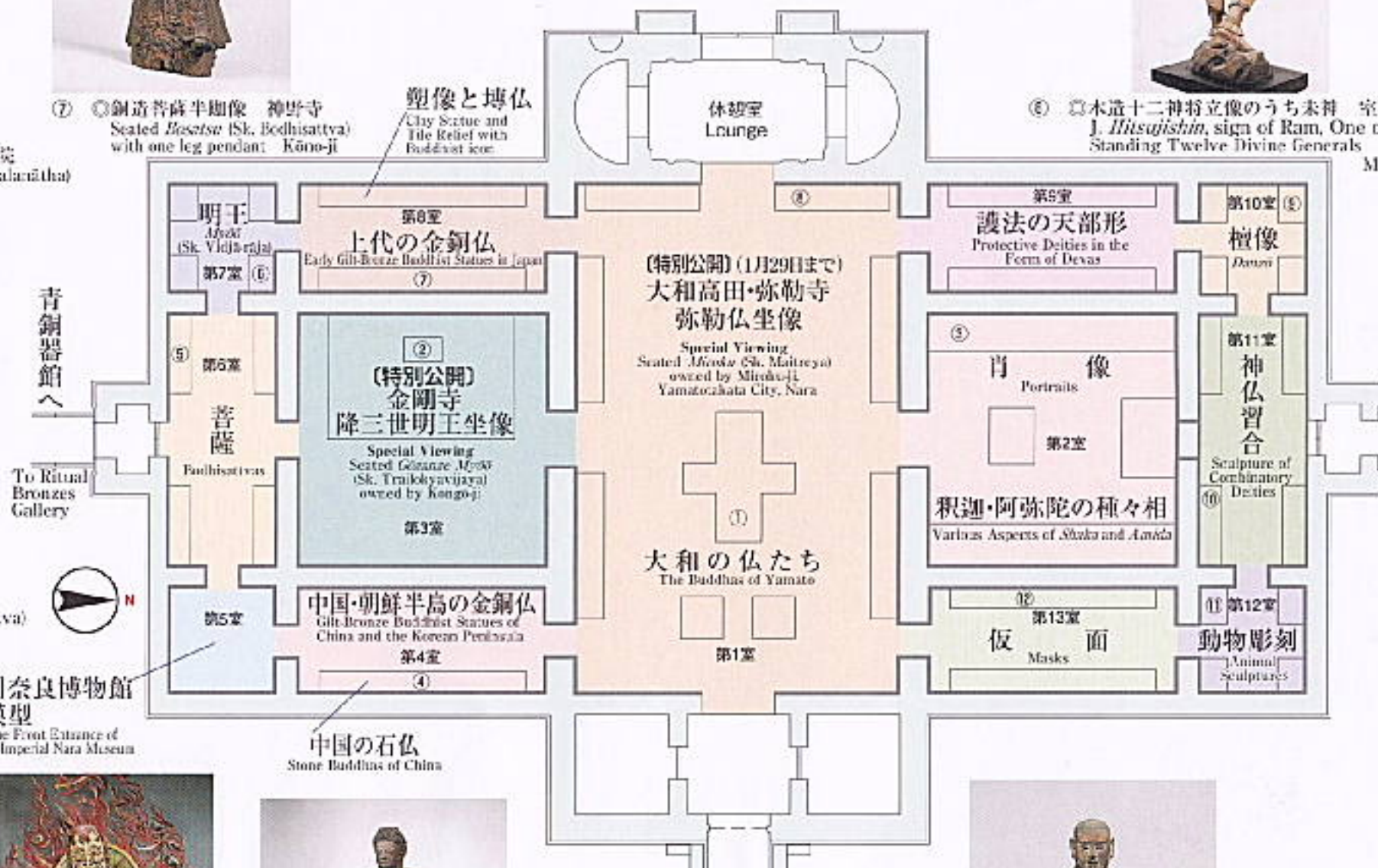
④ ●石造十一面観音  
菩薩立像 当館  
Standing Eleven-headed  
*Kannon*  
(Sk. *Ekādāśamukha*  
*Avalokiteśvara*)  
Nara National Museum



② ●木造降三世明王坐像  
金剛寺  
Seated *Gōzanzō Myōō*  
(Sk. *Trailokyavijaya*)  
Kongō-ji



① ●木造薬師如来立像 元興寺  
Standing *Yakushi Nyorai*  
(Sk. *Bhaisajyaguru*)  
Gangō-ji



青銅器館へ  
To Ritual  
Bronzes  
Gallery



旧帝国奈良博物館  
本館模型  
Model for the Front Entrance of  
the Former Imperial Nara Museum

中国の石仏  
Stone Buddhas of China

休憩室  
Lounge

〔特別公開〕(1月29日まで)  
大和高田・弥勒寺  
弥勒仏坐像  
Special Viewing  
Seated *Micōda* (Sk. *Maitreya*)  
owned by Mitsu-ji,  
Yamatotakata City, Nara

大和の仏たち  
The Buddhas of Yamato



③ ●木造法相六相像のうち  
伝神像 興福寺  
Attributed to Shin'ei, One of the Six  
Patriarchs of the Hossō School  
Kōfuku-ji



⑩ ●木造男女神坐像のうち  
女神 当館  
Seated Female Deity  
Nara National Museum



⑪ ●木造獅子 当館  
*Shishi* (Lion)  
Nara National Museum



⑫ ●木造舞楽面 散手 手向山八幡宮  
*Bugaku* Mask for the role of *Sanjo*  
*Tamukeyama-hachimangō*



聖徳太子二三九〇年御遠忌記念

# 法隆寺展

いま伝えたい  
「和」の精神、  
太子のこころ。  
法隆寺の古代から  
現代までの至宝  
三三〇点余りを一堂に。



聖徳太子奉養像  
室町時代

2012年  
3月3日(土)→20日(火・祝)  
日本橋高島屋8階ホール

入場料(税込)=一般800円、  
大学・高校生600円、中学生以下無料

※ご入場時間=午前10時~午後7時30分(8時閉場)、  
最終TICKET(火・祝)は午後5時30分まで(6時閉場)。

主催=法隆寺、日本経済新聞社

後援=テレビ東京

学術協力=奈良国立博物館

 **Takashimaya** TOKYO  
www.takashimaya.co.jp

増長天立像  
平安時代

封国天立像  
平安時代

Horyuji  
Special  
Exhibition

聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺展 [入場割引券] ■一般800円(700円)/大学・高校生600円(500円)/中学生以下無料 ■本券で2名様まで( )の割引料金にて、ご入場いただけます。



聖徳太子は混沌とした古代日本に彗星のごとく登場し、「和」の精神を根本とした政治や文化など多方面で活躍し、わが国の基礎を築いた永遠のヒーローです。  
太子が創建した奈良・法隆寺は世界最古の木造建築群を誇り、太子を慕う人々の思いや信仰が1400年にわたって集積し、仏教美術の一大宝庫となりました。  
1390年の御遠忌を記念した本展では、法隆寺に伝わる聖徳太子像をはじめとする多彩な彫刻や絵画、工芸、染織、書跡など130点余りの至宝を集め、その美をご堪能いただけます。  
名品に表れた太子の精神に触れながら、今日を生きる心の糧を感じていただければ幸いです。



聖徳太子二歳像  
鎌倉時代



聖徳太子像(水鏡御影)  
鎌倉時代



聖徳太子像(唐本御影)  
園竹法載筆  
江戸時代

### 第1章

## 太子信仰の美術

聖徳太子像や聖徳太子絵伝など、太子信仰を背景に制作された彫刻や絵画、書などを展覧します。



法隆寺如意輪起并流記  
寶形巻(部分)  
江戸時代

# 法隆寺展

聖徳太子二三九〇年御遠忌記念

Horyuji  
Special  
Exhibition



### 第2章

## 伝世した 多彩な寺宝

法隆寺に伝わる仏像、荘厳具、供養具、装具の中から選りすぐり、上代以来、太子信仰とともに歩んできた法隆寺の多彩な寺宝の数々をご紹介します。

大日如来坐像  
(円空仏)  
江戸時代



天目蓋  
(天目台60付蓋)  
室町時代



牛王像  
鎌倉時代



### 第3章

## 近現代の 太子信仰の美

明治10年代以降、古美術調査や金堂壁画模写事業などから近現代の彫刻家、画家、工芸家、書家と法隆寺や聖徳太子との関わりが深まり、そのことは作家の新たな創造の糧となりました。そのような中から生まれた絵画、彫刻、書などをご紹介します。

百濟観音堂  
奉納数華  
林功筆



百濟観音像  
後藤義男筆

法隆寺 大野玄妙管長 講演会のご案内

題目=日本の「和」(なかむ)

◎3月4日(日)午前11時30分から(先着100名様)/日本橋高島屋8階エクセレントルーム

◎参加費=無料 ※ご参加の際には整理券が必要です。整理券は3月4日(日)25日午後10時から展覽会会場入口にて配布いたします。

 **Takashimaya** TOKYO  
www.takashimaya.co.jp

聖徳太子1390年御遠忌記念 法隆寺展 [入場割引券] ■一般800円(700円)/大学・高校生500円(500円)/中学生以下無料 ■本券で2名様まで( )の割引料金にて、ご入場いただけます。





東大寺盧舍那佛坐像

没後20年  
入江泰吉の

東大寺

Commemoration of 20 years after his death  
Todaiji Temple of the Taikichi

2012年1月2日(月・休)〜4月15日(日)

【イベント案内】※すべて無料

- 高畑芸術サロン「切り絵」展 作家:西村幸枝  
会期:1月2日(月・休)〜1月15日(日)
- 高校生の見た奈良大和路〜飛鳥編〜  
会期:1月24日(火)〜1月29日(日)
- 平成23年度写真講座作品展  
会期:2月7日(火)〜2月12日(日)
- 高畑フィルム写真倶楽部作品展  
会期:2月14日(火)〜2月19日(日)
- 高畑デジタル写真倶楽部作品展  
会期:2月21日(火)〜2月26日(日)I部  
2月28日(火)〜3月4日(日)II部  
3月6日(火)〜3月11日(日)III部
- 花の盛りかたワンポイントアドバイス  
期間:3月13日(火)〜4月15日(日)  
解説:3/17(土)、18(日)、20(火・祝)

- 主催: (財)ならまち振興財団・入江泰吉記念奈良市写真美術館
- 協力: 東大寺
- 開館時間: 午前9時30分〜午後5時(入館は午後4時30分)
- 休館日: 月曜日(但し、1月2日、1月9日は開館)、1月10日(火)
- 観覧料: 一般500円/高校・大学生200円/小・中学生100円/  
団体(20名)2割引/毎週土曜日 小・中・高校生無料/  
奈良市在住の70歳以上の方無料/障がい者手帳・療育手帳・  
精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方無料
- 作品解説: 第2・第4土曜日午後2時から
- 駐車場: 1時間まで無料

入江泰吉記念  
奈良市写真美術館  
The Taikichi Memorial Museum of Photography Nara City  
〒630-3301 奈良市高畑町005-1 TEL.0742-22-3811 FAX.0742-22-8722  
http://www1.kcn.ne.jp/~narecomp/



次回展覧会予定 入江泰吉 白濱展「奈良大和路 春夏秋冬」  
会期:2012年4月21日(土)〜7月8日(日)

●交通のご案内 1日・近鉄奈良駅216円先着払い(車で「阪石(たけしん)道」下車、東へ徒歩約10分、新薬師寺参道、近鉄大塚原駅から徒歩約20分、  
近鉄高畑駅から徒歩約50分、近鉄大和郡高畑駅から徒歩約20分(大和バス・大和バス高畑線1)

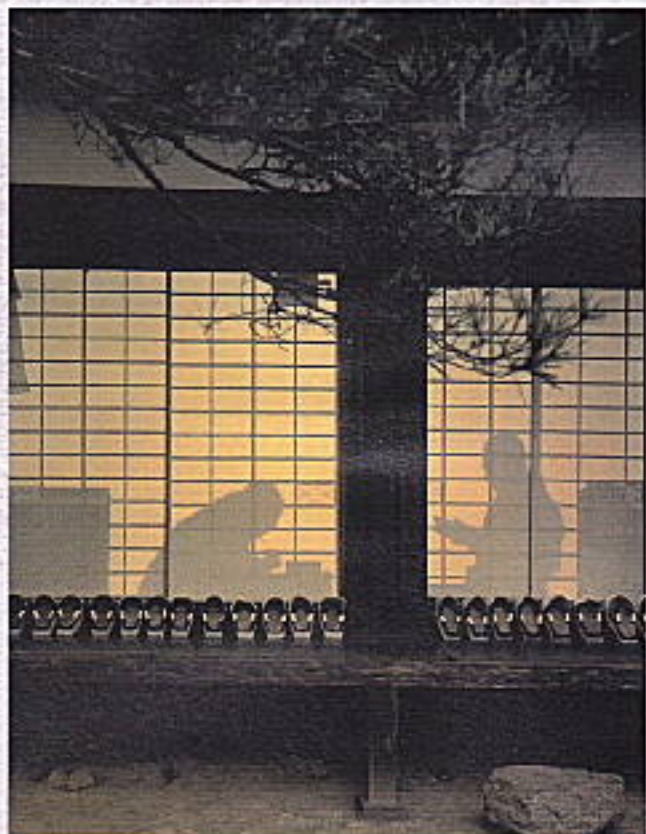




東大寺城塙院広日天立像



二月堂春宵



お水取 葎の朝火坊



大仏殿遠望(昭和20年代後半)

入江泰吉が奈良大和路の写真家として再起を果たした地が、幼少期を過ごした思い出深い東大寺でした。「私は東大寺のお導きによって、写真家になれたのだ」とのちに語るように、東大寺を中心に展開する運命の巡りあわせが入江の写真家人生を決定付けました。

そのひとつが、東大寺三月堂前庭に置かれた「戦利品」として、仏像などの文化財が持ち去られる」という噂でした。入江は、その時あらためて自分は写真家であり、そうなる前にせめて記録しておかなければならないと決意します。また、東大寺観音院住職であった上司海雲をにじめとする良き理解者、友人との出会いによって、芸術家としての本能が自覚め、次第に奈良大和路の撮影に没頭して行くのです。

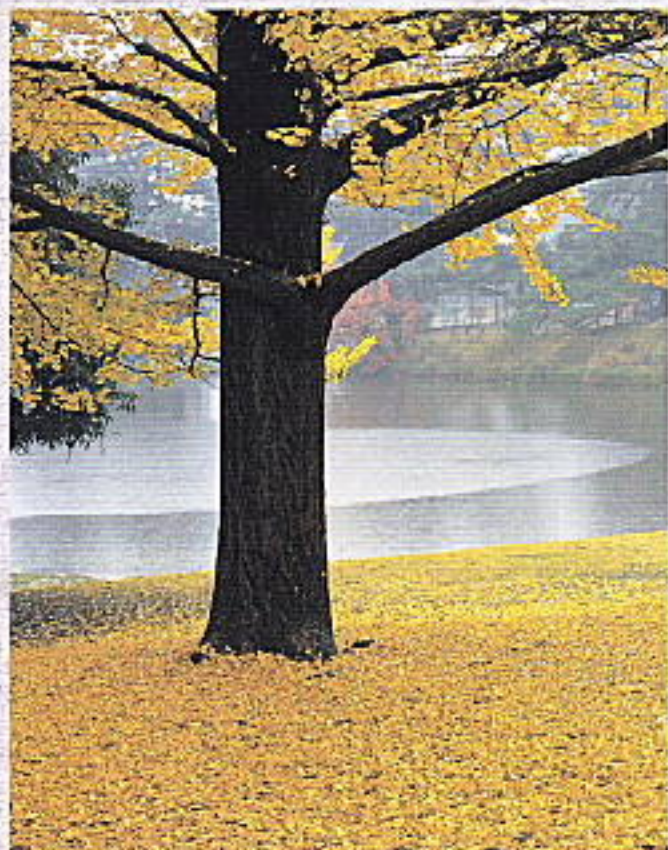
入江作品の中でも東大寺に関わる作品の数は群を抜いて多くあります。東大寺旧境内に自宅があり、そこから毎日見るからこそ感じ取ることが出来る微妙な変化に写欲をそそられ撮影してきました。また、開山以来、連続と続く深く荘厳な歴史に魅了され、自身の感動が伝わる作品を創り続けたのです。

今回は、奈良大和路の写真家へと入江を導いた東大寺にスポットを当て、風景、仏像、お水取りの作品を紹介します。ひとつひとつの被写体に心から向き合い感謝の思いで作品にした、入江泰吉の東大寺ををご覧ください。

没後20年 入江泰吉の

# 東大寺

Commemoration of 20 years after his death  
Todaiji Temple of the Taikichi



正倉院池畔



# 銭

— お金の  
日本史 —



鳥居文利舎  
鳥居文利舎の複製  
(複製ニシテシユ)



和開開字(銭)  
奈良文化財研究所蔵



富本銭  
奈良文化財研究所蔵

◆記念講演会◆

「飛鳥池遺跡の金属工房と富本銭」

日時：3月24日(土) 午後1時30分～3時

講師：小池 伸彦氏

(奈良文化財研究所都城調査部 考古第一研究室長)

会場：日高農村環境改善センター 多目的ホール

※聴講無料。予約不要。

2012年 3月1日(木)～5月8日(火)

◆休館日…水曜日

◆開館時間…午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

◆入館料…大人500円、高校生200円、小中学生150円

\*兵庫県内の小中学生は無料(ココロカードをご提示下さい)

\*65歳以上の方は半額。20名以上の方は団体割引があります。

但馬国府・国分寺館

〒669-8006 豊岡市日高町赤布508  
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112  
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubun/kzn/>





# 銭 —お金の日本史—



富本銭と銅棒  
(飛鳥池遺跡/  
奈良文化財研究所 写真提供)

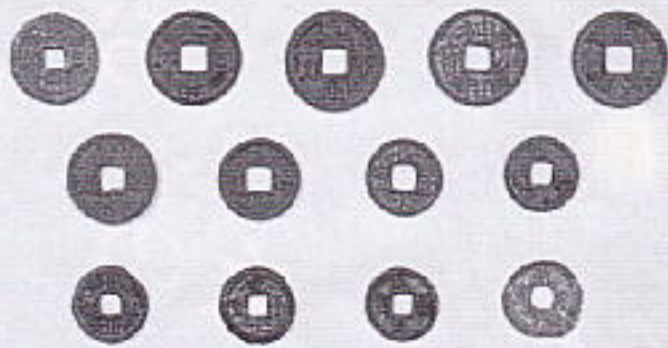


無文銀銭  
(石神遺跡/  
奈良文化財研究所 写真提供)

さまざまな品物やサービスに交換できるお金は、流通・経済を支えるものとして、私たちの生活には無くてはならないものです。しかし、お金の役割や価値は、貝や石から近年の電子マネーに至るまで、時代によって大きな変化を遂げてきました。

日本では、飛鳥時代の「富本銭」を皮切りに銭貨の使用が始まります。その後、朝廷や幕府の経済・財政政策に翻弄されながらも、銭貨は庶民にまで普及していきました。

今回の展覧会では、日本の銭貨の歴史を振り返るとともに、お金が政治、経済、文化などに及ぼした影響について考えます。金・銀・銅に輝く銭貨の美しさはもちろん、その中に凝縮された為政者の目的についても感じていただければ幸いです。



空朝十二銭  
(菅野コレクション/兵庫県立歴史博物館 写真提供)



中世の埋蔵銭  
(マガ谷遺跡)



江戸時代の大判・小判  
(菅野コレクション/兵庫県立歴史博物館 写真提供)

## 企画展関連イベント

### ◆記念講演会

「飛鳥池遺跡の金属工房と富本銭」

日時：平成24年3月24日（土） 午後1時30分～  
会場：日高農村環境改善センター多目的ホール  
講師：小池 伸彦氏

(奈良文化財研究所都城調査部 考古第一研究室長)

\*聴講無料、予約も不要です。

### ◆学芸員講座「奈良・平安時代の物価と経済」

日時：平成24年4月7日（土） 午後1時30分～  
会場：但馬国府・国分寺館 映像ホール  
講師：前岡 孝彰（当館学芸員）

\*講座の後に企画展の展示解説を行います。

\*聴講には入館料が必要です。予約不要。

### ◆体験イベント「古代の銭をつくろう！」

日時：平成24年4月21日（土） 午後1時30分～  
会場：但馬国府・国分寺館 総合学習室

\*材料費500円。定員10名（要予約）。

※最新のイベント情報は、当館ホームページをご覧ください  
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>



### 交通案内

お待ちしております!

#### ●鉄道をご利用の場合

JR山陰本線「江原」駅下車、西へ徒歩15分。

#### ●お車をご利用の場合

[京阪神方面から]

播但連絡道・北近畿豊岡道「和田山」インターから北へ24km、  
国道312号線「祢布」交差点を西へ100m。無料駐車場あり。



## 但馬国府・国分寺館

〒669-5305 豊岡市日高町祢布808

但馬国府・国分寺館 TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112  
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji <http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>





特別陳列

# お水取り

Treasures of  
Tōdai-ji's  
Omizutori  
Ritual

2012.2.11(土・祝) — 3.18(日)

休館日：2月20日(月)、2月27日(月)

開館時間：午前9時30分～午後5時

2月11日(土・祝)～14日(火)は午後9時まで、3月12日(月)は午後7時まで、  
3月1日(木)～11日(日)・13日(火)・14日(水)は午後5時まで開館時間を延長します

※いずれも入館は開館の30分前まで

主催：奈良国立博物館、東大寺、仏教美術協会



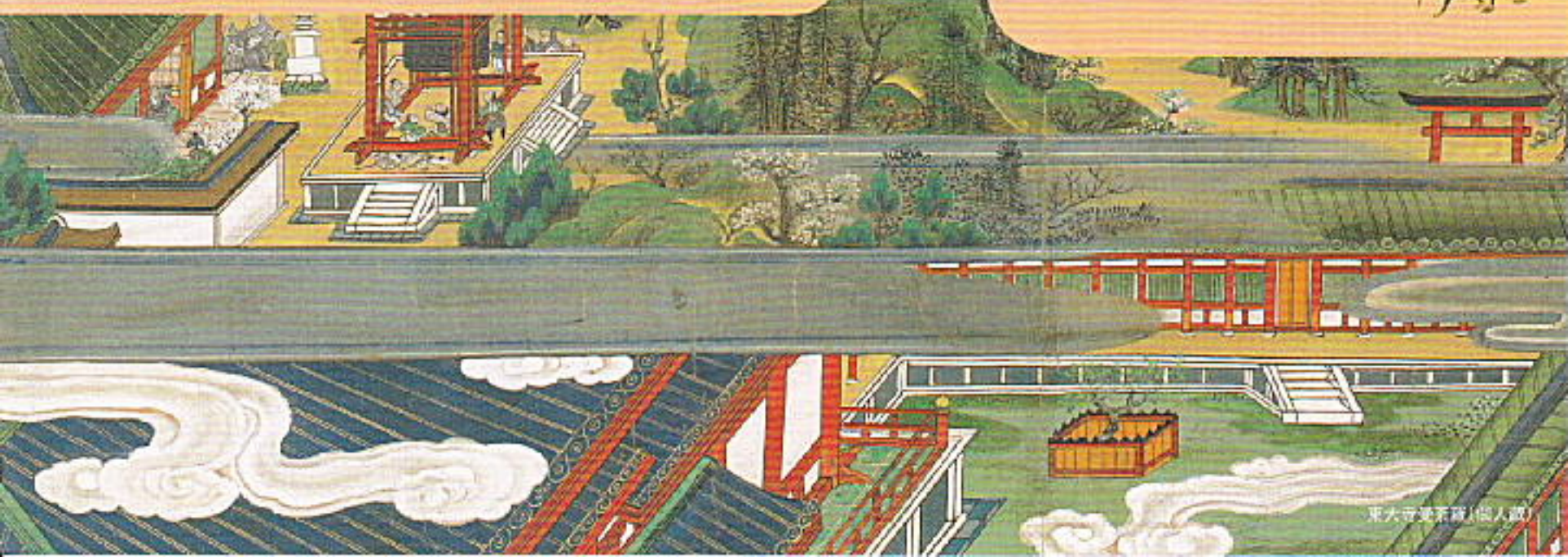
奈良国立博物館  
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内)

ハローダイヤル：050-5542-8600

ホームページ：(PC用) <http://www.narahaku.go.jp/>

(携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile>





# お水取り

特別陳列

Treasures of  
Nara's  
Unusually  
Brief

奈良に春を呼ぶとされる東大寺二月堂の「お水取り」。行事中に井戸（若狭井）から水を汲み、本尊に供えることからそう呼ばれますが、正式な名称は修二会です。修二会とは旧暦2月に行われた法会のこと、現在では3月1日から14日にかけて行われます。

修二会では、練行衆と呼ばれる僧侶が十一面観音に過ちを懺悔して除災招福を祈る、悔過という行法が行われます。この行法は、東大寺の実忠和尚が天平勝宝4年(752)に創始した十一面観音悔過に始まるとされ、以来途切れることなく長い歴史を刻んできました。

この特別陳列では、「お水取り」の期間に合わせて、修二会や二月堂の歴史と信仰をたどる絵画や文書、練行衆によって実際に用いられた品々を展示し、あわせて二月堂の内陣と礼堂の様子を再現しています。

この展覧会をとおして、「お水取り」の伝統を身近に感じ、理解を深めていただければ幸いです。



1 二月堂曼荼羅(東大寺)  
2 紺紙金字唐紙(二月堂焼経)(当館)  
3 重要文化財 香水瓶(東大寺)  
4 重要文化財 銅=鉛鍍(堂可鈴)(東大寺)



5 錫杖(部分)(東大寺)  
6 香水盃(東大寺)  
7 法螺貝(大法螺)(東大寺)

## 公開講座

2月11日(土・祝) 「不退の行法 東大寺修二会(お水取り)」  
北河原公敬 師(華厳宗管長・東大寺別当)  
午後1時30分～3時(午後1時より講堂入口で、入場券を配布します)。当館講堂にて。定員194名。  
聴講無料。(※入場の際には展覧会の観覧券、もしくはその半券、友の会カード等をご提示ください)

## 観覧料金

	一般	大学生
個人	500円	250円
団体	400円	200円

※団体は20名以上です ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です  
※2月22日(水)にご夫婦で観覧される方は、一般料金の半額になります(毎月22日を「夫婦の日」としています) ※中学生以下の子どもと一緒に観覧される方は、団体料金が適用になります(子どもは1人1割引)

## 同時開催の展示

なら伝説館 名品展「珠玉の伝説」  
青銅器館 名品展「中国古代青銅器(坂本コレクション)」  
西新館 名品展「珠玉の仏教美術」  
特集展示「経典を写す、刻む、飾る」(1月24日～2月19日)  
特集展示「東北の古瓦 -泉官衙遺跡を中心に-」(2月28日～3月18日)

## 春の特別展のお知らせ

特別展 解脱上人 貞慶  
～鎌倉仏教の本流～  
4月7日(土)～5月27日(日)



奈良国立博物館  
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50 (奈良公園内)  
NTTハローダイヤル 050-5542-8600



## 交通案内

近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から市内循環バス「水堂神社・国立博物館」下車  
Located in Nara Park, 15 minutes' walk east from Keikyu Nara Station. From JR Nara or Keikyu Nara Station, take the City Loop Bus to "Ninurji jinja/Kokuriku Kenbutsukan" bus stop.

東大寺ミュージアムのご案内  
特集展示「二月堂修二会」  
2月7日(火)～4月1日(日)

「修中日記」や「二月堂拵図」(設計図)などを展示します。  
3月1日(木)～14日(水)は午後7時まで閉館延長いたします。



御遠忌八〇〇年記念特別展

じょう

けい

解脱上人

貞慶

—鎌倉仏教の本流—

Special 800th Memorial Exhibition:  
Jōkei — A Monk  
at the Heart of Kamakura-era  
Buddhism



ストイックで  
アツク  
アツク  
アツク  
アツク!



平成24年

4月7日 [土] ~ 5月27日 [日]

休館日=月曜日(4月30日(月・休)は閉館)

開館時間=午前9時30分~午後5時

4月27日(金)以降の金曜日と土曜日は午後7時まで閉館

※入館は閉館の30分前まで

主催=奈良国立博物館、神奈川県立金沢文庫、読売新聞社

後援=文化庁、奈良県、奈良市、木津川市、NHK奈良放送局

協賛=さんでん、大和ハウス工業、非破壊検査

協力=日本香堂、仏教美術協会

※本展は規模を変えて、神奈川県立金沢文庫でも開催いたします。

会期：平成24年6月8日[金]~7月29日[日](予定)



奈良国立博物館

Nara National Museum

〒630-8213 奈良市園大辻町60(奈良公園内) ハローダイヤル:052-5542-8600



# 解脱上人貞慶

鎌倉仏教の本流

御遠忌八〇〇年記念特別展



○吉祥天立像 京都・浄瑠璃寺  
(展示期間5/22～5/27)



○釈迦如来立像 京都・蓮定寺



○十一面観音立像 京都・海住山寺

今年、解脱上人貞慶(1155～1213)の800年遠忌の年にあたります。鎌倉時代前期に活躍した貞慶は、はじめ興福寺で学僧として活動し、後に笠置寺へ、さらに海住山寺へと移りました。戒律を大切にされた貞慶は、釈迦如来・弥勒菩薩・観音菩薩・春日明神をとりわけ深く信仰し、由緒ある寺々の復興や仏教の再生に大きな貢献を果たしました。御遠忌を機に、貞慶の魅力を多くの方々を知っていただくため、この特別展を開催いたします。



○明本鈔 卷第十三(部分) 奈良・興福寺  
(展示期間5/8～5/27)



春日権現絵記絵 卷十六(部分) 宮内庁三の丸尚蔵館  
(展示期間4/24～5/20)

## 観覧料金

	当日(個人)	前売	団体
一般	1,200円	1,000円	1,100円
高校・大学生	800円	600円	700円
小・中学生	500円	300円	400円
キッズメンバーズ	400円		

※観覧券は、奈良国立博物館観覧券売場、近鉄、JR西日本、阪神電鉄の主要駅(阪神電鉄は当日券のみ販売)、近畿日本ツーリスト、JH東海ツアーズ、JTB、日本旅行、ローソンチケット(Lコード:51727)、チケットぴあ(Pコード:765037)、ONプレイガイド、イープラス(<http://eplus.jp>)、などで販売します。

※前売の販売は3月7日(水)から4月6日(金)までです。

※団体は20名以上です。

※障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。

※この観覧料会で名品展(なら仏像館、青銅器館、西新館)もご覧いただけます。

## 公開講座

4月14日(土)「興福寺と貞慶」  
永村 真(和歌山県立金沢文庫長)

4月28日(土)「墨跡発心集を読む」  
多川俊暎(興福寺真首)

5月19日(土)「解脱上人貞慶の信仰と活動」  
西山 厚(奈良国立博物館学芸部長)

## 列品解説

4月21日(土)「海住山寺に伝来した浄土図」  
北澤菜月(奈良国立博物館学芸部研究員)

5月26日(土)「貞慶ゆかりの彫像について」  
岩田茂樹(奈良国立博物館学芸部長補佐)

公開講座・列品解説はいずれも当館講堂にて、定員194名。随講無料。

午後1時30分～3時(午後1時より講堂入口で、入場券を配布します)。

※入場の際には展覧会の観覧券、もしくはその半券、国立博物館パスポート等をご提示ください。



●五重塔初層内陣扉絵 京都・海住山寺  
(会期中に西を入替えます)



●金亀古利塔 奈良・唐招提寺



●笠置曼荼羅(部分) 大和文華館  
(展示期間4/7～5/6)

●国宝 ○重要文化財

## ◆解脱上人貞慶フォーラム◆

ゆかりの社寺が一室に会し、今に生きつづける貞慶の功績を紹介します。

参加社寺：海住山寺、笠置寺、春日大社、興福寺、唐招提寺、東大寺、法隆寺、東隣寺(五十音順)

日時：平成24年5月5日(土・祝)午後1時から午後3時30分(開場は午後0時30分から)

定員：300名(全席自由)

場所：東大寺総合文化センター内 金鐘ホール

参加費：1,000円。チケットは、ローソンチケット(電話0570-054-005、Lコード:55129)および当館観覧券売場で3月7日(水)より販売。チケット(半券)提示で特別展の当日観覧料金が200円割引となります。

※詳細は決まり次第当館ホームページでお知らせします。



奈良国立博物館  
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50(奈良公園内)  
NTT/ローダイヤル 050-5542-8000  
ホームページ(IPC用)<http://www.narahaku.go.jp/>  
(携帯用)<http://www.narahaku.go.jp/mob/ln/>



(交通案内)

近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から市内循環バス「水室神社・国立博物館」下車

Located in Nara Park, 15 minutes' walk east from Kintetsu Nara Station. From JR Nara or Kintetsu Nara Stations, take the City Loop Bus to "Mimuro jinja / Kokuritsu Hakubutsukan" bus stop



特別展

# 奈良時代の東大寺

東大寺ミュージアム  
開館記念

不空罽索観音像宝冠  
※4月3日から公開

平成23年

平成25年

10月10日 祝 ~ 1月14日 祝

東大寺総合文化センター 〒630-8208奈良市水門町100番地

TEL 0742-20-5511

後援：読売新聞社、朝日新聞社、NHK、朝日放送





国宝 月光菩薩立像



国宝 不文孺索観音立像



国宝 日光菩薩立像

このたび東大寺では総合文化センター内に、法華堂のご本尊不空絹索観音立像並びに日光・月光両菩薩立像をお迎えして、東大寺ミュージアムを開館いたします。

東大寺は聖武天皇による創建以来、「二百数十年の歴史がありますが、その間、たび重なる兵火や災害に見舞われながらも、彫刻・絵画・工芸・聖教類・古文書等、先人たちが残した数多くの宝物を所蔵しております。国宝や重要文化財に指定されているものが多く、これらは国民の貴重な宗教的文化資産とも言うべきものでありますが、これまで一般公開できる展覧施設が寺内にありませんでした。

そこで東大寺では旧東大寺学園跡地に、東大寺の総合的な文化発信基地となるよう図書館・収蔵庫・寺史研究所・ミュージアム・華厳学研究所、それに金鐘会館(金鐘ホール・小ホール・会議室A、B)を擁する複合施設、東大寺総合文化センターを建設し、昨年10月10日、東大寺ミュージアムをオープンさせることになりました。

ここに開館を記念しての特別展「奈良時代の東大寺」を開催し、国宝12件、重要文化財24件、奈良県指定文化財1件など、全60件を展示します。この展示を通して、東大寺創建期の雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。なお会期の途中展示替えをします。詳細については東大寺総合文化センターにお問い合わせください。



国宝 誕生釈迦立像及び淨仏盤

開館時間				
	11~2月	3月	4~9月	10月
開館	午前9時30分から			
閉館(入館は30分前まで)	午後4時30分	午後5時	午後5時30分	午後5時

※修二会行法中(3月1日~3月14日)は午後7時まで

休館日	
原則無休ですが、展示替え等のため、臨時休館することがあります。	

### 入館料

- 東大寺友の会(本人のみ)、大仏奉賛会(本人と同伴2名)、咲心会(本人のみ)の各会員は無料…窓口で会員証をご提示ください。
- 心身障害者施設・養護学校・障害者手帳、奈良市の老春手帳などの対応は、大仏殿入室と同様です。
- 団体申込みによる説明付きの時間外特別観覧の場合は、別料金となります。ご予約は来館される1ヶ月前までにお電話でお申し込みください。基本料金 ¥15,000と一人当たり ¥100の追加料金を申し受けます。なお、観覧時間は午後8時30分までとさせていただきます。

	個人	団体(30名以上)
大人(大学生以上)	¥500	¥450
高校生	¥500	¥400(教職員は無料)
中学生	¥500	¥300(教職員は無料)
小学生	¥300	¥200(教職員は無料)

音声ガイド「¥500」で、ご説明できます。



- ◆電車とバスをご利用の場合  
JR大和路線・近鉄奈良線「奈良駅」から市内循環バス(外回り)「大仏殿春日大社前」下車徒歩5分。または市内循環バス(外回り)「水堂神社・国立博物館」バス停下車、徒歩約5分
- ◆神戸・三宮からお越しの方(最速時間)  
阪神なんば線「三宮」~近鉄奈良線「奈良駅」約80分、阪神なんば線「三宮」~近鉄奈良線「大和郡波島駅」約40分、近鉄奈良線「大和郡波島駅」~近鉄奈良線「奈良駅」約40分
- ◆お車の場合  
名神高速道「京都南IC」から京奈和自動車道経由60分、京奈和自動車道「木津IC」から南へ約7km 第2阪奈有料道路「宝来IC」から東へ約8km、西名阪自動車道「天理IC」からR169号線北へ約10km
- ◆徒歩の場合  
近鉄奈良駅から、登大路町を東へ徒歩約20分

**東大寺総合文化センター**  
〒630-8208奈良市水門町100番地 TEL 0742-20-5511  
公式サイト <http://culturecenter.todaiji.or.jp/>



# 略縁起

京都府京田辺市 普賢寺

## 大御堂 観音寺

電話(〇七七四)六二一〇六六八

此の寺は今より千三百年前、天武天皇の勅願により義淵僧正が開基され、次いで聖武天皇の御願により良弁僧正が伽藍を増築した寺であります。良弁僧正の高弟で、有名な奈良のお水取りを初められた実忠和尚を第一世とします。法相三論華嚴等を兼学し、世の尊信を集め、息長山普賢教法寺と称して、その盛んな姿を見た人は筒城の大寺と申しました。

御本尊十一面観世音菩薩はこの普賢教法寺の御本尊で、古記録によりますと天平十六年(七四四)安置されたものであります。天下泰平と国民豊楽の祈願をこめられた御霊像で、その後千二百余年の間、世の変遷につつがなくなりました。今にその御霊像をおわち下さって居るのであります。この十一面観音様は四種功德、十種勝利と申しまして、我々の苦難をお救い下さる観音様のうちでも、特にすぐれた御利益がお経にとかれて居ます。要約致しますと、常に我々と共にあって、無病息災に、不時の災難をのがれさせ、種々の祈願を成就せしめるとの御誓願であります。

本日御参詣の皆様、我が国有数の天平仏として拜がまれます前に、静かに古人の願に想を致し御本尊の麗容からする無限の光に浴され、皆様の衷心深く御誓願をおうけ下さい。

今や往時を偲ぶ何物も残って居ません。数々の地名に寺ゆかりの名を残し、古塔の跡には僅かに数個の礎石を残すのみであります。しかし古図によりますと諸堂十三、僧坊二十余を数えます。所領も近隣はもとより、河内交野に迄及んだ様であります。これら結構な建物も永亨九年(一四三七)冬の火事に殆ど失われた様です。それ迄は度々の火災にも延暦十三年(七九四)の時は藤原良房公を本願とし、治承二年(一一七八)の時は普賢寺関白基通公により、弘安二年(一二七九)の時は高山寺関白家基公により再建されました。このように藤原氏の外護を受けましたのは、当寺が藤原氏の氏寺興福寺の別院であったからでもありません。この藤原氏の外護を離れてからは当地方の古刹として小さい乍ら尊厳を保ち続けて来たのであります。

古く仁徳天皇の頃に開けた土地、大らかな天平の名残りととむる古刹、近くには一休寺、蟹満寺等もあります。一日の御参詣は、きつと皆様に満ちたりたものを与える事でしょう。再度の御参詣をお待ちします。

### 交通略図



○案内  
近鉄 京都線 三山木下車  
JR 学研都市線 三山木下車  
西へ二キロ バス・タクシーの  
便あり



# なら仏像館 展示品一覧 平成23年12月27日(火)から

奈良国立博物館

指定	名 称	制作時期	所 蔵
<b>大和の仏たち 第1室</b>			
◎	聖観音菩薩立像	平安時代 (10世紀)	文化庁
◎	聖観音菩薩立像	平安時代 (11世紀)	奈良 勝林寺
◎	十一面観音菩薩立像	奈良～平安時代 (8～9世紀)	奈良 業師寺
◎	十一面観音菩薩立像	平安時代 (9世紀)	奈良 勝林寺
◎	十一面観音菩薩立像	平安時代 (9世紀)	奈良 地福寺
◎	宝冠阿弥陀如来坐像	平安時代 (10世紀)	奈良 當麻寺
◎	准胝観音菩薩立像	平安時代 (10世紀)	個人
◎	広目天立像	平安時代 (11世紀)	奈良 興福寺
◎	多聞天立像	平安時代 (11世紀)	奈良国立博物館
◎	地藏菩薩立像	鎌倉時代 (13世紀)	奈良 万福寺
◎	阿闍如来坐像	奈良時代 (8世紀)	奈良 西大寺
◎	僧形 (伝明星菩薩) 立像	平安時代 (9世紀)	奈良 弘仁寺
◎	天部立像	平安時代 (10世紀)	奈良 十市町自治会
●	業師如来立像 会場案内図 写真①	平安時代 (9世紀)	奈良 元興寺
●	法華説相図	飛鳥時代 (7～8世紀)	奈良 長谷寺
◎	文殊菩薩坐像	奈良時代 (8世紀)	奈良 業師寺
◎	十二神将立像 辰神・未神 会場案内図 写真②	鎌倉時代 (13世紀)	奈良 室生寺
◎	梵天立像 ※1月31日から	[頭部] 奈良時代 (8世紀) [体部] 鎌倉時代 (13世紀)	奈良 秋篠寺
<b>特別公開 大和高田・弥勒寺 弥勒仏坐像 第1室 ※1月29日まで</b>			
	弥勒仏坐像 ※1月29日まで	平安時代 (10～11世紀)	奈良 弥勒寺
<b>肖 像 第2室</b>			
●	伝義淵坐像	奈良時代 (8世紀)	奈良 岡寺
●	法相六祖像 (伝行賀)	鎌倉時代 文治5年 (1189)	奈良 興福寺
●	法相六祖像 (伝持叡) 会場案内図 写真③	鎌倉時代 文治5年 (1189)	奈良 興福寺
◎	重源坐像	鎌倉時代 天福2年 (1234)	兵庫 浄土寺
<b>釈迦・阿弥陀の種々相 第2室</b>			
◎	阿弥陀如来立像 (裸形)	鎌倉時代 建仁元年 (1201)	兵庫 浄土寺
◎	釈迦如来立像 (清涼寺式)	鎌倉時代 文永10年 (1273)	奈良国立博物館
◎	出山釈迦如来立像	鎌倉～南北朝時代 (14世紀)	奈良国立博物館
◎	阿弥陀如来立像 (裸形)	鎌倉時代 (13世紀)	奈良国立博物館
◎	阿弥陀如来立像	鎌倉時代 建保5年 (1217)	個人
◎	阿弥陀如来坐像	平安時代 (12世紀)	奈良国立博物館
◎	宝冠阿弥陀如来坐像	平安時代 (11世紀)	京都 安楽寿院
<b>特別公開 金剛寺 降三世明王坐像 第3室</b>			
◎	降三世明王坐像 会場案内図 写真④	鎌倉時代 天福2年 (1234)	大阪 金剛寺
<b>中国の石仏 第4室</b>			
◎	如来三尊像	中国・唐 長安3～4年 (703～4)	奈良国立博物館
◎	如来三尊像	中国・唐 長安3～4年 (703～4)	個人
◎	十一面観音菩薩立像 会場案内図 写真⑤	中国・唐 長安3～4年 (703～4)	奈良国立博物館
◎	如来立像	中国・北齊 天統4年 (568)	個人
◎	如来九尊像	中国・唐 (7世紀)	個人
◎	如来坐像	中国・北魏 (5世紀)	個人
<b>中国・朝鮮半島の金銅仏 第4室</b>			
◎	誕生釈迦仏立像	中国・北魏 (5世紀)	個人
◎	二仏並坐像	中国・北魏 正始元年 (504)	奈良国立博物館
◎	供養者坐像	中国・北齊 (6世紀)	個人
◎	押出五尊仏	中国・隋 (6～7世紀)	個人
◎	観音菩薩立像	中国・唐 (8世紀)	個人
◎	力士立像	中国・北齊 (6世紀)	個人
◎	力士立像	中国・唐 (8世紀)	個人
◎	力士立像	中国・唐 (8世紀)	個人
◎	如来立像	朝鮮半島・統一新羅 (8世紀)	奈良 光明寺
◎	如来立像	朝鮮半島・統一新羅 (8世紀)	奈良国立博物館
<b>旧帝国奈良博物館本館模型 第5室</b>			
◎	表昇降口雛形	明治時代 (19世紀)	奈良国立博物館
◎	棟札	明治時代 明治27年 (1894)	奈良国立博物館
<b>菩 薩 第6室</b>			
◎	菩薩立像	平安時代 (9世紀)	京都 細見美術財団
◎	虚空蔵菩薩坐像	平安時代 (9世紀)	奈良 北僧坊
◎	弥勒菩薩立像	鎌倉時代 (13世紀)	奈良 林小路町自治会



指定	名 称	制作時期	所 蔵
	菩薩半跏像 会場案内図 写真⑤	鎌倉時代 (12~13世紀)	文化庁
	地藏菩薩立像	平安時代 (9世紀)	奈良 十市町自治会
◎	地藏菩薩立像	平安時代 (10世紀)	奈良 大福寺
◎	地藏菩薩立像	鎌倉時代 建長8年 (1256)	奈良 春覚寺
◎	地藏菩薩立像	平安時代 (11世紀)	奈良 称名寺
<b>明 王 第7室</b>			
	五大明王像	平安時代 (10~11世紀)	奈良国立博物館
	不動明王立像	平安時代 (12世紀)	個人
◎	不動明王坐像 会場案内図 写真⑥	鎌倉時代 (12~13世紀)	京都 正寿院
	愛染明王坐像	鎌倉時代 (13世紀)	奈良国立博物館
<b>上代の金銅仏 第8室</b>			
◎	誕生釈迦仏立像	飛鳥時代 (7世紀)	愛知 正眼寺
◎	誕生釈迦仏立像	飛鳥時代 (7世紀)	奈良 悟真寺
	誕生釈迦仏立像	飛鳥時代 (7世紀)	奈良国立博物館
	如来立像	飛鳥時代 (7世紀)	奈良国立博物館
◎	観音菩薩立像	飛鳥時代 (7世紀)	大阪 金剛寺
◎	観音菩薩立像	飛鳥時代 (7世紀)	大阪 観心寺
	観音菩薩立像	奈良時代 (8世紀)	個人
◎	菩薩半跏像 会場案内図 写真⑦	飛鳥時代 (7世紀)	奈良 神野寺
◎	観音菩薩立像	飛鳥時代 (7世紀)	奈良 法隆寺
◎	菩薩立像	飛鳥時代 (7世紀)	奈良 法起寺
<b>塑像と埴仏 第8室</b>			
	侍者坐像 (奈良県斑鳩町法隆寺塔本塑像)	奈良時代 和銅4年 (711)	奈良国立博物館
◎	塔本塑像断片 (奈良市薬師寺出土)	奈良時代 (8世紀)	奈良 薬師寺
	塑像断片 (菩薩頭部) (奈良県明日香村定林寺出土)	飛鳥時代 (7世紀)	奈良国立博物館
	塑像断片 (滋賀県竜王町雪野寺出土)	飛鳥時代 (7世紀)	個人
	方形独尊坐像埴仏	中国・北齊~隋 (6世紀)	奈良国立博物館
	多宝塔埴仏	中国・唐 (7世紀)	個人
	火頭形三尊埴仏 (伝奈良県明日香村橋寺出土)	飛鳥時代 (7世紀)	奈良国立博物館
	方形三尊埴仏 (奈良県明日香村川原寺裏山出土)	飛鳥時代 (7世紀)	奈良 明日香村
	六角形埴仏 (三重県松阪市天華寺跡出土)	飛鳥時代 (7世紀)	奈良国立博物館
<b>護法の天部形 第9室</b>			
◎	十二神将立像 [6軀]	平安時代 (12世紀)	奈良 東大寺
	十二神将立像 [12軀]	鎌倉時代 (13世紀)	奈良国立博物館
<b>檀 像 第10室</b>			
◎	薬師如来坐像 会場案内図 写真⑧	平安時代 (9世紀)	奈良国立博物館
◎	観音菩薩立像	平安時代 (10~11世紀)	大阪 本山寺
◎	釈迦如来坐像	鎌倉時代 嘉禄元年 (1225)	奈良 東大寺
	如意輪観音菩薩坐像	鎌倉時代 建治元年 (1275)	奈良国立博物館
<b>神仏習合 第11室</b>			
◎	大將軍神坐像	平安時代 (12世紀)	京都 大將軍八神社
	大將軍神坐像	平安時代 (12世紀)	奈良国立博物館
	男神坐像	平安時代 (11世紀)	京都 観音寺
	童子形神坐像	平安時代 (12世紀)	奈良国立博物館
	伊豆山権現立像	鎌倉時代 (14世紀)	奈良国立博物館
	男神坐像 会場案内図 写真⑨	平安時代 (12世紀)	奈良国立博物館
◎	蔵王権現立像 [2軀]	平安~鎌倉時代 (12~13世紀)	奈良 大峯山寺
	金剛童子立像	鎌倉時代 (13世紀)	奈良国立博物館
<b>動物彫刻 第12室</b>			
◎	獅子 会場案内図 写真⑩	平安時代 (11世紀)	奈良国立博物館
	獅子	鎌倉時代 (13世紀)	奈良国立博物館
◎	狛犬	鎌倉時代 (12世紀)	奈良 手向山八幡宮
◎	狛犬	鎌倉時代 (12~13世紀)	奈良国立博物館
<b>仮 面 第13室</b>			
◎	舞楽面 地久	平安時代 長久3年 (1042)	奈良 手向山八幡宮
◎	舞楽面 胡徳楽	平安時代 永暦元年 (1160)	奈良 手向山八幡宮
◎	舞楽面 散手 会場案内図 写真⑪	鎌倉時代 承元元年 (1207)	奈良 手向山八幡宮
◎	舞楽面 納曾利	鎌倉時代 正元元年 (1259)	奈良 手向山八幡宮
◎	舞楽面 貫徳	鎌倉時代 (13世紀)	奈良 手向山八幡宮
◎	舞楽面 新鳥麻	鎌倉時代 (13世紀)	奈良 手向山八幡宮
	能 面 笑尉・童子・若女・源氏・深井・神体・長霊徳見	江戸時代 (17~18世紀)	和歌山 根来寺

※◎は国宝、○は重要文化財 ※展示品は都合により一部変更する場合があります。



# 太子ゆかりの法輪寺の謎にせまる

## —法輪寺出土品展—

【開催期間】 平成24年2月23日（木）～3月27日（火）



複弁八弁蓮華文軒丸瓦〔法隆寺式〕

### ◆はじめに

斑鳩町大字三井<sup>みい</sup>に所在する法輪寺<sup>ほうりんじ</sup>は、別名、三井寺<sup>みいでら</sup>（御井寺）とも呼ばれ、「斑鳩三塔」<sup>いかるがさんとう</sup>の一つとして親しまれています。しかし、この法輪寺には古くより二つの創建説<sup>そうちんせつ</sup>が伝わるなど、多くの謎<sup>なぞ</sup>につつまれています。

そこで今回の展示会では、法輪寺所蔵の出土品や町が実施した発掘調査の出土品などを一堂に展示し、聖徳太子ゆかりの寺院として知られる法輪寺の謎の一端にせまります。この展示会の開催によって、法輪寺の歴史をより深く知っていただくきっかけとなれば幸いです。

### ◆主な展示品（※数字とアルファベットの組み合わせは、『法隆寺の至宝 第15巻』による型式番号です。）

展示品名	時代
「船橋廃寺式」素弁八弁蓮華文軒丸瓦（8B型式） 四重弧文軒平瓦、簾状四重弧文軒平瓦、無文軒平瓦	飛鳥時代（7世紀前半）
「法隆寺式」複弁八弁蓮華文軒丸瓦（37E・37A型式） 「法隆寺式」均整忍冬唐草文軒平瓦（216D・217C型式） 刻印瓦（「池上」・「王井」・「木」）、鴟尾瓦片、鬼瓦片、瓦埴	飛鳥時代（7世紀後半）
単弁八弁蓮華文軒丸瓦（24B型式）、複弁八弁蓮華文軒丸瓦 均整忍冬唐草文軒平瓦	奈良時代
均整唐草文軒平瓦、均整忍冬唐草文軒平瓦（217Aa型式）	平安時代



## ◆創建をめぐる二つの説

法輪寺には、古くより二つの創建説が伝わっています。一つは平安時代初期に成立した『上宮聖徳太子伝補闕記』に記されている説で、「斑鳩寺が被災したのち、百濟僧師、円明師、下水君雜物ら三人が三井寺を造った」というものです。もう一つは、鎌倉時代に法隆寺の僧・顯真が著した『聖徳太子伝私記』に引用される「御井寺勘録寺家資財雜物等事」に記されている説で、「推古天皇三十（622）年に病気になった聖徳太子が病氣平癒を祈願して、息子の山背大兄王や孫の由義王たちにこの寺を建てさせた」というものです。したがって、前者の説では、斑鳩寺（創建法隆寺＝若草伽藍跡）が火事で焼けた天智天皇九（670）年以降の創建ということになり、後者の説では、聖徳太子が亡くなった推古天皇三十（622）年頃に創建されたということになります。

## ◆発掘調査の成果

法輪寺では、昭和25（1950）年の伽藍の中心堂塔の確認を目的とした調査以降、昭和19（1944）年7月に落雷によって借しくも焼失してしまった三重塔の再建に伴う調査、遺跡範囲確認のための調査などが16次にわたって行われています。第1次調査では、現在の金堂と講堂（収蔵庫）が旧位置の上に建ち、中門から延びる回廊が塔と金堂を囲んで講堂が回廊の外の北側に建つ、いわゆる法隆寺式伽藍配置をとるとみられることが明らかになりました（規模は法隆寺の3分の2のサイズ）。また、昭和46（1971）年の第4次調査における三重塔再建に伴う塔基壇の全面調査では、塔基壇周辺から複弁八弁蓮華文軒丸瓦と均整忍冬唐草文軒平瓦が出土し、塔基壇の版築土のなかから素弁八弁蓮華文軒丸瓦と重弧文軒平瓦、簾状重弧文軒平瓦が出土しました。

前者の軒瓦の組み合わせは「法隆寺式」軒瓦と呼ばれ、現在の法隆寺西院伽藍（再建法隆寺）の創建瓦として用いられた軒瓦の文様を起源としています。一方、後者の素弁八弁蓮華文軒丸瓦は「船橋廃寺式」軒丸瓦と呼ばれているもので、古代瓦の研究では630～40年代に位置づけられています。これらの軒瓦の年代観は、『上宮聖徳太子伝補闕記』や『聖徳太子伝私記』に記された二つの創建説の年代に符合し、「法隆寺式軒瓦」を用いて法隆寺式伽藍配置で造営された現在の法輪寺の前に、素弁八弁蓮華文軒丸瓦や重弧文軒平瓦を用いて造営された「前身法輪寺」とも呼ぶべき寺院が存在したのではないかという説が近年は有力になっています。

## ◆我が国最古級の刻印瓦

法隆寺式軒瓦に伴って、我が国最古級の刻印瓦が出土しています。刻印瓦とはいわばスタンプのように文字を押印した瓦のことで、これまでに「池上」「王井」「木」（大小2種）と「〈サイコロの6の目状のもの〉」の5種類が確認されています。このような刻印瓦は法隆寺をはじめとする斑鳩の他の古代寺院では出土しておらず、文字の意味や使用目的などについては更なる検討が必要ですが、法輪寺の造営のあり方を探る上で非常に貴重な資料となっています。

斑鳩文化財センター（斑鳩町文化財活用センター）

〒636-0114 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺西1丁目11番14号

TEL 0745-70-1200



(堂内配置図)



南

(四天王)

持国天 (塑造)	像高 160.5cm	奈良時代
増長天 (塑造)	像高 162.2cm	奈良時代
廣目天 (塑造)	像高 169.9cm	奈良時代
多聞天 (塑造)	像高 164.5cm	奈良時代

(多宝塔内の二仏)

釈迦仏 (銅造)	像高 25cm	(伝唐時代)
多宝仏 (銅造)	像高 24.2cm	(伝唐時代)

[以上の二仏は、現在、東大寺の収蔵庫に安置し、多宝塔内には模造の二仏(木造)をまつる。]



[戒壇堂]

# 東大寺戒壇院





持国天



增長天

戒壇院は、天平勝宝六年(754)当時中国に於ける戒律の第一人者唐の僧鑑真が来朝し、大仏殿の前に戒壇を築き、聖武天皇を始め百官公卿四百人に戒を授け、同年五月一日孝謙天皇の戒壇院建立の宣旨に依り造営されたもので、創立当時は金堂、講堂、軒廊、廻廊、僧房、北築地、鳥居、脇戸等があった(東大寺要録)。そののち、治承四年(1180)、文安三年(1446)、永禄十年(1567)の三度、火災にかゝり創建当時の伽藍は総べて烏有に帰した。現在の戒壇堂は享保十七年(1732)に建立されたものである。

戒壇とは受戒の行われるところで、受戒とは僧侶として守るべき事を確かに履行する旨を仏前に誓う儀式で最も厳粛なものであり、従って戒壇は神聖な場所である。戒壇はご覧の通り三段になっているがこれは大乘菩薩の三聚浄戒(一、攝律儀戒、二、攝善法戒、三、攝衆生戒)を表わしたものである(三国仏



廣目天



多聞天

法伝通縁起)。

堂内には四天王(塑造)及び多宝塔(木造)を安置する。当院の四天王はもと銅造のものであったが、今はない。現在の有名な四天王は東大寺内の中門堂から移されたものといわれ、天平時代の傑作である。四天王は仏法の守護神としてわが国に於ては既に飛鳥時代から信仰があり、天平時代に最高潮に達した。身にまとふ甲冑は遠く中央アジアの様式で、文化の広大なることを物語っている。静にして動、動にして静、彫刻に於ける理想境を具現したのものとして世界的水準をゆくものである。中央にある多宝塔は、享保十七年(1732)、当堂と共に造顕されたものといわれ、中に鑑真が来朝のとき唐から将来したといわれる釈迦、多宝の二仏を模したものをまつる。(将来品は別置)



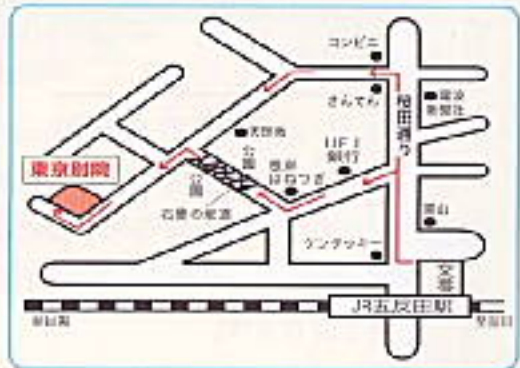




# 薬師寺伽藍図



薬師寺東京別院案内図



## 行事とお写経会のご案内

1月 1日	修正会国宝吉祥天開扉・新春写経会(1月15日まで)
	玄奘三蔵院・大唐西域壁画公開(1月15日まで)
1月 15日	吉祥天にちなむお香とお茶の会
3月 1日	玄奘三蔵院・大唐西域壁画公開(6月30日まで)
3月 28日	お身拭い
3月 30日	修二会花会式(4月5日まで)鬼追式(5日)
4月 29日	春の大宝蔵殿特別公開(5月5日まで)
5月 4日	最勝会
5月 5日	玄奘三蔵会大祭・万灯会
8月 13日	施餓鬼法要・盂蘭盆写経会(15日まで)
9月 16日	玄奘三蔵院・大唐西域壁画公開(11月30日まで)
9月 中旬	八幡宮大祭(敬老の日)
10月 8日	天武忌・万灯会
10月 8日	秋の大宝蔵殿特別公開(11月10日まで)
11月13日	慈恩会(興福寺と隔年)
12月29日	お身拭い
12月31日	除夜の鐘・越年写経会

- 奈良薬師寺
 

玄奘三蔵縁日	毎月5日	午後1時	法要と法話
薬師縁日	毎月8日	午前11時	大般若経転読法要
		午後1時	管主法話
弥勒縁日	毎月第3日曜日	午前11時	法要
		午後1時半	月例「まほろば熟」
- 東京別院
 

薬師縁日	毎月12日	午後1時	管主法話
定例法話会	毎月第3、4土曜、第3、4日曜	午後1時(第3日曜午後2時、第4土曜午前10時半)	本山僧侶法話
- ◆お写経道場(奈良・東京) 午前9時～午後4時(受付)
 

どなたでも、お写経していただけます(用具完備)

## 薬師寺奉賛会 ご入会のお願い

古い歴史と文化を有する寺の使命は、先人の美しいまごころの結晶である世界文化遺産の保存継承、修理復興、さらに仏ごころの種まきにあると存じております。そこで薬師寺ではより多くの皆様のお力を得まして、薬師寺の礎を固め、仏法興隆・白鳳伽藍完成・玄奘三蔵顕彰・心の復興などの諸事業を行ってまいります。どうか意のあるところをお汲み下さり、「薬師寺奉賛会」にご入会賜りますようお願い申し上げます。

※年会費一口一万円です(更新は毎年5月です。)

お問い合わせは、薬師寺奉賛会係まで  
TEL 0742-33-6001

## お写経の勧め

お経は、一文字書写することにより、一筆刻むのと同じ功德があるといわれています。

自らの手に筆をとり、お経を書写する浄業によって慈悲の心が育まれ、心の喜びとなります。ご結縁をおすすめします。

ご納経料 般若心経 1巻 2,000円  
 薬師経 1巻 4,000円  
 唯識三十頌1巻 5,000円  
 東塔大修理特別写経1組2巻 10,000円

## 法相宗大本山 薬師寺

〒630-8563 奈良市西ノ京町457  
 TEL 0742-33-6001  
 FAX 0742-33-6004  
 URL <http://www.nara-yakushiji.com>  
 (最寄駅、近鉄橿原線西ノ京駅下車すぐ)

## 薬師寺東京別院

〒141-0022 品川区東五反田5-15-17  
 TEL 03-3443-1620  
 FAX 03-3449-5963  
 URL <http://www.yakushiji.or.jp/>  
 (最寄駅、JR山手線五反田 徒歩5分)



## 薬師寺略縁起

薬師寺は天武天皇により発願（680）、持統天皇によって本尊開眼（697）、更に文武天皇の御代に至り、飛鳥の地において堂宇の完成を見ました。その後、平城遷都（710）に伴ない現在地に移されたものです。

当時は南都七大寺の一つとして、その大伽藍はわが国随一の荘美を誇りました。すなわち金堂を中心に東西両塔、講堂、回廊が立ち並び、なかでも裳階を施した金堂や塔のたたずまいの美しさは、“麗宮造り”と呼ばれて、人々の目を奪いました。

爾来1300年を経、この間、幾多の災害を受け、特に享禄元年（1528）の兵火では、東塔（国宝・白鳳時代）を除く諸堂が灰燼に帰しました。

昭和42年、高田好胤管主により薬師寺白鳳伽藍の復興が発願されました。失われた堂塔の復興を薬師寺の大悲願とし、お写経勧進によって、金堂、西塔、中門、回廊、更には平成15年3月に大講堂が復興され、白鳳伽藍の輪奐美として甦りました。

現代の日本人の淨らかな心の結晶が、堂塔伽藍のたたずまいとして未来の人々に継承されることを願い、薬師寺では皆様の更なるお写経のご結縁を願っております。



## 金堂

金堂は薬師寺縁起によると二重二閣、五間四面、瓦葺の建物で各層に裳階をつけた美しい堂で、麗宮造りと呼ばれています。薬師寺白鳳伽藍は、金堂を初めとして東塔の意匠ですべて統一されています。また「堂内の荘嚴は美をつくし、燈火がなくても金色に光り輝いた」と伝えられています。

## 薬師三尊像（国宝・白鳳時代）

薬師如来を中央に、向かって右が日光菩薩、左が月光菩薩、あわせて薬師三尊と申します。薬師如来は、東方淨瑠璃淨土の教主で、またの名を医王如来とも言い、私たちの身と心の病気を救ってくださる仏さまです。脇侍の日光・月光両菩薩は、動きのある美しい姿で、理想的な写実美を完成した仏さまといわれています。

あたかも今造られたかのような美しいお姿は、世界でも最高の仏像と仰がれています。



## 東塔（国宝・白鳳時代）

各層に裳階をつけているため六重に見えますが、三重の塔です。この特異な形が、全体として律動的な美しさを保ち、“凍れる音楽”という愛称で親しまれています。相輪の頂上に取り付けられた水煙は4枚からなり、その中には24体の飛天が透かし彫りされています。

## 西塔

西塔は享禄元年に兵火で焼失し、昭和56年4月に453年ぶりに創建当初の白鳳様式をもって復興されました。華麗な西塔が長年の風雪に耐えた東塔と並び立つさまは、大変印象的な光景といえましょう。



## 大講堂

大講堂は、正面41m、奥行20m、高さ17mあり、伽藍最大の建造物です。講堂が金堂より大きいのは古代伽藍の通則で、これは南都仏教が教学を重んじ講堂に大勢の学僧が参集して經典を講讀したためです。大講堂の本尊には彌勒三尊像（重要文化財・白鳳時代）、後堂には仏足石・仏足跡歌碑（国宝・天平時代）が安置されています。仏足石の両脇に釈迦十大弟子（中村晋也作）も祀られています。





## 東塔〈国宝・白鳳時代〉

各層に裳階をつけているため六重に見えますが、三重の塔です。この特異な形が、全体として律動的な美しさを保ち、“凍れる音楽”という愛称で親しまれています。相輪の頂上に取り付けられた水煙は4枚からなり、その中には24体の飛天が透かし彫りされています。

## 西塔

西塔は享禄元年に兵火で焼失し、昭和56年4月に453年ぶりに創建当初の白鳳様式をもって復興されました。草麗な西塔が長年の風雪に耐えた東塔と並び立つさまは、大変印象的な光景といえましょう。



## 大講堂

大講堂は、正面41m、奥行20m、高さ17mあり、伽藍最大の建造物です。講堂が金堂より大きいのは古代伽藍の通則で、これは南都仏教が教学を重んじ講堂に大勢の学僧が参集して經典を講讀したためです。大講堂の本尊には彌勒三尊像（重要文化財・白鳳時代）、後堂には仏足石・仏足跡歌碑（国宝・天平時代）が安置されており、仏足石の両脇に釈迦十大弟子（中村晋也作）も祀られております。

## 東院堂〈国宝・鎌倉時代〉

東院伽藍は義老年間に古備内親王が元明天皇の冥福を祈り、発願建立されたものです。奈良時代の位置は東側（現在の観音池）にあり、南を向いて建てられていましたが、天禄4年（973）の火災で焼失、弘安8年（1285）現在の地に建てかえられた、国宝の建物です。奈良時代は土間が通常ですが、板床を敷き東院禪堂と呼ばれたことを考えると、鎌倉時代には禪の影響があったと思われます。



## 聖観音菩薩像〈国宝・白鳳時代〉

このお像の若さの中に漂う気品と端麗さは、文字通り「折りが昇華してゆく崇高なお姿」といえましょう。肩のあたりまで幾筋かにわかれて下がる垂髪、二重の首飾り、透きとおるような衣服、花びらのような繊細で美しい指の動き、そして直立不動の直線的な姿勢。これらは、初唐時代に中国を通過して流れてきたインドのグプタ王朝の影響を強く受けています。



## 玄奘三蔵院伽藍・大唐西域壁画殿

玄奘三蔵院伽藍中央の玄奘塔は、法相宗の始祖・玄奘三蔵のご頂骨を真身舍利として奉安し、須弥壇には玄奘三蔵訳経像をお祀りしています。また、大唐西域壁画殿は、平山郁夫画伯が30年の歳月をかけ完成された玄奘三蔵求法（きうぼう）の精神を描いた壁画を繪身舍利としてお祀りするものです。





## 国宝

弥勒菩薩半跏思惟像 弥勒菩薩半跏思惟像(百济伝来) 十二神将  
十二軀 阿弥陀如来坐像 不空如来观音菩薩立像 十二面千手观音  
立像 広隆寺縁起資財帳 広隆寺資財交替実録帳 桂宮院本堂  
(以上二十点)

## 重要文化財

千手観音坐像 毘沙門天立像 吉祥天立像 如意輪観音半跏像  
不動明王坐像 薬師如来立像 蔵王権現像 阿弥陀如来立像 聖  
観音立像 吉祥天立像 埋木地藏立像 日光菩薩立像 月光菩薩  
立像 弥勒菩薩坐像 菩薩立像 吉祥天立像 大日如来坐像 蔵  
王権現像 吉祥天立像 聖徳太子孝養像 増長天立像 持国天立  
像 広目天立像 五髻文殊菩薩坐像 多聞天立像 秦河勝像 同  
夫人像 吉祥天立像 大日如来坐像 地藏菩薩坐像 虚空蔵菩薩  
坐像 能恵法師絵詞 十二天画像十二幅 准胝仏母画像 三千仏  
図絵 鉄鐘 講堂 (以上四十八点)



### 国宝第一号

## 弥勒菩薩半跏思惟像

弥勒菩薩は、須弥山の弥勒淨土といわれている兜率天にて、菩薩の行につとめられ、諸天に説法し、お釈迦さまにかわってすべての悩み、苦しみをお救いくださり、正しい道へとお導き下さる慈悲の仏さまです。

この半跏思惟像は、「一切衆生をいかにして救おうかと考えている」お姿を表しています。

# 廣隆寺

京都市右京区太秦蜂岡町 TEL(075)861-1461





## 広隆寺沿革

広隆寺は推古天皇十二年(六〇三)に建立された山城最古の寺院であり、聖徳太子建立の日本七大寺の一つである。この寺の名称は、古くは蜂岡寺、秦公寺、太秦寺などと言われたが、今日では一般に広隆寺と呼ばれている。

広隆寺の成立に就いて、日本書紀によると秦河勝が聖徳太子から仏像を賜りそれを御本尊として建立したとあり、その御本尊が現存する弥勒菩薩であることが廣隆寺資材交替実録帳を見ると明らかである。

秦氏が秦大勢で日本に渡来したのは日本書紀によると第十五代応神天皇十六年で、主は養蚕機織の業であり、その他に大陸や半島の先進文化を我が国に輸入することにも努め農耕、醸酒等、当時の地方産業発達に貢献していた。

我が国に大陸文化を移し産業と文化の発達の源流・経済



弥勒菩薩半珈思惟像(泣き弥勒)

の中心ともなった太秦の、この広隆寺は、衆生済度の道の探求、仏法への絶対的な帰依、そして、和を以て貴しと為す

平和な世界をめざされた慈悲の権化である聖徳太子の、理想の実現に尽力した秦氏の功業を伝える最も重要な遺跡であり、信仰と芸術の美しい調和と民族の貴い融和協調とを如実に語る日本文化の一大宝庫である。

広隆寺は弘仁九年(八二八)に火災に遭ったが、秦氏出身で弘法大師の弟子である道昌僧都によって再興、更に久安六年(一一五〇)にも炎上し、復興された。このように、度々の災禍にも拘わらず、多くの仏像がよく保存された事を思うと、これらの仏像がいかに強い信仰の対象となっていたかが、うかがわれる。

### 講堂(重要文化財)

講堂は水万元年(二六五)に再建された京洛最古の建物で、俗に赤堂という。中央に西方極楽浄土で説法をされている印を結ぶ阿彌陀如来坐像(国宝)、地藏菩薩坐像(重文)、虚空藏菩薩坐像(重文)を祀る。

### 太秦殿

太秦明神、漢織女、呉秦女を祀る。

### 上宮王院太子殿(本堂)

享保十五年(七三〇)に再建された入母屋造の堂。本尊に聖徳太子像を祀る。この太子尊像には、太子の偉徳功業を景仰せられる歴代天皇が、即位大札に御着用の黄櫨染御袍の御束帯が即位後贈進されて各天皇御二代を通じて御召しになるならわしである。

### 新靈宝殿

飛鳥時代の弥勒菩薩半珈思惟像(国宝)をはじめ、天平・弘仁・貞観・藤原・鎌倉と各時代の仏像を祀る。

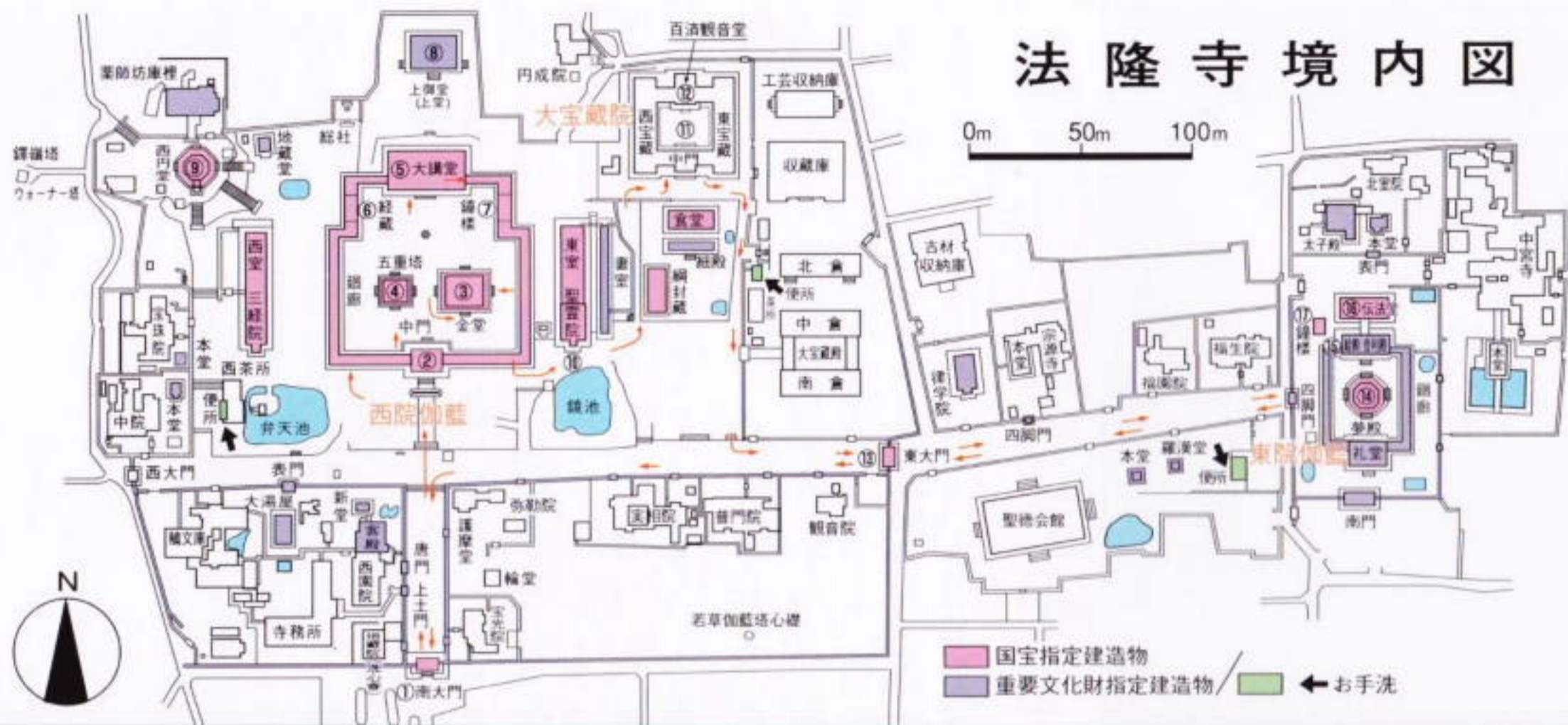
### 桂宮院本堂(国宝) 別名八角円堂(四、五、十、十一月の日曜祝日のみ公開)

聖徳太子が楓野別宮を起こされたところと伝えられ現在は広隆寺の奥の院と移される。現在の建物は建長三年(一一五二)に中親上人澄祥により再建された。

### 地藏堂

平安時代に我国繁栄の爲に弘法大師が諸人安産、子孫繁栄の御誓願





● 拝観時間  
 2月22日～11月3日 午前8時～午後5時  
 11月4日～2月21日 午前8時～午後4時30分

聖徳宗総本山 法隆寺

郵便番号 636-0115  
 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺山内1番1号  
 電話: (0745) 75-2555  
<http://www.horyuji.or.jp>



日本最初の世界文化遺産

法隆寺

法隆寺畧縁起





百済観音像

また日本の仏像には珍しい八頭身のすらりとした姿と、優美で慈悲深いその表情は多くの人びとを魅了しています。法隆寺では、この百済観音の安住の殿堂をお造りすることが永年の悲願でありました。その夢がついに平成10年秋に実現いたしました。それがこの百済観音堂であります。

⑬**東大門(奈良時代)** 大宝蔵院を出て夢ゆめの殿どのへ向かう途中に建っているこの門は、珍しい三棟造りという奈良時代を代表する建物の一つです。

⑭**夢殿(奈良時代)** 西暦601年に造営された斑鳩宮跡に、行信僧都いかるがのみや ぎょうしんそうずという高僧が、聖徳太子の遺徳を偲んで天平11年じょうくわうおうれん(739)に建てた伽藍を上宮王院はちかくえんどうとい

ます。その中心となる建物がこの夢殿です。八角円堂の中央の厨子には、聖徳太子等身の秘仏救世観音像(飛鳥時代)を安置し、その周囲には聖観音菩薩像(平安時代)、聖徳太子の孝養像(鎌倉時代)、乾漆の行信僧都像(奈良時代)、平安時代に夢殿の修理をされた道詮律師の塑像(平安時代)なども安置しています。この夢殿は中門を改造した礼堂(鎌倉時代)と廻廊に囲まれ、まさに観音の化身と伝える聖徳太子を、供養するための殿堂としてふさわしい神秘的な雰囲気漂わせています。

⑮**舍利殿・絵殿(鎌倉時代)** 舍利殿は聖徳太子が2才の春に、合掌された掌中から出現したという舍利を安置する建物で、絵殿には聖徳太子一代の事蹟を描いた障子絵が納められています。

⑯**伝法堂(奈良時代)** このお堂は聖武天皇の夫人でありました橘古那可智の住宅を仏堂に改造したものです。堂内には三組の乾漆阿彌陀三尊像(奈良時代)をはじめ多数の仏像が安置されています。

⑰**東院鐘楼(鎌倉時代)** この鐘楼は袴腰と呼ばれる形式の建物で、内部には「中宮寺」と陰刻された奈良時代の梵鐘が吊されています。



夢殿

### 主な年中行事

舍利講	(於、東院舍利殿)	1月1日～3日
金堂修正会		1月7日～14日
上宮王院修正会	(於、夢殿)	1月16日～18日
西円堂修二会		2月1日～3日
西円堂追儺式		2月3日
三蔵会	(於、三経院)	2月5日
涅槃会	(於、大講堂)	2月15日
お会式速夜法要	(於、聖霊院)	3月21日
お会式	(於、聖霊院)	3月22日～24日
仏生会	(於、食堂)	4月8日
夏安居	(於、西室)	5月16日～8月15日
弁天会	(於、弁天社)	7月7日
東院地藏会	(於、伝法堂)	7月24日
盂蘭盆会	(於、律学院)	8月14日～15日
慈恩会	(於、大講堂)	11月13日
勝鬘会	(於、大講堂)	11月15日

夢殿本尊特別開扉 (春季 4月11日～5月18日)  
(秋季 10月22日～11月22日)





西院伽藍全景

法隆寺は飛鳥時代の姿を現在に伝える世界最古の木造建築として広く知られています。その創建の由来は「金堂」の東の間に安置されている「薬師如来像」の光背銘や『法隆寺伽藍縁起并流記資財帳』(747)の縁起文によって知ることができます。

それによりますと、用明天皇が自らのご病気の平癒を祈って寺と仏像を造ることを誓願されましたが、その実現をみないままに崩御されたといえます。そこで推古天皇と聖徳太子が用明天皇のご遺願を継いで、推古15年(607)に寺とその本尊「薬師如来」を造られたのがこの法隆寺(斑鳩寺とも呼ばれています)であると伝えています。

現在、法隆寺は塔・金堂を中心とする西院伽藍と、夢殿を中心とした東院伽藍に分けられています。広さ約18万7千平方メートルの境内には、飛鳥時代を始めとする各時代の粹を集めた建築物が軒をつらね、たくさんの宝物類が伝来しています。国宝・重要文化財に指定されたものだけでも約190件、点数にして2300余点に及んでいます。

このように法隆寺は聖徳太子が建立された寺院として、1400年に及ぶかがやかしい伝統を今に誇り、とくに1993年12月には、ユネスコの世界文化遺産のリストに日本で初めて登録されるなど、世界的な仏教文化の宝庫として人々の注目を集めています。

①**南大門(室町時代)** 法隆寺の玄関にあたるこの門は、永享10年(1438)に再建されたものです。



金堂内部

②**中門及び廻廊(飛鳥時代)** 深く覆いかぶさった軒、その下の組物や勾欄、それを支えるエンタシスの柱、いずれも飛鳥建築の粹を集めたものです。重厚な扉と左右に立つ塑像の金剛力士像(奈良時代)は、東西にのびた廻廊の連子窓と対照的な組み合わせで、並列して建つ塔と金堂を壮麗に包み込んでいます。

③**金堂(飛鳥時代)** 法隆寺のご本尊を安置する聖なる殿堂が金堂です。威風堂々としたこの建物の中には、聖徳太子のために造られた金銅釈迦三尊像(飛鳥時代)、太子の父君用明天皇のために造られた金銅薬師如来座像(飛鳥時代)、母君穴穗部間人皇后のために造られた金銅阿彌陀如来座像(鎌倉時代)、それを守護するように、樟で造られたわが国最古の四天王像(白鳳時代)が、邪鬼の背に静かに立っています。そのほか木造吉祥天立像・毘沙門天立像(平安時代)が安置されています。

また天井には、天人と鳳凰が飛び交う西域色豊かな天蓋が吊され、周囲の壁面には、世界的に有名な壁画(昭和24年焼損、現在はパネルに画かれた再現壁画がはめ込まれています)が描かれ、創建当初の美しさが偲ばれます。

④**五重塔(飛鳥時代)** 塔はストゥーパともいわれ、釈尊の遺骨を奉安するためのものであり、仏教寺院において最も重要な建物とされています。高さは約32.5メートル(基壇上より)で、わが国最古の五重塔として知られています。



この最下層の内陣には、奈良時代のはじめに造られた塑像群があり、東面は維摩居士と文殊菩薩が問答、北面は釈尊が入滅、西面は釈尊遺骨(舍利)の分割、南面は弥勒菩薩の説法などの場面が表現されています。

⑤**大講堂(平安時代)** このお堂は仏教の学問を研鑽したり、法要を行う施設として建立されましたが、鐘楼とともに延長3年(925)に落雷によって焼失しました。幸い正暦元年(990)には再建され、ご本尊の薬師三尊像及び四天王像もその時に作られています。

⑥**経蔵(奈良時代)** この建物は経典を納める施設として建立されましたが、現在は、天文や地理学を日本に伝えたという百済の学僧、観勒僧正と伝える座像(平安時代)を安置しています。

⑦**鐘楼(平安時代)** この鐘楼の中に吊されている白鳳時代の梵鐘は、今なお当時の音色を響かせています。

⑧**上御堂(鎌倉時代)** このお堂は奈良時代、天武天皇の皇子である舎人親王の発願によって建立したと伝えられていますが、現在の建物は鎌倉時代に再建されたものです。その堂内には平安時代の釈迦三尊像と室町時代の四天王像が安置されています。

⑨**西円堂(鎌倉時代)** 拝観コースからはずれた西院伽藍北西の小高い丘に八角造りの円堂があります。



聖霊院



夢違観音

⑩**大宝蔵院** 聖霊院から東に進むと宝物庫である綱封蔵(平安時代)があります。その手前を北に進むと、食堂(奈良時代)や細殿(鎌倉時代)などの建物の奥に新しい伽藍が見えてきます。ここが平成10年に落成した百済観音堂を中心とする大宝蔵院です。建物の内部には、有名な夢違観音像(白鳳時代)・推古天皇御所持の仏殿と伝える玉虫厨子(飛鳥時代)・蓮池の上に座す金銅阿彌陀三尊像を本尊とする橋夫人厨子(白鳳時代)をはじめ百万塔・中国から伝えられた白檀造りの九面観音像・天人の描かれた金堂小壁画など、わが国を代表する宝物類を多数安置しています。飛鳥時代から近世に至るこれらの宝物は、1400年に及ぶ法隆寺の信仰の遺産であり、法隆寺の歩んだ道のりをうかがわせる貴重な宝物と言えましょう。

⑪**百済観音堂** 法隆寺に伝わる百済観音像(飛鳥時代)は、わが国の仏教美術を代表する仏像として世界的に有名であります。

その創建は奈良時代に橘夫人の発願によって行基菩薩が建立したと伝えられていますが、現在の建物は鎌倉時代に再建されたものです。そのお堂の中央には、わが国最大級の乾漆像として知られるご本尊薬師如来座像(奈良時代)が安置されています。

⑫**聖霊院(鎌倉時代)** 東西の廻廊の外側には、それぞれ東室・西室という南北に細長い建物があります。それらは僧侶の住居でありましたから僧房と呼んでいます。とくに鎌倉時代に聖徳太子信仰の高揚にともなって、聖徳太子の尊像(平安末期)を安置するために、東室の南端部を改造したのがこの聖霊院です。



玉虫厨子

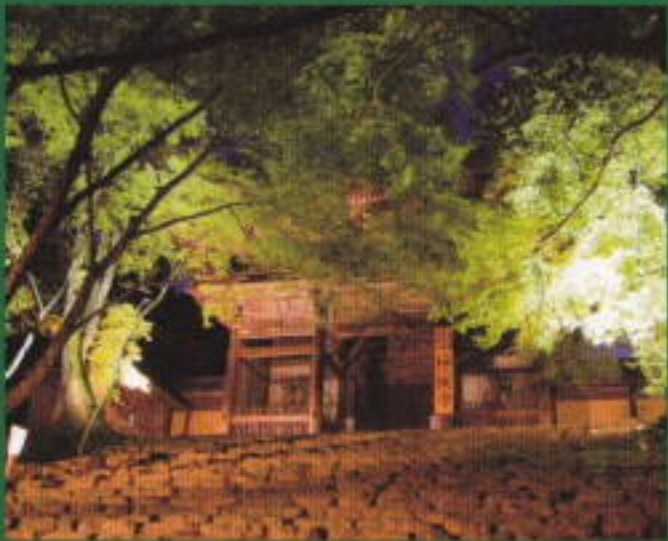




高雄山



神護寺



境内略図



高雄への交通

JRバス

京都駅から七条大宮—四条大宮—千本丸太町—北野白梅町—御室をへて毎時三往復ぐらいあります  
所要時間約五〇分

市バス

四条烏丸から四条通り—四条大宮—西大路四条—太秦天神川駅前—福王子をへて毎時一往復ぐらいあります  
所要時間約五〇分

シーズンには臨時に増発します

京都市右京区梅ヶ畑高雄町  
遺迹本山 高雄山神護寺  
電話(〇七五)八六二—一七六九





## 神護寺重宝もくろく (抄)

### ■国宝

金堂本尊木造薬師如来  
多宝塔安置木造五大虚空蔵菩薩  
紫綾金銀泥絵 両界曼荼羅  
絹本着色 釈迦如来画像  
絹本着色 源賴朝外二人肖像画

絹本着色 山水図六曲屏風  
灌頂曆名 (弘法大師筆)  
文覚上人四十五箇条起請文  
銅 鐘 (銘藤原敏行筆)

### ■重要文化財

大師堂  
日光月光菩薩像  
乾漆造 薬師如来坐像  
板彫 弘法大師像  
木造 毘沙門天立像  
木造 愛染明王像  
尊勝曼荼羅  
絹本着色 十二天画像  
絹本着色 真言八祖像  
絹本着色 真言上人画像  
絹本着色 足利義持画像

神護寺絵図 一冊  
神護寺々領絵図 四冊  
高山寺絵図 一冊  
紺紙金泥一切經二二三三卷  
付 經帙 二〇二枚  
經箱 四四合  
後宇多法皇宸翰素書状一卷  
二荒山碑文 一卷  
文覚上人書状案 一卷  
神護寺略記 一卷  
神護寺文書 二七四通

### 弘法大師の宗教

墮落した奈良仏教にあきたらず、入唐求法によって弘法大師が請来、開宗された真言宗は、従来の仏教、すなわち顕教からは、秘密仏教(密教)といわれますが、この真言密教の旨といえますところは、「真言陀羅尼には神祕の力があり、その一字一句には百千の義理を含蔵している。よってこれを念誦し、観修することによって、災を退け、福を招くことができるし、凡夫の身でもすみやかに仏になることができる」と、現世において利益をうけることができることを説いているものであります。

平安時代には、当時の権力者であった朝廷や公卿・貴族の信仰が厚かったため、世に貴族仏教のように言われておりますが、その本旨とするところはすべての人ひとに通じる、最も普遍的な教義であります。

### 神護寺のはじまり

平安京造営(七九四)の最高責任者(造宮大夫)であった和氣清原公が、いまの愛宕神社の前身、愛宕山白雲寺などとともに建てた愛宕五坊の一つで、「高雄山寺」とよばれたが、天長元年(八二四)、河内の神護寺(清原公創建)の地が、よこれた所でふさわしくないという理由から高雄山寺に合併されて、「神護国許真言寺」と称したのがはじまりであります。これより先、和氣一族は、叡山の最澄(伝教大師)や空海(弘法大師)をこの寺に招いて活躍の場とされたため、時の仏教界に新風を送ることとなり、平安仏教の発祥地となったところであります。

ことに弘法大師は唐(中国)より帰朝して、大同四年(八〇九)に入山、以来、十四年間住持され、真言宗立教の基礎を築かれたところでありまして、のちの東寺や高野山金剛峰寺と並ぶ霊刹であり、弘法大師を初代としております。

### 文覚上人の再興

平安時代に二度の災害のため、堂塔のほとんどを焼失しましたが、一世の豪僧、文覚上人がその荒廃をなげいて、寿永三年(一一八四)後白河法皇の勅許を得、源頼朝の援助もあって往年以上の復興をみました。

### 現在の盛観

応仁の乱では再び兵火をうけ、焼失しましたが、元和九年(一六二三)龍巖上人のとき、所司代板倉勝重の奉行によって楼門、金堂(いまの毘沙門堂)、五大堂、鐘樓を再興、近くは去る昭和十年山口玄洞居士の寄進で、昭和の名作といわれる金堂、多宝塔などが新築されて、今日の美観を整えております。

### 当山の宝物

その始まりと、中興の歴史が示しておりますように、寺宝には、平安時代前期(約一、一〇〇年前)と鎌倉時代(七・八〇〇年前)の二期にわたるものが大部分であり、しかも芸術的価値においては第一級品に目されるものを数多く所蔵しております。国宝一七点、重要文化財二、八三三点があります。

毎年五月初旬の「宝物虫払い」行事には、これらの主要なものを順次展覧いたします。



四季折々

境内の所々に梅、桜などの花が季節の移ろいに合わせて次々と色をそえていきます。

御影堂植華園では、草花の花が、春の終わりと夏の到来を告げるように、小さな白い花を咲かせます。

白い可憐な蓮花の季節が終わると、境内は夏を迎えます。

境内の木々の緑はその色をまし、白や淡いピンクの蓮、さらに萬葉が境内の池で花を咲かせます。

秋

九月を迎えると唐招提寺境内のいたるところで、白と薄紅色の萩の花が小さな花を咲かせます。

木々が紅や黄色に色づく頃には、中秋の名月をめぐる観月講仏会が行われます。

冬

吹く風に冷気がまじり、新はあたただしさを日に日にまじっていく冬、唐招提寺の境内は、白い雪におおわれることもあります。

冬には、迎春に備えて仏像のお身ぬぐいがあり、新しい年の平安を祈る行事が行われます。



年中行事

- 一月一・三日——修正会
- 一月十五日——大般若転読会
- 二月十五日——涅槃会
- 四月～五月——御影堂植華園（庭花特別開園）
- 五月十九日——中興忌梵網会（うちわまき）
- 六月五・六・七日——開山忌舍利会
- 八月二十四日——地藏会
- 中秋名月の日——観月講仏会
- 十月二十一～二十三日——釈迦念仏会
- 十二月十五日——お身拭い
- 十二月三十一日——除夜の鐘つき

●日程は変更される事もあるので、あらかじめご確認ください。



拝観時間 8:30～17:00 (受付は16:30まで)

律宗総本山

唐招提寺

〒630-8032 奈良市五条町13-46  
Tel.0742-33-7900 Fax.0742-33-5266  
URL: <http://www.toshodaiji.jp>







御影堂 上段の洞 山雲 東山魁夷画



金堂内陣 手前から薬師如来立像、虚空蔵菩薩像、千手観音立像



国室 金堂

## 鑑真大和上と唐招提寺

鑑真和上は六八八年に中国揚州で誕生、十四歳の時、揚州の大雲寺で出家されました。二十一歳で長安実際寺の戒壇で弘景律師に授戒を受けたのち、揚州大明寺で広く戒律を講義し、長安・洛陽に並ぶ者のない律匠と称えられました。七四二年に日本からの熱心な招きに応じ渡日を決意されましたが、当時の航海は極めて難しいもので、鑑真和上は五度の失敗を重ね盲目の身となられました。しかし和上の意志は堅く、七五三年十二月、六度目の航海で遂に來朝を果たされました。

翌年和上は東大寺大仏殿の前に戒壇を築き、聖武太上天皇をはじめ四百余人の僧俗に戒を授けました。これは日本初の正式授戒です。鑑真和上は東大寺で五年を過ごされたのち、七五八年大和上の称号を賜りました。あわせて右京五条二坊の地、新田部三たご親王の旧宅地を賜わり、天平宝字三年（七五九）八月戒律の専修道場を創建されました。これが現在の律宗総本山唐招提寺のはじまりです。

## 金堂

奈良時代（8世紀後半） 寄棟造・木瓦葺

南大門を入り参道の玉砂利を踏み締めて進むと、誰もが眼前に迫る金堂の雄容に圧倒されます。豊かな量感と簡素な美しさを兼ね備えた天平様式、正面に並ぶ八本のエンタシス列柱の吹き抜ちは、遠くギリシヤの神殿建築技法がシルクロードを越え、日本まで伝来したかのよう感じさせます。会津八一は「大寺のまろき柱の月かげを土に踏みつづものをこそ思え」と詠み、井上靖は和上の生涯を「天平の夢」と題した小説に書き、その名を世に広めました。内陣には像高三メートルに及ぶ虚空蔵菩薩（くわこざう）を中央に巨大な三尊「乾漆造（かんじつぞう）国宝」が居並び、鉄筋な空間を生み出しています。本尊・虚空蔵菩薩像（大仏）は宇宙の中心、釈迦の本地仏として中尊に、その東方に現世の苦悩を救済する薬師如来立像、西方に理想の未来へ導く十一面千手観音菩薩立像が配されています。本尊の脇には等身の梵天・帝釈天立像「木造 国宝」が並び、須弥壇（じゅみだん）四隅には四天王立像「木造 国宝」が諸尊を守護しています。創建以来の天平金堂と、内陣の九尊が織りなす曼荼羅世界は、参拝者を魅了せずにはおかないでしょう。

## 講堂

奈良時代（8世紀後半） 入母屋造・木瓦葺

講堂は、和上が当寺を開創するにあたり平城宮東朝集殿を朝廷より賜り移築したもので、平城宮唯一の宮殿建築の遺構です。本尊亦勒如来坐像「鎌倉時代 木造 重要文化財」は釈迦牟尼仏の後継で、将来必ず如来として出現し法を説くとされます。そのため通常は菩薩像ですが、本像は如来像として表現され、金堂の三尊と合わせて顕教四仏となる古式で配列されています。持国・增長の二天「奈良時代 重要文化財」も講堂内部に共に配されます。

## 鼓楼

鎌倉時代（仁治元年（一二四〇）） 檜造・入母屋造・木瓦葺

瀧酒（たきしゅ）な重層の建物で、本来は経楼とみられますが、鎌倉時代に再建されたのち鼓楼と呼称されたようです。一階に和上将来の三千粒の仏舍利を安置しているところから「舍利殿」とも称されます。毎年五月十九日には、鎌倉時代戒律を復興した大悲菩薩覺摩上人（おほくじょうしやうにん）の中興忌（うちわまき会式）が行われ、法要後、楼からハート型の宝扇がまかれます。この鼓楼と対をなす建造物として鐘楼があり、当初の建物は残っていませんが、梵鐘「重要文化財」は平安初期の数少ない遺例でたいへん貴重なものです。

## 礼堂・東室

鎌倉時代 弘安七年（一二八四） 入母屋造・木瓦葺

南北に長い建物で、従来は僧侶の起居した僧坊でした。講堂を中心に西と北にもそれぞれ建物があり、三面僧坊と呼ばれていましたが礼堂・東室のみが現存しています。中央の馬道（うまどう）と呼ばれる通路で南北に分けられ、南半分の礼堂は解脫上人貞慶（げだつしやうにんじやうけい）が始修された「釈迦公会」の会場に改められました。この法要では和上将来の仏舍利・金龜舍利塔（きんきせりとう）「国宝」が本尊として礼拝されますが、平素は清涼寺式釈迦如来立像「鎌倉時代 重要文化財」が安置されています。

## 宝蔵・経蔵

「ともに国宝」 奈良時代（8世紀） 校倉・寄棟造・木瓦葺

礼堂の東側に並んで建つ校倉（あぐらぐら）様式の建物で、北に位置し一回り大きい方が宝蔵です。南にある小さいほうの経蔵は、唐招提寺が創建されるより前にあった新田部親王邸の米倉を改造したものとわれ、日本最古の校倉です。

## 御影堂

「重要文化財」 江戸時代

もと興福寺別当一乗院の宸殿と殿上の遺構で、昭和三十八年（一九六三）に移築復元して鑑真和上坐像「国宝」を納め御影堂としたものです。昭和五十年には東山魁夷画による障壁画が揮毫奉獻され、和上の像を奉安する静寂な宸殿に、一層の荘厳さをもたらしました。毎年六月六日の開山忌舍利会の際、前後三日間だけ御影堂内が公開され、鑑真和上像を参拝することができます。



# 法輪寺 拝観案内



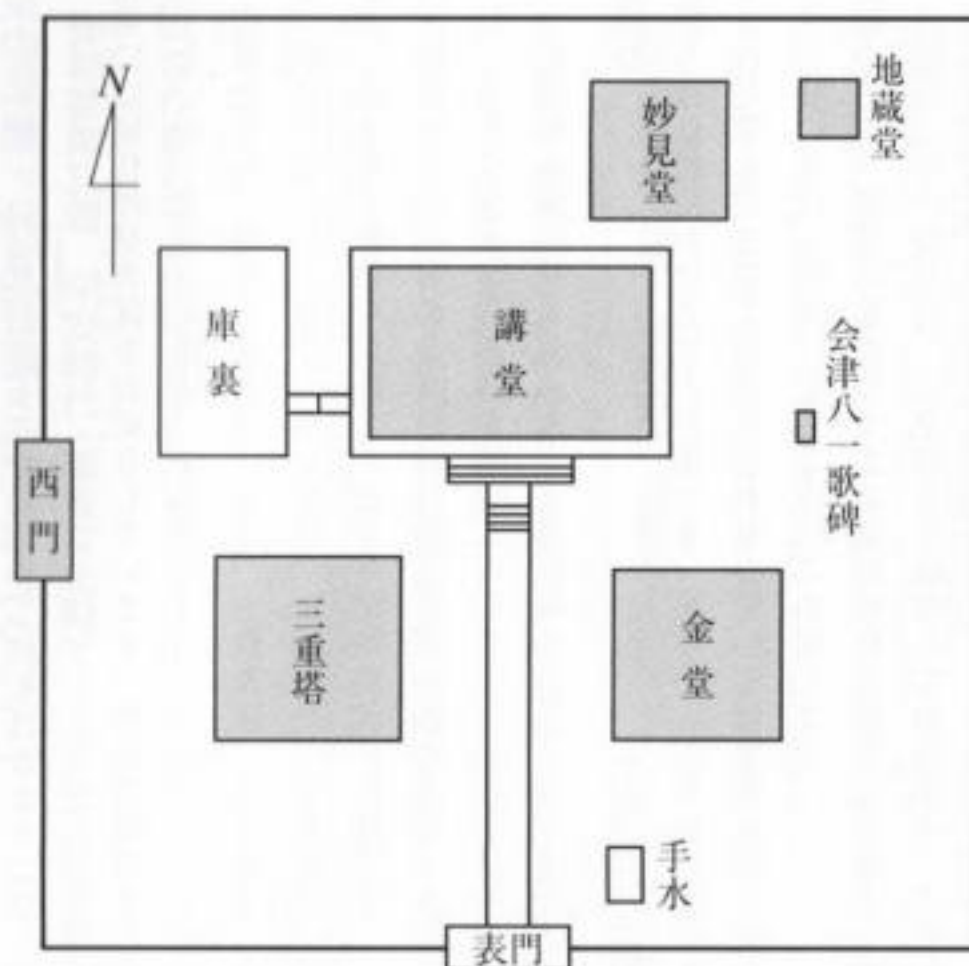
## 〔法輪寺の沿革〕

法輪寺は斑鳩の北方に位置し、土地の名によって三井寺とも呼ばれています。三井の地名は古く、聖徳太子が飛鳥より三つの井戸をこの地にお移しになったところからおこったと伝えられています。法輪寺の創建は飛鳥時代に遡り、聖徳太子の御子山背大兄王が太子の病氣平癒を願ってその子由義王とともに建立されたと伝え、また一説に、百濟開法師・円明師・下氷新物三人合力して造寺したともいいます。昭和二十五年（一九五〇）の発掘調査では、当寺が法隆寺式伽藍配置であること、規模は法隆寺西伽藍の三分の二であることなどが明らかになり、七世紀中には寺観が整っていたと考えられています。また平安仏を多く伝えることから、平安時代には寺勢なお盛んであったことがうかがえます。その後、法輪寺はしだいに衰退し、江戸時代初頭には、境内に三重塔を残すのみとなりました。法輪寺の再興は享保年間に寶祐上人によってはじめられました。聖徳太子感得と伝える当寺妙見菩薩信仰の熱心な信者をはじめ、大坂の商人を中心に多くの法縁を得て、まず三重塔が修理されました。さらに講堂・金堂等も順次再建され、長い年月をかけて現在にいたる伽藍が再興されていったと伝えられています。

## 〔三重塔について〕

斑鳩三塔の一つとして親しまれてきた当寺国宝三重塔は、昭和十九年（一九四四）七月二十一日、落雷で焼失しました。幸い仏舍利を拾得することができ、直後に再建を發願しましたが、全焼のため国宝指定は解除となり、全く独力での再建となりました。当代住職二代にわたって全国を勧進行脚しましたが、戦後の混乱期、また高度経済成長による物価高騰の時期をとおして再建は困難を極め、何度も停滞をみました。しかしながら、地元の方々や作家の幸田文先生はじめ全国の沢山の方々のご支援を頂戴し、ようやく昭和五十年（一九七五）、設計は竹島卓一博士、木工事は宮大工西岡常一棟梁のもと、焼失前の塔と同じ場所に同じお姿でお返しすることができました。現塔内には、旧塔焼失時にお救いできた仏舍利を心礎に、釈迦如来坐像と四天王像（共に平安時代）を初層にご安置しています。また、風のある日には、天人の楽にたとえられる風鐸の音を聞くことができるのも、再建三十年余の若々しい塔ならではの魅力といえるでしょう。





[年間行事]

- 星祭り 2月3日(節分)  
妙見菩薩の一ヶ年所願成就祈禱  
秘仏妙見菩薩像特別開扉
- 妙見会式 4月15日  
秘仏妙見菩薩像と天井星曼荼羅の特別公開
- 秋季特別展 11月1日～7日  
寺宝(通常非公開)等の特別公開
- 妙見菩薩開運息災護摩 毎月15日  
妙見菩薩の所願成就祈禱
- お写経の会 毎月第4日曜日  
妙見菩薩神呪経冒頭104文字の写経

[交通案内]

- ・近鉄筒井駅より奈良交通バス王寺方面行、中宮寺前下車徒歩約15分
- ・近鉄郡山駅より奈良交通バス法隆寺方面行、法起寺前下車徒歩8分
- ・JR法隆寺駅より徒歩35分
- ・各駅タクシーあり

[拝観時間]

- ・3月～11月末日＝午前8時～午後5時
- ・12月～2月末日＝午前8時～午後4時半



〒636-0101 奈良県生駒郡斑鳩町三井1570  
 電話 0745-75-2686  
 Eメール horinji@kcn.ne.jp  
 ホームページ http://www1.kcn.ne.jp/~horinji/

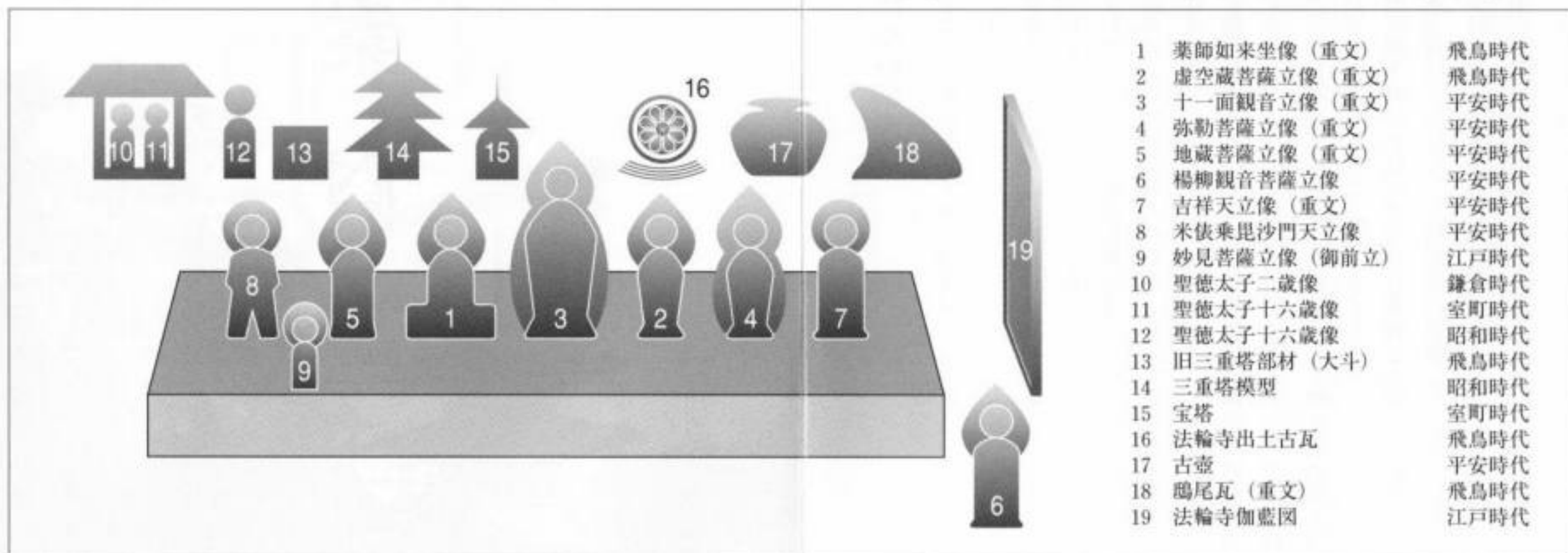
# 法輪寺

- 金堂……本来、寺の本尊をまつるためのお堂で、当寺では塔・講堂とともに伽藍の中心となる建物です。現在の金堂は宝暦十一年(一七六一)に再建されたもので、収蔵庫ができるまで諸仏をご安置していました。
- 講堂……本来、僧が勉強するためのお堂です。現在の講堂は昭和三十五年(一九六〇)に耐火耐震の収蔵庫として改築されたものです。
- 妙見堂……秘仏妙見菩薩像をご安置し、星祭りや毎月の護摩供などを修する行堂です。現妙見堂は平成十五年(二〇〇三)に竣工しました。
- 地藏堂……江戸時代の建物で、鎌倉時代末の石のお地藏様をご安置しています。
- 西門……板を並べた上に土を置き、妻に土留めの絵振板を置いた上土門の貴重な遺構です。昭和五十二年(一九七七)に修復されました。県指定文化財。
- 秋艸道人歌碑……史学者であり、書家、歌人の秋艸道人(会津八一)が、当寺十一面観音菩薩を詠んだ歌の歌碑。昭和三十五年(一九六〇)建立。  
 「くわんのんのしろきひたひにやうらくのかげうこかしてかぜわたるみゆ」



「講堂の仏像について」

- 1、**薬師如来坐像** 飛鳥時代(重要文化財)……当寺の本尊で、現存する飛鳥時代の木彫如来像としては唯一最大といわれています。樟材の一木造で、必要に応じて木寄せが行なわれており、内刳りはありません。山背王御一族の現世利益を祈願して鞍部止利につくらしめたと伝え、薬壺を持たない古い形式をもっています。七世紀中頃の作とされますが、光背は後補のものです。
- 2、**虚空蔵菩薩立像** 飛鳥時代(重要文化財)……寺伝により虚空蔵菩薩とお呼びしていますが、左手に水瓶をもち右手は屈臂仰掌しているお姿は、観音菩薩と称すべきでしょう。樟の一木造で内刳りはありませんが、木心部分に空洞状の朽損があり、はじめからそのような材を使用したと考えられています。七世紀中頃の作と考えられ、薬師如来坐像と同じく止利派の仏師によってつくられたようです。
- 3、**十一面観音菩薩立像** 平安時代(重要文化財)……講堂の本尊です。像高は約四メートル、頭部から蓮肉までを杉の一材から彫り出し、両肩を接ぎつけています。大きな眼、太い眉、厚い唇の力強いお顔に平安前期の特色がうかがえますが、全体のおだやかな作風から十世紀頃のものと考えられています。
- 4、**弥勒菩薩立像** 平安時代(重要文化財)……寺伝では聖観音菩薩ですが、持物の蓮華に塔をのせていることから弥勒菩薩と称されるようになったのでしょう。檜の一木造で、その作風から十世紀後半頃の作と考えられるようです。
- 5、**地藏菩薩立像** 平安時代(重要文化財)……頭部は僧形に造られ、髪際を波打たせているのが特徴的です。頭部から像底の臍まで、内刳りのない檜の一木造です。顔には胡粉、法衣には朱のあとが残っています。十世紀頃の作とされています。
- 6、**楊柳観音菩薩立像** 平安時代……楊柳観音の名称は、慈悲深く衆生の願望に従うことが楊柳の風になびく様子に似ているのに由来します。補修は全身に及び、造立当時の印相を伝えているかは不明です。平安時代後期の作とされています。
- 7、**吉祥天立像** 平安時代(重要文化財)……杉の一木造で、背剣をほどこし、背板を当てています。浅い彫りや穏やかな像容から、十世紀後半頃ののものではないかといわれています。
- 8、**米俵乘毘沙門天立像** 平安時代……もとは桜の一木造の像でしたが、当初部分は頭部から腹部までで、他は檜材等による後補です。米俵に乗る毘沙門天像は他に類を見ないということです。平安時代前期の作とされます。
- 9、**妙見菩薩立像(御前立)** 江戸時代……この像は妙見堂の秘仏・妙見菩薩像の御前立で、熱心な信者の念持仏であったともいいます。秘仏の妙見菩薩立像は十一世紀頃の作とされ、現存する最古の木彫妙見像ともいわれています。
- 10、**聖徳太子二歳像(南無仏像)** 鎌倉時代……二歳の太子が二月十五日に合掌され「南無仏」と唱えると、手から仏舍利がこぼれよい香りが上ったという逸話のお像です。
- 11、**聖徳太子十六歳像(孝養像)** 室町時代……太子十六歳の折、ご病気になるため父用明天皇のために香炉を執って平癒を祈られたというお姿をあらわしたお像です。



- |    |              |      |
|----|--------------|------|
| 1  | 薬師如来坐像 (重文)  | 飛鳥時代 |
| 2  | 虚空蔵菩薩立像 (重文) | 飛鳥時代 |
| 3  | 十一面観音立像 (重文) | 平安時代 |
| 4  | 弥勒菩薩立像 (重文)  | 平安時代 |
| 5  | 地藏菩薩立像 (重文)  | 平安時代 |
| 6  | 楊柳観音菩薩立像     | 平安時代 |
| 7  | 吉祥天立像 (重文)   | 平安時代 |
| 8  | 米俵乘毘沙門天立像    | 平安時代 |
| 9  | 妙見菩薩立像 (御前立) | 江戸時代 |
| 10 | 聖徳太子二歳像      | 鎌倉時代 |
| 11 | 聖徳太子十六歳像     | 室町時代 |
| 12 | 聖徳太子十六歳像     | 昭和時代 |
| 13 | 旧三重塔部材 (大斗)  | 飛鳥時代 |
| 14 | 三重塔模型        | 昭和時代 |
| 15 | 宝塔           | 室町時代 |
| 16 | 法輪寺出土古瓦      | 飛鳥時代 |
| 17 | 古壺           | 平安時代 |
| 18 | 鴟尾瓦 (重文)     | 飛鳥時代 |
| 19 | 法輪寺伽藍図       | 江戸時代 |



「その他の寺宝について」

- 1、**鷓尾瓦** 飛鳥時代（重要文化財）……鷓尾は寺院建築の大棟両端に用いられた魚尾型の棟飾りです。創建当初の講堂のものと考えられ、赤い彩色の痕跡が見られる鷓尾は、他に類を見ないということです。
- 2、**龍鬘** 飛鳥時代（重要文化財）……二分の一に分断されていますが、現存する花筵としては最古のものと考えられています。当寺では推古天皇の即位の儀に使用された御褥と伝えています。
- 3、**塔心礎納置銅壺** 白鳳時代（重要文化財）……当寺三重塔の創建時に心礎に納置された舍利容器です。元文四年（一七三九）の三重塔修理に際し、塔心礎の舍利孔から発見されました。
- 4、**その他の宝物**
  - 釈迦如来坐像（平安時代 県指定文化財）
  - 妙見菩薩立像（平安時代 秘仏／四月十五日御開扉）
  - 四天王立像（平安時代）
  - 宝塔文磐（平安時代 重要文化財）
  - 錫杖頭（平安時代 県指定文化財）
  - 釈迦三尊十八羅漢図（室町時代）
  - 浄土曼荼羅図（十六世紀李朝期）

※鷓尾瓦以外は非公開です。

「法輪寺開基 山背大兄王について」



山背大兄王は聖德太子と蘇我馬子の娘刀自古郎女との間に生まれ、三井の井戸の水で産湯をつかったと伝えます。

の没後、有力な王族である山背大兄王は皇位継承の政争に巻き込まれ、皇極二年（六四三）、ついに蘇我入鹿らの送った軍兵の襲撃をうけ、宮殿を焼かれて生駒山に逃れました。

家臣より再起の戦を進言された大兄王は、「我が身のために万民を疲弊させることは望まない、身を捨てて国を固められるなら、それこそ丈夫ではないか」と断り、斑鳩寺で一族とともに自害されました。

聖德太子の遺訓「諸悪莫作、諸善奉行（すべての悪いことをするな、善いことをなせ）」を、大兄王は最後まで守られました。

「星の仏様 妙見菩薩と諸行事について」

妙見堂には秘仏妙見菩薩をお祀りしています。妙見菩薩はまた北辰尊星王といひ、北辰（北極星）が仏格化された仏様です。宇宙の中心・根源とされ、諸星の最高位にあり、五穀豊穰、天下泰平、一族繁栄、病氣平癒、息災延命、商売繁昌、交通安全、学業成就、縁結びなど、あまねく願いをお聞きくださる諸願成就の仏様です。また、妙見堂の格天井の各升目には妙見菩薩の治める星々が百近く描かれ、天井全体が星曼荼羅を構成しています。北斗七星や十二宮といった馴染み深い星も見られ、まさに星のお堂となっています。

■星祭り

二月三日（節分）

星祭りは仏教における星の行事です。各々の「当り星（その人の生まれた年を司る星）」の巡り合わせが悪い年は悪事災難を免れるよう、善い年は一層善くなるようにご祈願します。

法輪寺では、諸星の最高位である北辰妙見菩薩をご本尊として、二月節分（年の変わり目）に星祭りを厳修しております。ご祈願する方の年齢の「当り星」を祭り、一カ年のご祈願をして、一人ひとりにお札をお授けします。

■妙見菩薩開運息災護摩

毎月十五日

各人の所願成就を妙見菩薩にご祈願します。お焚き上げる護摩木は随時講堂内で受けつけています。またご希望の方には、特別祈禱札をお授けします。

■お写経の会

毎月第四日曜日

古くから当寺で読誦されてまいりました「妙見菩薩神呪経」より、冒頭の一〇四文字をお写経いただき、妙見堂にお納めして、諸願成就をご祈念申し上げます。

お手本と道具一式をご用意しております。また、ご希望の方には郵送も致します。

※ご祈願についてのお問い合わせ、お申し込みは、当寺までご連絡ください。詳細をご説明のうえ、お申し込み用紙をお送りいたします。



ごあいさつ

斑鳩町長  
小城利重



ようこそ、歴史と文化の豊かなまち斑鳩町へお越し  
いただきました。

平成22年3月20日、当町にとって念願でありました  
国史跡藤ノ木古墳のガイダンス機能を有し、また貴重な  
文化財の保管や展示の可能な機能を備えた文化財の  
調査・研究及び情報発信の拠点施設として「斑鳩文化  
財センター」が開館いたしました。

センター内の展示室では、藤ノ木古墳より出土した  
代表的な副葬品のレプリカの常設展示を行っております  
とともに、映像ホールにおいては、藤ノ木古墳や斑鳩の  
歴史と文化についても、映像によってわかりやすく学習し  
ていただけます。

当施設では、オープニング記念として開催しました  
特別展「国宝藤ノ木古墳出土品展」をはじめ、  
斑鳩町に関するさまざまな展示会を開催することによ  
って、多くの方々に藤ノ木古墳をはじめ斑鳩の歴史や  
文化の魅力やすばらしさを再認識していただけるよう  
努めております。また歴史豊かな斑鳩らしいまちづくりの  
姿として、新たな観光施設としても当施設、史跡藤ノ木  
古墳、西里の古い町並み、法隆寺、法隆寺iセンターと、  
歩いて散策できる回遊型の新たな観光ルートとしてご利用  
いただいております。

最後に、当施設の運営にあたり、ご尽力をいただい  
ております関係者のみなさま方には厚くお礼申し上げます  
とともに、今後ともみなさまに親しまれる施設としてご利用  
いただけるよう努めてまいりますので、みなさまのご支援、  
ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



交通案内

- 法隆寺駅下車、NOバス法隆寺門前バス停下車、西へ徒歩約5分
- 天王寺駅下車、奈良交通バス斑鳩町役場前バス停下車、北へ徒歩約3分
- 近鉄奈良駅下車、奈良交通バス斑鳩町役場前バス停下車、北へ徒歩約3分

斑鳩文化財センター  
(斑鳩町文化財活用センター)

F.639-2114 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺西1丁目1番14号  
TEL.0745-70-1200 FAX.0745-70-1201  
URL <http://www.town.ikaruga.nara.jp>

斑鳩文化財センター

(斑鳩町文化財活用センター)

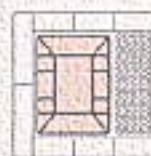
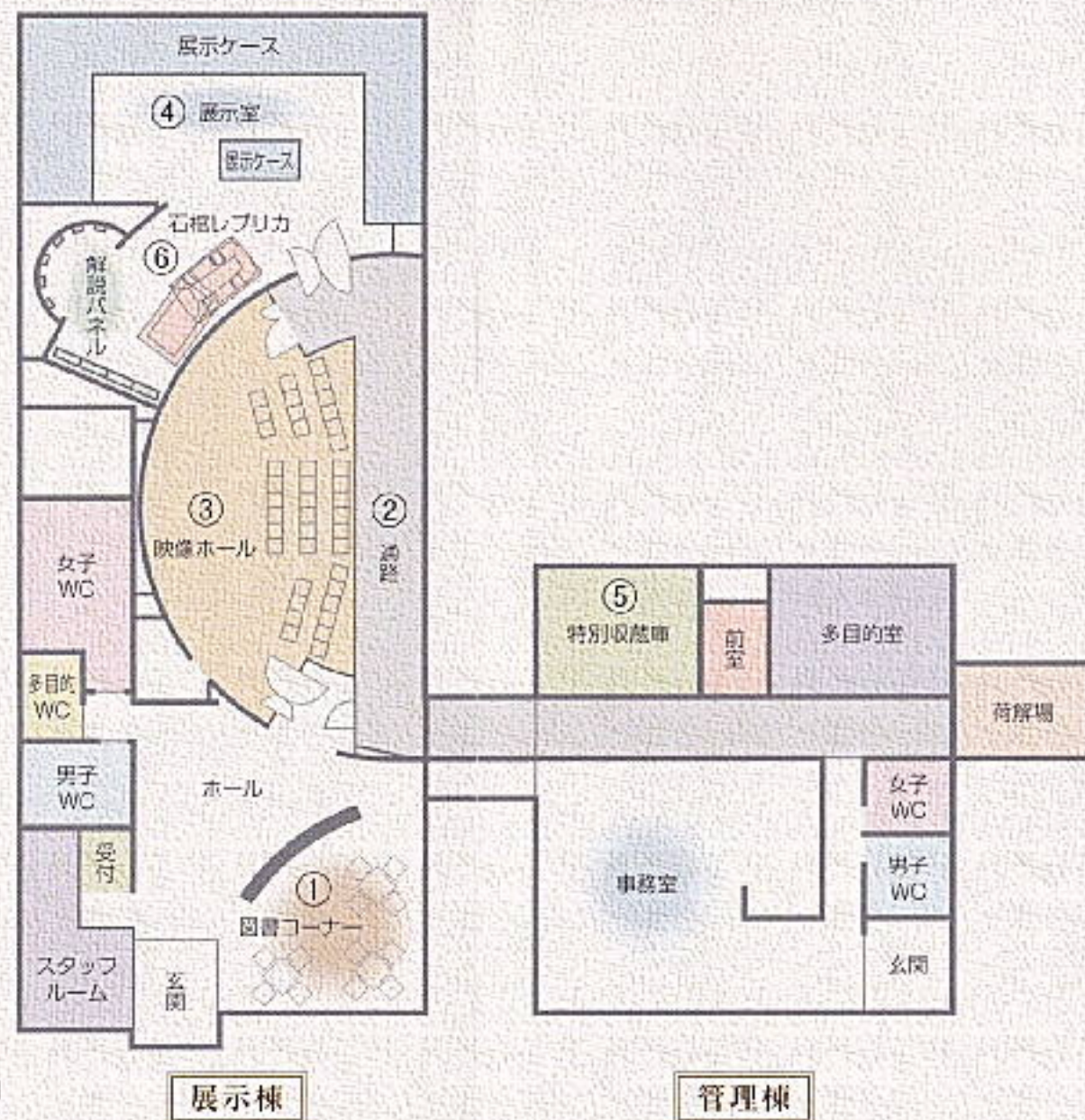


斑鳩町



## 斑鳩文化財センター 施設概要

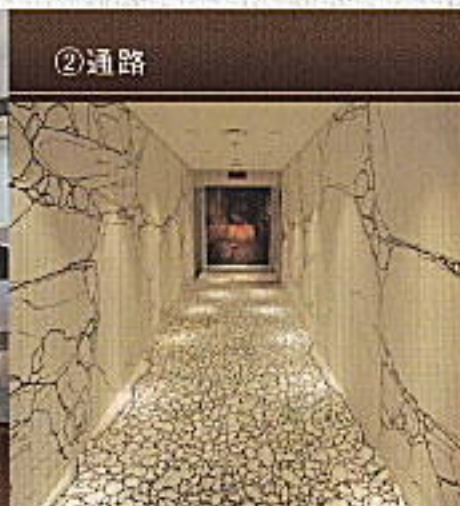
- ◆ 名称：斑鳩文化財センター  
(正式名称：斑鳩町文化財活用センター)
- ◆ 所在地：〒636-0114 奈良県生駒郡斑鳩町  
法隆寺西1丁目11番14号
- ◆ 開館日：平成22年3月20日
- ◆ 敷地面積：1,600.19㎡
- ◆ 建築面積：530㎡  
 ①展示棟(347.85㎡)  
 ②管理棟(175.15㎡)  
 ③自転車置場(7㎡)
- ◆ 建物構造：鉄筋コンクリート造、平屋建て、日本瓦葺
- ◆ 開館時間：午前9時～午後5時  
(※但し、入館は午後4時30分まで)
- ◆ 休館日：水曜日  
 ※但し、特別展期間中や水曜日が休日にあたる場合は  
 開館いたします  
 年末年始(12/28～1/3)
- ◆ 観覧料：無料  
 ※但し、特別展等有料の場合があります



石棺レプリカ



①図書コーナー



②通路



③映像ホール



④展示室



⑤特別収蔵庫



⑥石棺レプリカ(展示室内)





旧斑鳩御所

# 中宮寺

Chūgū-ji Temple



## 天寿国曼荼羅繪「国宝」

※国宝は複製品です。

聖徳太子は推古天皇即位三十年（六二二）御年四十八で薨去遊ばしました。御妃橘大郎女はいたくお嘆きになり、太子様を御慕いのあまり、宮中の采女たちに命じ、太子様が往生なさっている天寿国という理想浄土のありさまを刺繍せしめられたのが、この天寿国曼荼羅でありました。もとは補綴二帳より成り、そこに四百字の銘文が刺繍されていて、その全文は「上宮聖徳法王帝説」という書の銘文に残っております。それによりますと、両者は東漢末賢・高麗加世溢・漢奴加巴利、監督は瑠部奈久麻でした。その後、年の経つにつれて破損し、法隆寺の宝蔵に秘せられますが、鎌倉時代の当寺、中興信如比丘尼が発見し、修復されて、別一帳の模本の補綴をも製作されました。現在の補綴は、飛鳥時代の原本と鎌倉時代の模本とが貼り合わされて、一帳にまとめられています。この中の赤衣の像が、当時の服制に照らして太子様ではないかといわれています。図中には亀甲型が四箇残り、一箇に四字ずつ「部間人公」「千時多至」「皇前日啓」「仏是真玩」の文字をあらわし、「上宮聖徳法王帝説」に伝える銘文に合致しております。

◆尚、寺宝には左の如きものがあります。

- 紙張子文殊菩薩立像(重文)——一軀 鎌倉時代
- 木造用宝童子立像——一軀 鎌倉時代
- 刺繍阿弥陀三尊来迎図(県文)——一幅 鎌倉時代
- 紙本墨書瑜伽師地論(重文)——二卷 奈良時代
- 絹本着色十六羅漢図——一幅 室町時代
- 中宮寺扇額——一面 藤原時代
- 孔雀文銅磬——一枚 鎌倉時代



旧斑鳩御所

# 中宮寺

拝観時間（受付は閉門15分前まで）

春・夏 3月21日～9月30日迄 午前9時～午後4時30分  
秋・冬 10月1日～3月20日迄 午前9時～午後4時

〒636-0111 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺北1-1-2  
TEL.0745-75-2106 FAX.0745-74-2956

拝観券



## 中宮寺の沿革

当寺は聖徳太子の御母穴穗部間人皇后の御願によって、太子の宮居飛鳥宮を中央にして、西の法隆寺と対照的な位置に創建された寺であります。その旧地は、現在の東方五〇〇メートル程の所に土壇として残って居ります。昭和三十八年の発掘調査により、南に塔、北に金堂を配した四天王寺式配置の伽藍であったことが確認され、それは丁度法隆寺旧地若草伽藍が四天王寺式であるのに応ずるものと云えましょう。而も其の出土古瓦は若草伽藍にはなく、飛鳥の向原寺(桜井尼寺)と同系統のもので、法隆寺は智寺、当寺は尼寺として初めから計画されたと思われる。国宝菩薩半跏像(如意輪観世音菩薩)は其の金堂の本尊で、天寿国曼荼羅は、講堂の本尊茶師如来像の背面に奉安されたものと伝えております。

その後、平安時代には寺運衰退し、宝物の主なるものは法隆寺に移され、僅かに草堂一字を残して菩薩半跏像のみ居ますと云った状態でありました。鎌倉時代に入つて中興信如比丘尼の尽力により、天寿国曼荼羅を法隆寺宝蔵内に発見して取り戻すなど、いくらかの復興を見たものの、往時の盛大には比すべくもありませんでした。室町時代のことは殆ど判りませんが、旧地よりその時代の古瓦が出土することから、その頃まで法燈が続いていたようであります。ところが、たびたび火災に遭い、法隆寺東院の山内子院に避難し、旧地への再建ならず、ここに後伏見天皇八世の皇孫尊智女王(慶長七年薨)が御住職遊ばされ、以来尼門跡法場御所として次第に寺観を整えたのが今の伽藍であります。

宗派は、鎌倉時代頃は法相宗、その後真言宗泉涌寺派に属し、戦後は法隆寺を本山とする聖徳宗に合流することになりましたが、依然大和三門跡尼寺の随一としてその伝統を伝えております。我国の尼寺の数は少なくありませんが、創建の飛鳥時代このかた千三百余年の永きに亘り、尼寺の法燈を続けているのは実に当寺だけであります。

## 中宮寺本堂

高松宮妃殿下の御発願により吉田五十八先生が設計され、昭和四十三年五月落慶の御堂であります。当寺は伏見宮様より女王様御三方と後西天皇内親王様御一方を始め、有栖川宮より皇女御三方が門跡として法燈をお守り戴いております。又高松宮は有栖川宮祭祀をお継承になり、殊に高松宮妃殿下の御母君は有栖川宮の最後の皇女であらせられます。このような高松宮と当寺との浅からぬ御因縁から高松宮妃殿下は、寺に万一の事があつたらと御心痛遊ばされ、耐震耐火の御堂の建立を念願されこの本堂が出来たのであります。以前の本堂は西向きでしたが、上代寺院の規矩に従い南面にし、而も本堂と精進と池とを組み合わせ、円跡寺院らしい優雅さ、尼寺らしいつつましかさに昭和の新风を兼ね備えた御堂になったのであります。樹組、葺段等の組物を一切使わない簡素なつくりの中に、高い格調を狙ったことが特徴であり、又池の廻りに黄金色の八重一重の山吹を植え、周囲に四季折々の花木を配し、斑鳩の里にふさわしい女性の寺院としての雰囲気にして戴いております。



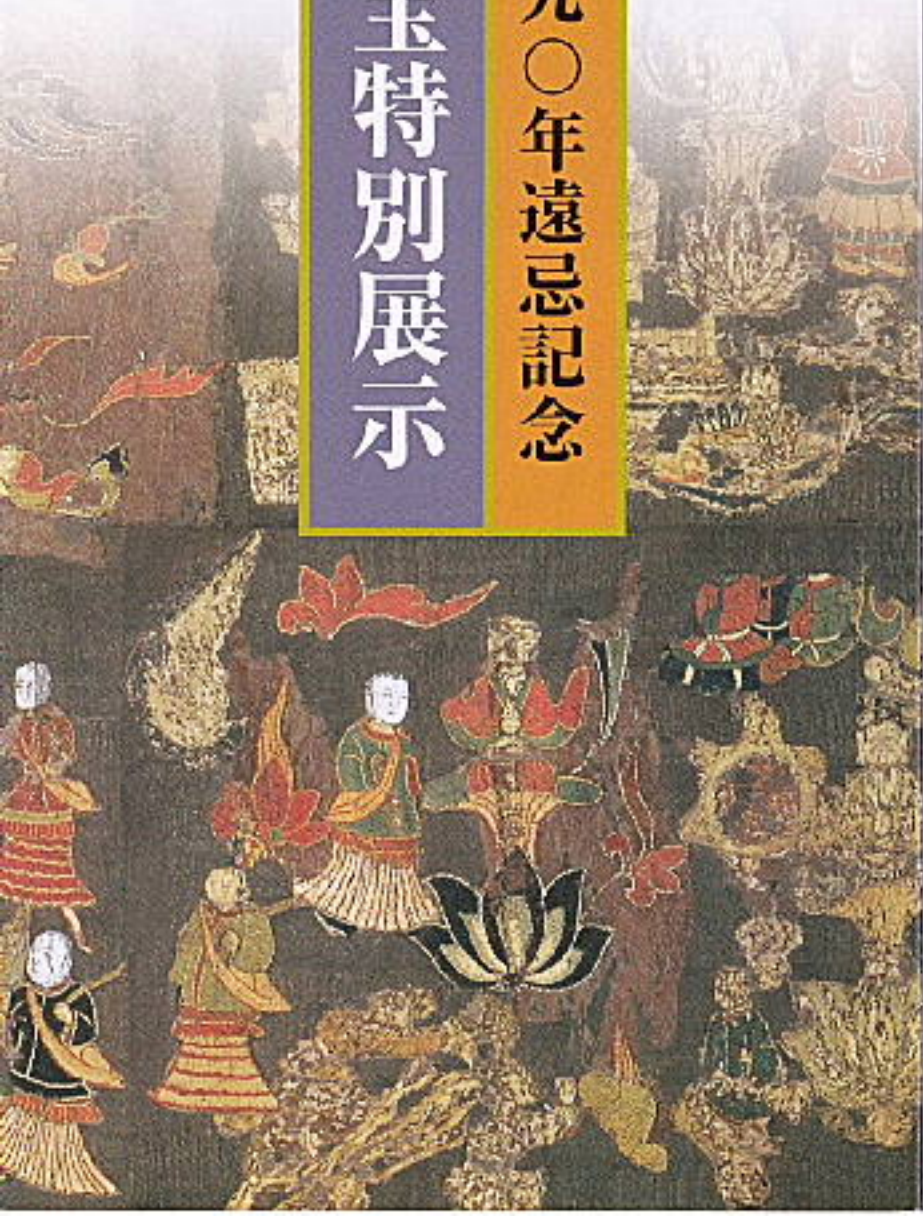
## 本尊菩薩半跏像 (如意輪観世音菩薩) 「国宝」

東洋美術における「考える像」として有名な思惟半跏のこの像は、飛鳥彫刻の最高傑作であると同時に、わが国美術史上欠かすことの出来ない作品であります。国際美術史学者間では、この像のお顔の優しさを数少ない「古典的微笑(アルカイックスマイル)」の典型として高く評価し、エジプトのスフィンクス、レオナルド・ダ・ヴィンチ作のモナリザと並んで「世界の三つの微笑像」とも呼ばれております。半跏の姿勢で左の足を垂れ、右の足を左膝の上に置き、右手を曲げて、その指先をほのかに頬に触れる優美な造形は、人間の扱いをいかにせんと思惟されるにふさわしい清純な気品をたたえています。斑鳩の里に千三百余年の法燈を継ぐ当寺のこの像は、御本尊として永遠に吾等を見守って下さるでしょう。





# 聖徳太子一三九〇年遠忌記念 中宮寺 寺宝特別展示



斑鳩御所

## 中宮寺

拝観時間（受付は閉門15分前まで）

春・夏 3月21日～9月30日迄 午前9時～午後4時30分  
秋・冬 10月1日～3月20日迄 午前9時～午後4時

〒636-0111 奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺北 1-1-2  
TEL.0745-75-2106 FAX.0745-74-2956

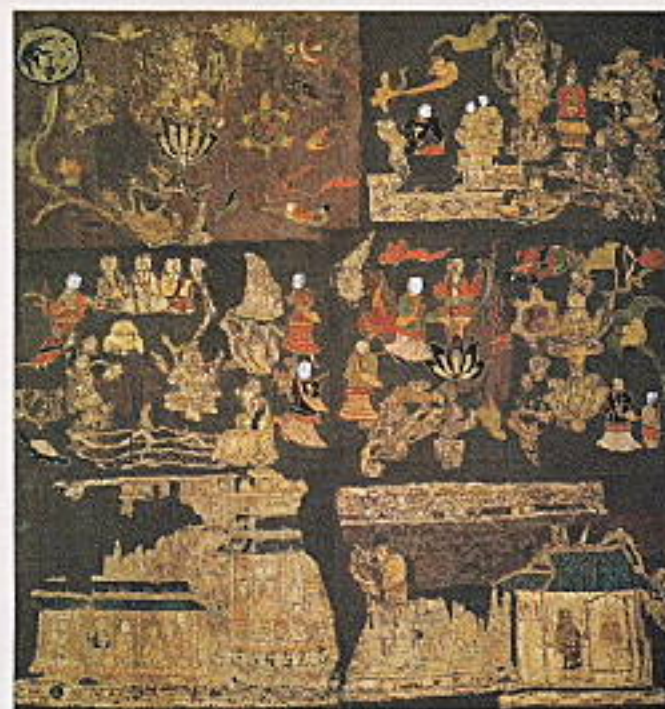


この春、聖徳太子千三百九十年御遠忌を記念して、日本経済新聞社主催の特別展「法隆寺展」が開催されます。当寺は太子の御母穴穂部間人皇后の御願により創建された由緒をもち、今回の特別展に寺宝を出展する運びとなりました。国宝「天寿国曼荼羅繡帳」は寺宝の白眉であり、飛鳥時代から伝来する至宝です。保管に万全を期すため奈良国立博物館に寄託し、本堂には複製を配しております。「法隆寺展」にこの複製品を出展するにあたって、国宝の「天寿国曼荼羅繡帳」が博物館から里帰りして、特別展示を行うことになりました。会期後半の限られた期間ではありますが、拝観の皆さまには、この歴史的公開に立ち会い太子の遺徳を偲んでいただければ幸いです。

なお、国宝「天寿国繡帳」の公開前には「天寿国繡帳模写複製」（奈良国立博物館所蔵）を展示、さらに重要文化財「文殊菩薩立像」（東京国立博物館寄託）も公開いたします（3月31日まで）。是非ともご展覧下さいませ。







### 国宝 天寿国曼荼羅繡帳

縦八八・八三 横八二・七二  
鎌倉時代

聖徳太子が往生したという天寿国のありさまを刺繍で表した作品。記録によると推古三十年（六三二）太子が亡くなり、妃の橘大郎女が天皇の許しを得て宮中の采女らに刺繍させたという。繡帳は鎌倉時代に所在が不明となり、中宮寺の当時の尼僧・信如によって法隆寺網封蔵から発見された。信如はこのおり繡帳の修理にあわせ複製を制作した。しかし、江戸時代には原品、複製とも傷みが著しく、残った部分を貼り交ぜにして後世に伝えられた。仔細に観察すれば蓮枝を持って供養する人々、蓮華から生まれた夫人、蓮池に立つ大きな蓮華座、鐘楼、甲に文字を負った鳥などが見える。

### 重要文化財 紙製文殊菩薩立像

一筆  
像高五二・五〇  
鎌倉時代

愛らしい童子を思わせる、ふっくらと丸みを帯びた様相の像。高さ五二・五センチメートルと小ぶりだが、非常に珍しい紙製の像で、鎌倉時代の彫刻として他に例がない。中宮寺の当時の尼僧・信如が、文殊菩薩の飯智が世の中にあまねく広がることを願って文永六年（一二六九）に造立したことが、胸部に納められた願文と紙背銘から判明している。「金剛界略次第」「胎藏界略次第」の卷子本に母子本「法華経」などを巻いて体服の芯とし、紙を貼り重ねて形を整えた上で彩色し玉眼を入れるという特殊な方法で造形されている。補修を重ねているため仏師の考証は困難だが、信如が愛用したであろう經典や消息を用いて仕上げられた像は、中宮寺の歴史と信仰を今に伝える貴重な寺宝である。

### 天寿国繡帳模写軸装（奈良国立博物館所蔵）

一冊  
大正時代

天寿国繡帳の実物大の模写。刺繍ではなく、紙に絵具で写されている。制作年や作者に関する記録はないが、奈良国立博物館には大正七年（一九一八）十一月に収蔵されている。天寿国繡帳はこの時期修理が行われており、現在見るような額装に改められた。修理の完成は翌八年であることから、この模写は修理中に製作されたと考えてよいだろう。原作品を丹念に模写しているが、地の色は褐色の一種で塗られており、原作品の飛鳥時代の紫色の地裂や鎌倉時代の暗紫色の地裂は描かれていない。また、一部に原作品には見られない図様も表されている。このような違いがなぜ生じたのかは分からないが、修理中の状況を伝える資料として貴重である。

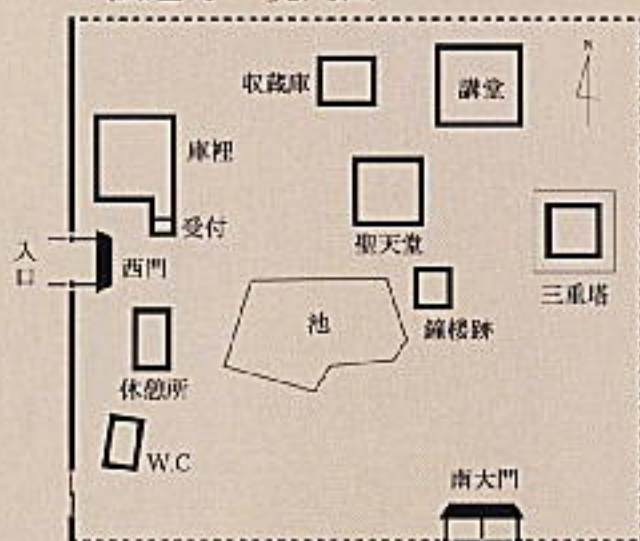


世界文化遺産

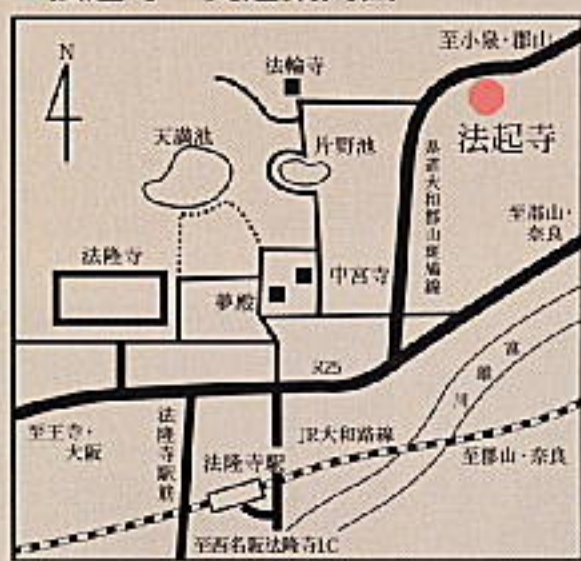
法起寺

NARA HOKI-JI TEMPLE

法起寺 境内図



法起寺 交通案内図



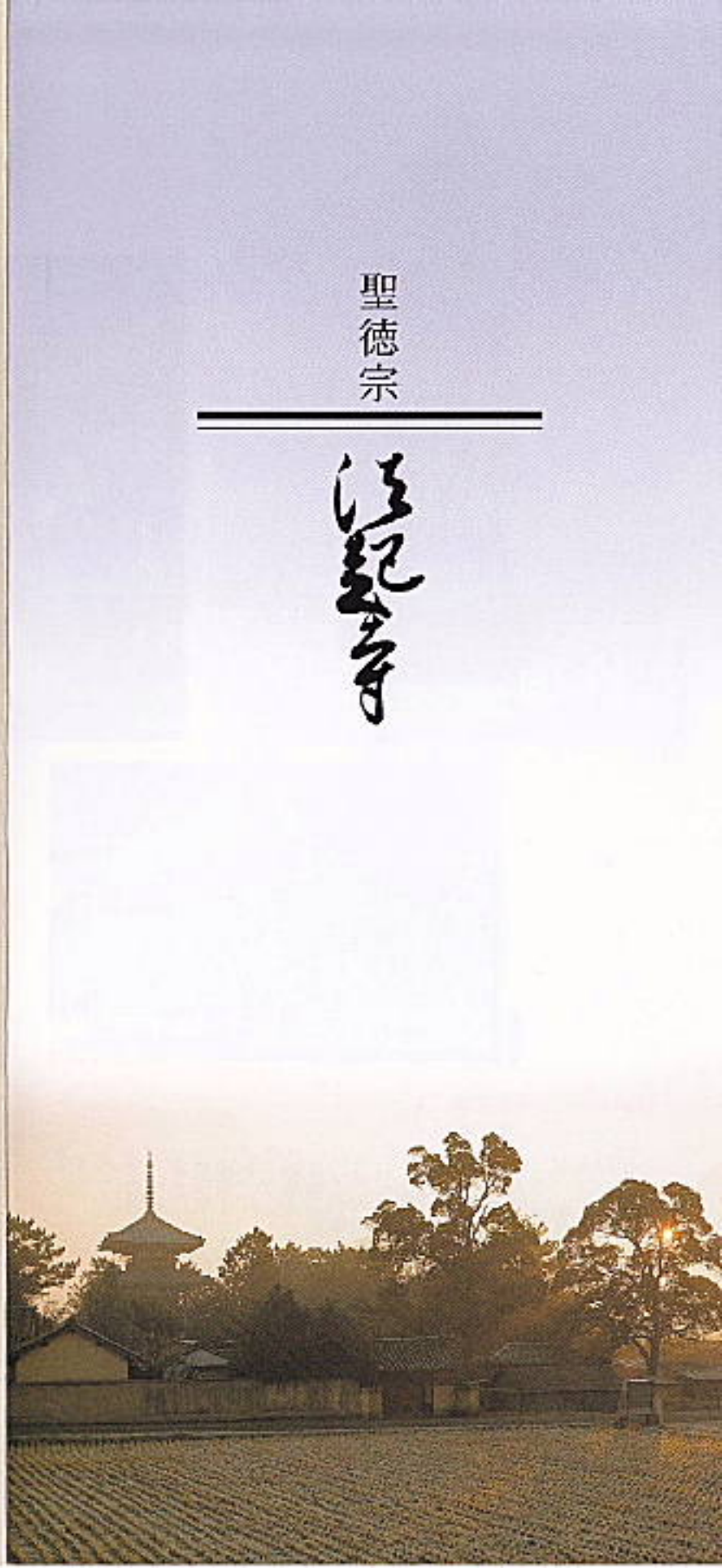
交通のご案内  
●JR法隆寺駅より北東約2.5Km。

聖徳宗

法起寺

聖徳宗 法起寺

〒636-0102 奈良県生駒郡斑鳩町大字岡本1873番地  
TEL0745 (75) 5559





## 法起寺の沿革

法起寺は奈良県生駒郡斑鳩町大字岡本にあり、岡本尼寺、岡本寺、池後寺、池後尼寺と呼ばれている。

この寺は、推古十四年（六〇六）に聖徳太子が法華経を講説されたという岡本宮を寺に改めたものと伝え、法隆寺、四天王寺、中宮寺などと共に、太子御建立七カ寺の一つにかぞえられている。

創建の由来については「聖徳太子伝私記」に記録する当寺の三重塔にあった露盤銘によって判明する。それによると、推古三十年（六二二）二月二十二日、聖徳太子はその薨去に臨み、長子の山背大兄王に宮殿（岡本宮）を改めて寺とすることを遺命し、山背大兄王は大倭国田十二町、近江国の田三十町を施入したという。

その後、舒明天皇（六三八）に福亮僧正が聖徳太子のために、弥勒像一軀と金堂を造立し、天武十四年（六八五）には惠施僧正が宝塔の構立を発願し、慶雲三年（七〇六）三月に塔の露盤を作ったとしている。

この露盤銘に記すように近年境内の発掘調査の結果、前身建物の遺構の一部が確認されており、法起寺の建立以前に岡本宮と見られる宮殿が存在していたことが明らかとなった。同時に、中門を入って右に三重塔、左に金堂、中央正面奥に講堂があり、廻廊は中門左右から堂塔を囲み、講堂の左右に接続する様式の伽藍であったと推測されている。

当寺のことは、『正倉院文書』や『日本霊異記』にも見え、奈良時代には相当栄えていたらしいが、平安時代から法隆寺の指揮下に入り、寺運も徐々に衰微したが、鎌倉時代には講堂や三重塔が修復されている。しかし、室町時代に再び衰え、江戸時代のはじめごろには三重塔のみを残すのみであったという。

その荒廃を憂い、当寺の再興を発願した寺僧の真政圓忍とその弟子たちは、延宝六年（一六七八）に三重塔を修復した。それ以降も、寺僧たちの努力によって浄財を集め、元禄七年（一六九四）に講堂を再建、文久三年（一八六三）に聖天堂を建立し、現在の寺観が整えられている。

明治維新後は、本寺法隆寺と共に真言宗の所屬となったが、明治十五年（一八八二）法隆寺が興福寺と共に法相宗に独立したのにもない、法相宗の小本山となった。

しかし、昭和二十五年（一九五〇）法隆寺が聖徳宗を開宗したため、当寺も聖徳宗の本山の一つになっている。

昭和四十七年（一九七二）には三重塔の解体修理に着手し、五十年に完成したのに続いて、五十二年には講堂の修理を行い、五十七年には重要文化財の十一面観音菩薩像を安置する収蔵庫を新設している。

本造十一面観音菩薩立像



彌生菩薩立像



聖天堂



講堂



三重塔（国宝）



真政圓忍像

### 三重塔（国宝）

一重の石壇上に立つ三間四方三層、高さ二三・九メートルの塔婆で、慶雲三年（七〇六）に建立されたとする現存する我国最古の三重塔として名高い。

本造十一面観音菩薩立像（重要文化財）像高三五〇・〇cm。

この像は講堂（観音堂・本堂ともいう）の本尊であったが、現在は収蔵庫に安置されている。法像形式は通常の十一面観音菩薩像で、幹部は杉の一枚から彫出しており、十世紀後半ごろの作といわれている。

### 彌生菩薩立像（重要文化財）

像高二〇・〇cm。寺伝では空無三蔵菩薩と呼ばれており、全身に火をかぶった形跡がみられる。その形式上、七世紀後半の作といわれている。現在本像は奈良国立博物館に出展中である。





地下回廊  
(入場無料ゾーン)

・ミュージアムショップ  
オリジナルグッズや当館刊行物  
も販売しています。



・レストラン



・パネル展示、仏像模型などを  
陳列しています。

## 名品展(平常展)をいつでも、何度でも!!

バスポート(友の会カード)

料金 一般 3,000円、学生 2,000円  
家族 6,000円

有効期間 購入日から1年間

特典 ・奈良・東京・京都・九州の各国立博物館の平常展を何回でもご覧いただけます。(特別展、共催展は回数制限があります。)

・当館の展覧会目録を割引価格で購入いただけます。

・地下回廊レストランにおいて、5%割引でご利用いただけます。

販売場所 当館観覧券売場又は郵便振替にてお求め下さい。

お問い合わせは、当館窓口又は総務課企画係まで  
(TEL0742-22-4450) まで



## 開館時間

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
※ただし、3月1日～11日、13日、14日は午後6時まで  
(入館は午後5時30分まで)

開館時間延長日は、午後7時まで(入館は午後6時30分まで)

- ・4月最終週から10月最終週までの毎金曜日
- ・1月第4土曜日、節分の日(2月3日)、3月12日、12月17日
- ・特別展の開館時間については別途ポスター、チラシ、ホームページ等をご覧ください。

## 休館日

毎週月曜日(休日の場合はその翌日、連休の場合は最終日の翌日。)

1月1日

※開館時間と休館日は随時に変更することがあります。

## 観覧料金

●名品展・特別陳列・特集展示・親と子のギャラリー

	一般	大学生
個人	500円	250円
団体(20名以上)	400円	200円

※高校生以下及び18歳未満の方は無料  
※70歳以上の方、障害者の方と  
介護者(同人数)は無料  
(年齢の分かるもの、障害者手帳必要)

※節分の日(2月3日)・こどもの日(5月5日)・国際博物館の日(5月18日)・敬老の日(8月第3日曜日)・関西文化の日(11月の第1日)は無料観覧日

※中学生以下と一緒に観覧される方は、団体料金を適用(子どもといっしょ割引)

※冬休み(12・1月)・夏休み(7・8月)の開館時間延長日で午後5時以降に観覧される方は、団体料金を適用(ナイト割引)

※毎月22日にこの場で観覧される方は、各250円。また、11月22日に夫婿で観覧される方は、無料(「夫婦の日」割引)

●特別展(共催展を含む)

観覧会ごとに定めます。

## 陳列品解説

ボランティア解説員が陳列品についてのご質問にお答えします。また、修学旅行・校外学習などの教育活動や、企業の研修など団体で観覧される場合には、ボランティア解説員が陳列品について解説を行います(無料)。なお、団体への解説希望はご来館になる2週間前までに予約してください。

詳しくは、当館ホームページまたは学芸部教育室まで

(TEL:0742-22-4464 平日10:00～12:00及び13:00～16:00)

## 交通案内

近鉄奈良駅下車徒歩約15分。または、JR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内新道外回り」バス(氷室神社・国立博物館)下車すぐ

※当館には駐車スペースがございませんので観覧の帰途駐車場(有料)をご利用下さい。



鉄道利用案内(奈良駅まで)

近鉄 京都駅から特急で:34分、大阪難波駅から快速急行で:35分

JR 京都駅からみやこ路快速で:40分、大阪駅から大和路快速で:44分

独立行政法人国立文化財機構

# 奈良国立博物館

〒630-8213 奈良市登大路町50 <http://www.narahaku.go.jp/>

ハローダイヤル 050-5542-8600

(平成25年9月現在)



# 奈良国立博物館

NARA NATIONAL MUSEUM



奈良国立博物館は、奈良公園の一角にあって、東大寺、興福寺、春日大社などに隣接しています。ゆったりとした環境のなかで、仏教美術の魅力と、その背景にある豊かな歴史・文化のすばらしさにふれていただけます。ごゆっくりご覧下さい。



なら仏像館 (重要文化財)

明治27年(1894)に竣工した重要文化財「旧奈良国宗良博物館本館」は、翌28年の開館以来、仏教美術の名品と出会う場として親しまれてきましたが、平成22年7月21日、室内の照明設備をはじめ展示空間を一新するとともに、「なら仏像館」として再オープンいたしました。名品展「珠玉の仏たち」と題し、飛鳥時代から鎌倉時代にいたる日本の彫刻史を代表する優れた仏像の数々を紹介しています。



奈良国立博物館配置図



仏教美術資料研究センター (重要文化財)



仏教美術関係資料を中心とする図書館です。水曜日と金曜日(休日を除く)の9:30~16:30に一般公開しています。

東新館

—特別展など—



青銅器館 <版本コレクション>

坂本五郎氏より寄贈された中国・商(殷)~漢時代までの青銅器の逸品を展示しています。

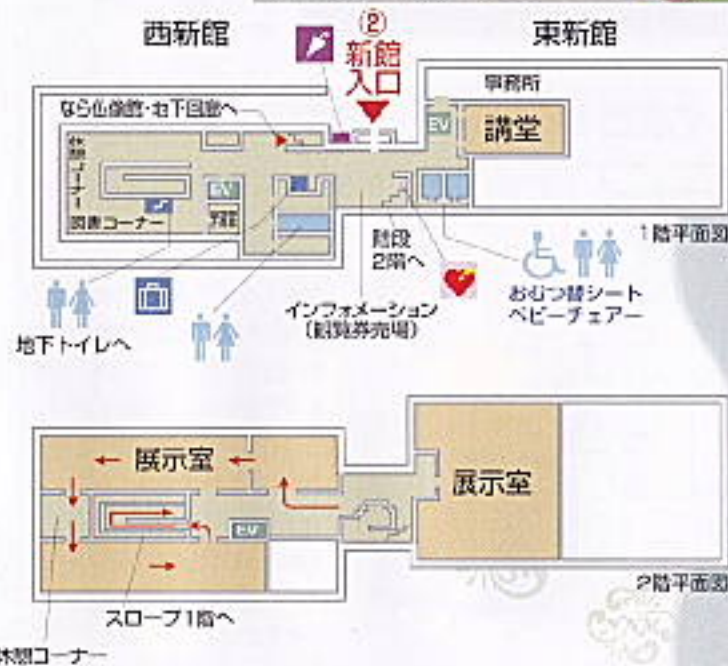
茶室八窓庵

西新館の開館日のみ庭園側のピロティからご覧いただけます。



西新館

名品展「珠玉の仏教美術」(絵画・書跡・工芸・考古)・特別展など・1階図書コーナー



※ → は名品展の観覧動線を示す。  
※ 都合により展示構成を変更することがあります。



# 鳳凰堂

Phoenix Hall

極楽浄土の宮殿をモデルにした鳳凰堂は、中堂・左右の翼廊・尾廊からなる、他に例を見ない建物です。堂内には、平安時代を代表する仏師定朝の作であることが確実な現存唯一の仏像、本尊阿彌陀如来坐像をはじめ、雲中供養菩薩像52体、9通りの来迎を画いた壁壁画など、平安時代・浄土教美術の頂点が集約されています。(現在、雲中供養菩薩像26体は鳳翔館に展示)

Phoenix Hall, modeled after the palace in the Land of Happiness, features unique architecture and consists of the Chudo (central hall), left and right wing corridors, and a tail corridor. Inside, there is a collection of Pure Land (Jodo) Buddhism sect art from the Heian Period, including a seated statue of Amitabha Tathagata, the only existing Buddhist image confirmed to have been made by Jocho, a sculptor representative of the Heian Period. Phoenix Hall is also home to 52 statues of Worshipping Bodhisattvas on Clouds and to wall and door paintings that depict Amida's nine grades of descent. (At present, 26 statues of Worshipping Bodhisattvas on Clouds are on display at the Hoshokan.)

鳳凰堂は極楽浄土の宮殿を模した、中堂・左右翼廊・尾廊で成る、他には例のない建物です。堂内には、平安時代浄土教美術の傑出した作品、包括して平安時代の遺徳師定朝所刻の現存唯一の本尊阿彌陀如来坐像、および52尊雲中供養菩薩像、絵有9幅阿彌陀来迎の壁面壁画等、(現在26尊雲中供養菩薩像を鳳翔館に展示)

극락정토의 궁전을 모델로 승조리 봉황당(鳳凰堂)은 중당(中堂)·좌우의 익랑(翼廊)·미랑(尾廊)으로 구성되어 있는 다른 곳에서 그 사례를 찾아볼 수 없는 건축물입니다. 당 내에는 헤이안 시대를 대표하는 불상장식, 조조(定朝)의 직공으로 관려되어 현존하는 유일한 불상인 본존아미타여래좌상(本尊阿彌陀如来坐像)을 비롯해 운중공양보살상(雲中供養菩薩像) 52구, 무리 벽에는 9가지 방법으로 아미타보살을 맞이하는 구공녀영도 등 헤이안 시대·정토교 미술의 정수가 집약되어 있습니다. (현재, 운중공양보살상 26구는 호소관(鳳翔館)에 전시)

阿彌陀如来坐像と二重天窓 (国宝)  
Seated statue of Amitabha Tathagata and the double canopy (both national treasures)



禁煙  
No smoking



飲食禁止  
No food or drinks



写生禁止  
No sketching

- 院内で撮影した写真などを営利的な目的で使用する事は禁止いたします。なお、鳳翔館内での写真撮影は禁止いたします。
- 鳳凰堂内部拝観には別途予約が必要ですが、
- 車椅子のお客様は、一部お入りいただけない場所がありますのでご了承下さい。
- The commercial use of photographs taken on Byodoin premises is prohibited. Taking photographs inside the Hoshokan is also prohibited.
- An additional donation will be collected from those wishing to visit Phoenix Hall.
- Please note that some areas are not accessible by wheelchair.

- 禁止將在院內所拍攝的照片用於營利性目的、另外、在鳳翔館內禁止拍攝照片。
- 在鳳凰堂內參拜需要另外預約。
- 有部分場所車輪椅遊客無法進入的，希望能夠諒解。

- 원내에서 촬영한 사진 등을 영리 목적으로 사용하는 것을 금하고 있습니다. 또한 호소관내에서의 사진촬영은 금지되어 있습니다.
- 봉황당에 입장하실 때는 별도 요금이 필요합니다.
- 휠체어를 이용하시는 분이 들어갈 수 없는 장소가 일부 있으므로, 이 점에 대하여 양해를 부탁드립니다.

拝観時間  
-Open between-

8:30 am ~ 5:30 pm

※ 鳳翔館は午前9時～午後5時

※ The Hoshokan is open between 9:00 a.m. and 5:00 p.m.



平等院

— Byodoin —

〒611-0021 京都府宇治市宇治區草116 ☎(0774)21-2861

<http://www.byodoin.or.jp>

# 平等院

Byodoin







平等院は永承7年(1052)、関白藤原頼通によって開創され、鳳凰堂はその翌年の天喜元年(1053)、阿彌陀如来(国宝)を安置する阿彌陀堂(国宝)として建立されました。庭園は浄土式の借景庭園として史跡名勝地に指定され、現在、鳳凰堂周辺の洲浜や平橋・反橋、小島などが整備されています。

その他にも、平等院には、大和絵風九品来迎図(国宝)、梵鐘(国宝)、鳳凰1対(国宝)など平安時代の文化財が多数残っています。特に11世紀の仏像群としては唯一残る、雲中供養菩薩像52体(国宝)は、いずれも雲に乗り、様々な楽器を奏で舞うなど、伸び伸びと繊細に彫り上げられています。

Byodoin Temple was established by Kampaku (chief advisor to the Emperor) Fujiwara Yorimichi in 1052. Phoenix Hall was constructed the following year (1053) as the Amitayus Hall (national treasure) to enshrine a statue of Amitayus Tathagata (also national treasure). The garden, a Pure Land (Jodo)-style borrowed landscape garden, has been designated a historic site and a place of scenic beauty. The Suhama (sandy beach), the Hirabashi (flat bridge), the Soribashi (arched bridge), and the Kojima (small island) surround Phoenix Hall. Byodoin houses numerous cultural assets from the Heian Period: Yamato-e style paintings depicting Amida's nine grades of descent, the Buddhist Temple-Bell, and the pair of Phoenixes—all national treasures. Particularly outstanding are the 52 statues of Worshipping Bodhisattvas on Clouds. These delicately carved national treasures, the only existing group of Buddhist statues from the 11th century, ride on clouds while dancing or playing various musical instruments.

平等院是关白藤原赖通于永承7年(1052年)创建的,凤凰堂是次年即天喜元年(1053年)作为安置阿彌陀如来(国宝)的阿彌陀堂(国宝)而建设的。庭园作为借净土世界为远景的庭园而被认定为名胜古迹庭园,目前凤凰堂周边的水滨·平桥·反桥·小岛等也得到了整修。另外,平等院中还保存有很多平安时代的文化遗产,比如大和绘风九品来迎图(国宝)、梵钟(国宝)、1对凤凰(国宝)等。特别是作为11世纪佛像群中唯一能存的52尊云供养菩萨像(国宝),他们雕刻得细致精美而自然舒展,立于云上,有的演奏各种乐器,真的如翩跹起舞。

보도인(平等院) 사상은 1052년, 관백(關白) '후지와라 요리미치(藤原頼通)' 공에 창건 하였으며, 봉황당은 그 다음해인 1053년에 아미타여리(國寶)를 안치하는 아미타당(國寶)으로서 건립되었습니다. 정원은 정토(淨土)양식의 차경정원으로서 사적명승정원으로 지정 되어 있으며, 현재, 봉황당 주변에는 석가산과 주석칠을 한 다리 그리고 미지스다리, 작은 섬 등이 배치되어 있습니다.

그 밖에도 보도인 사상은 이미모에(大和繪)식의 구름내림도(國寶) 발중(국보), 구름봉황 1 쌍(국보) 등, 헤이안 시대의 문화재가 다수 보존되어 있습니다. 특히, 11세기의 불상군으로서 유일하게 보존하는 운중공양보살상 52구(국보)는 모두보살들이 구름을 타고, 여러 가지 악기를 연주하며 춤을 추는 조각상 등을 형식에 구애받지 않은 자유로운 모양으로 섬세하게 세겨져 있습니다.



エントランス・硝子越しに梵鐘(国宝)  
Museum entrance and Buddhist Temple-Bell (national treasure) behind latticework

# 鳳翔館

Hoshokan

鳳翔館は、梵鐘、鳳凰1対、雲中供養菩薩像26体をはじめとし、平等院に伝わる様々な宝物類を保存、展示するための博物館です。またコンピューターグラフィックスを用いた映像展示や、鳳凰堂内部の超高精細画像を自由に検索できるレファレンスシステム等も備えています。

The Hoshokan is a museum that exhibits various treasures from Byodoin, including a Buddhist Temple-Bell, the pair of Phoenixes, and the 26 statues of Worshipping Bodhisattvas on Clouds. The museum also uses computer graphics to provide virtual exhibitions and is equipped with a reference system that allows convenient access to ultra-high-resolution images of Phoenix Hall.

鳳翔館は一區用來保存和展示以梵鐘、1对凤凰、26尊云供养菩萨像为首的述往平等院的各种宝物的博物馆。另外,这里还备有利用电脑制图技术而制作的影像资料和可以白白检索凤凰堂内部超精细图像的参考资料系统等。

호쇼칸은 박물관, 국물봉황 1쌍, 운중공양보살상 26구를 비롯해 보도인 사상에 대대로 전해 내려오는 여러가지 보물을 보존하고 전시하는 박물관입니다. 또한 컴퓨터 그래픽을 사용한 영상전시와 초고정밀도의 섬세한 화상으로 봉황당 내부를 자유롭게 검색할 수 있는 레퍼런스 시스템 등도 갖추고 있습니다.

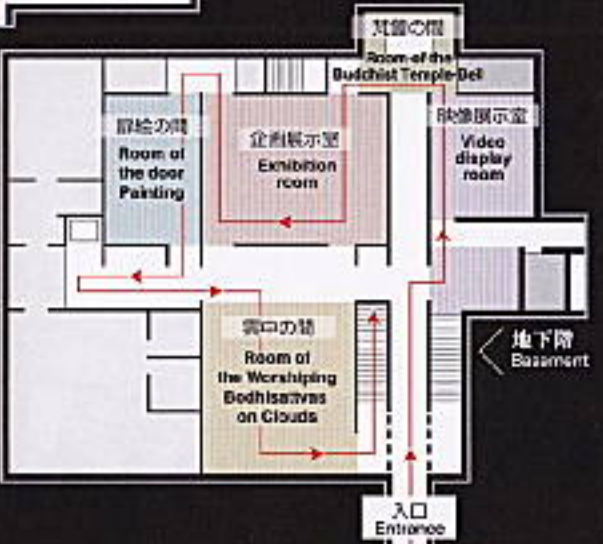
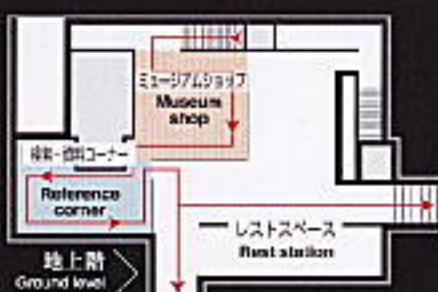
雲中供養菩薩像 26 体 (国宝)  
26 statues of Worshipping Bodhisattvas on Clouds (national treasure)



コンピューターグラフィックスによる  
鳳凰堂内彩色復元  
Depiction of Phoenix Hall with its colors restored by computer graphics



鳳凰 1 対 (国宝)  
Pair of Phoenixes (national treasure)



鳳翔館のご案内  
Hoshokan Map





# 東大寺ミュージアム

平等院鳳凰堂内部拝観券



Byodoin Phoenix Hall Entrance Ticket

10  
時  
50  
分

Start at  
10:50

薬師寺 白鳳伽藍



法相宗大本山 薬師寺 奈良市西ノ京町457 URL <http://www.nara-yakushiji.com>

玄奘三蔵院伽藍



団体

興福寺創建1300年 記念  
国宝館開館50周年

生まれ変わった

# 興福寺 国宝館

THE KOHFUKUJI  
NATIONAL TREASURE HALL

拝観券 | 団体【大人】





東大寺ミュージアムは東大寺の教学・歴史・文化の発信基地、東大寺総合文化センターのなかに設けられた展覧施設です。聖武天皇による創建以来、東大寺は千二百数十年の歴史があり、彫刻・絵画・工芸・聖教類・古文書等、先人たちが残した数多くの宝物を所蔵しております。国宝や重要文化財に指定されているものが多く、これらは国民の貴重な宗教的文化遺産とも言うべきものでありますが、一般公開できる施設が寺内にありませんでした。

そこで東大寺では、法華堂のご本尊不空羂索観音立像並びに日光・月光両菩薩立像をお迎えして、平成23年10月10日、念願の東大寺ミュージアムを開館しました。開館記念の特別展「奈良時代の東大寺」を第1期として、新に創設した企画展を開催し、東大寺の宝物を展示して参ります。展示を通して東大寺の新たな魅力を感じ取っていただければ幸いです。なお詳細については東大寺総合文化センター(TEL. 0742-20-5511)にお問い合わせください。

Welcome to Todaiji Museum, an exhibition space within Todaiji Cultural Center. The temple of Todaiji was founded by Emperor Shomu over twelve hundred fifty years ago and preserves countless treasures from the past. These artworks and artifacts, including a large number of National Treasures and Important Cultural Properties, comprise one of Japan's most important religious cultural heritages. Todaiji Museum, recently established to exhibit these works to the public, features the enormous eighth-century Standing Fukukensaku Kannon sculpture from the Hokkedo Hall, as well as its attendant bodhisattva sculptures Nikko and Gakko, all designated National Treasures. In addition, the museum organizes thematic shows, beginning with its inaugural special exhibition *Todaiji in the Nara Period*. We hope visitors will gain new appreciation and insight into the significance and history of Todaiji from this museum and its exhibits. For further information, please call Todaiji Cultural Center at 0742-20-5511.



1. ご入堂の際、係員にご提示下さい。  
本券1枚につき1名様1回限り有効です。  
(堂内では係員の指示に従って下さい。)

2. 指定された時間を過ぎますと、無効となる場合がございます。  
(5分前にお集まり下さい。)

3. 鳳凰堂は国宝です。柱・扉絵などには触れないで下さい。  
(立入禁止の所には結界をしております。)

1. Give this ticket to a staff member when entering. This ticket is valid for one admission for one person. (Inside the hall, please follow the instructions of the staff.)

2. Note that this ticket may not be valid after the designated time. (Please arrive 5 minutes early.)

3. Phoenix Hall is a National Treasure. Do not under any circumstances touch the pillars, door paintings, or other parts of the structure. (Access is blocked to off-limits areas.)

1. 请您进入凤凰堂时,向工作人员出示。  
本券1张仅限1人1次使用。  
(堂内请按工作人员的指示行动。)

2. 超过指定参观时间,则该券可能无效。  
(请提前5分钟集合。)

3. 凤凰堂是国宝,严禁用手触摸立柱、壁画等。  
(禁止进入设有护栏保护等地。)

1. 입장시에 담당원에게 제시해 주십시오. 입장권 1장은 1회에 한해 1명만 입장 가능합니다. (봉황당내에서는 담당원의 지시에 따라 주십시오.)

2. 지정된 시간이 지나면 무효가 될 경우가 있습니다.  
(5분전에 집합하여 주십시오。)

3. 봉황당은 국보입니다. 기둥・대문그림 등에는 절대로 손을 다지 않아 주십시오.  
(출입금지기가 되어 있는 곳에는 목책을 설치하고 있습니다。)



撮影禁止  
No photography



携帯電話使用禁止  
Do not use mobile phones.



飲食禁止  
No food or drinks



写生禁止  
No sketching



禁煙  
No smoking

徳志納金は建造物修理に充てさせていただきます。

○本券は一枚につきお一人様一回、本日限り有効です。  
○本券の払い戻し、再発行は致しません。  
○法要・行事等の為、ご参拝の一部制限を設けさせて頂く事がありますので、ご了承願います。  
○境内全域にて禁煙。三脚の使用並びに諸堂内の撮影はご遠慮頂いております。  
○玄奘三蔵院伽藍・大唐西域壁画(平山郁夫画伯筆)の公開日程は左記の通りです。  
※平成二十四年  
一月一日～一月十五日  
三月一日～六月三十日  
九月十六日～十一月三十日  
法相宗 大本山 薬師寺  
電話〇七四二(三三)六〇〇一

## 興福寺

和銅3年(710)に飛鳥藤原京から現在の場所に移築された興福寺は創建1300年をむかえました。その大きな節目を一層意義深いものにするため、興福寺は享保2年(1717)の大火で失われた中金堂の再建を「天

平の文化空間の再構成」を合言葉に進めています。

平成21年秋に鎮壇具埋納を終え、平成22年10月に立柱式をとりおこない、中金堂の完成は、平成30年(2018)を予定しております。

### 注意事項

●文化財の写真撮影、スケッチならびに万年筆、サインペン、ボールペン等の使用はお断りします。●文化財には手を触れないでください。●混雑の際には、お待ち願うことがあります。●館内では係員の指示に従ってください。●各一回限りの拝観となります。再入場できません。●文化財保護のため、大雨などの場合に閉館することもあります。





特別陳列

# お水取り

Treasures of  
Todai-ji's  
Omizutori  
Ritual

2012.2.11 (土・祝)

— 3.18 (日)

休館日：2月20日(月)、2月27日(月)

開館時間：午前9時30分～午後5時

2月11日(土・祝)～14日(火)は午後9時まで、3月12日(月)は午後7時まで、3月1日(木)～11日(日)・13日(火)・14日(水)は午後6時まで開館時間を延長します

※いずれも入館は閉館の30分前まで

主催：奈良国立博物館、東大寺、仏教美術協会



奈良国立博物館  
Nara National Museum







東大寺

TŌDAI-JI Temple

[www.todaiji.or.jp](http://www.todaiji.or.jp)

大仏殿（東大寺金堂） 国宝

Great Buddha Hall

National Treasure 18thc.

間口	Frontage	57.01m	187.03ft.
奥行	Depth	50.48m	165.61ft.
高さ	Height	48.74m	159.89ft.

盧舎那大仏（本尊） 国宝

Vairocana Buddha

National Treasure 8thc.

像高	Height of Body	14.98m	48.91ft.
頭部	Length of Head	5.41m	17.75ft.
目長	Length of Eye	1.02m	3.34ft.
耳長	Length of Ear	2.54m	8.33ft.
台座高	Height of Lotus-petal	3.05m	10.00ft.

八角灯籠 国宝

Octagonal Lantern

National Treasure 8thc.

高さ	Height	4.62m	15.15ft.
----	--------	-------	----------



〈特別陳列〉お水取り  
一般 500 円

有効期限 平成24年3月18日(日)まで

- ・本券は、会期中に限り1回のみ有効です。
- ・本券の払い戻し、再発行はいたしません。
- ・本券の転売は固く禁止いたします。
- ・会場内では、他の観覧者に迷惑のかかる行為はご遠慮下さい。

 奈良国立博物館  
Nara National Museum

〒630-8213 奈良市登大路町50 (奈良公園内)  
ハローダイヤル 050-5542-8600  
ホームページ (PC用) <http://www.narahaku.go.jp/>  
(携帯用) <http://www.narahaku.go.jp/mobile/>



交通案内 = 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から市内循環バス「氷室神社・国立博物館」下車  
Located in Nara Park, 15-minutes' walk east from Kintetsu Nara Station. From JR Nara or Kintetsu Nara Station, take the City Loop Bus to "Himuro Jinja / Kokuritsu Hakubutsukan" bus stop.

表面図版：東大寺曼荼羅(個人蔵)

東大寺は、奈良時代の中頃に聖武天皇の発願によって創建された。大和の国分寺として建てられたが、盧舎那大仏(しゃなだいぶつ)が本尊とされたために、大規模な伽藍が営まれた。天下泰平・万民豊樂などを祈願する道場と教理研究所を兼ねる寺で、多くの学僧を輩出した。開山は良弁(ろうべん)僧正。現在は華嚴宗の大本山である。本尊の盧舎那仏は毘盧遮那仏(びるしゃなぶつ)とも呼ばれ、華嚴經の教主とされるが、この名は釈迦如来の別名で、世界を照らす仏・光り輝く仏の意味である。像は青銅で铸造され鍍金が施されていた。天平勝宝四年(752)に盛大な開眼供養が行われた。その後度々損傷を蒙り、その都度修理されている。両手は桃山時代、頭部は江戸時代のもの。大仏殿は創建以来、治承四年(1180)と永祿十年(1567)に兵火に罹っていて、今の建物は江戸時代に建て直された三度目のものである。横幅が約三分の二に縮小されているが、それでも木造建造物としては世界一の規模を誇っている。

Todaiji Temple was built in the Nara period (710 - 794 AD) at the behest of Emperor Shomu (r.724 - 749). The temple was officially positioned as one of many state-established provincial temples. However, since the chief object of worship of the temple is Vairocana Buddha ("Buddha that shines throughout the world like the sun"), a magnificent temple was built to reflect this importance.

Todaiji Temple serves both as a place of prayer for peace and affluence on earth, as well as a center of Buddhist doctrinal research. Over the centuries, Todaiji has produced many famous scholar priests.

Todaiji Temple was founded by Bishop Roben, and is to this day the Head Temple of the Kegon Sect of Buddhism. The chief object of worship is Vairocana Buddha, who is also the central Buddha in the Kegon Sutra. The statue of Vairocana Buddha is made from cast bronze, which was then plated with gold. The statue was consecrated in 752, but was damaged and repaired several times in the following centuries. The current hands of the statue were made in the Momoyama period (1568 - 1615), and the head was made in the Edo period (1615 - 1867). The Great Buddha Hall was burned in the fires of war in 1180 and 1567, and the current building is actually the third generation structure, which was built in the Edo period. The width of the current building is approximately 33% smaller than that of the original structure, but it still ranks as the largest wooden structure in the world.



越谷市郷土研究会・お水取りと仏像ベスト7・ツアー 時間のメヤス

①.3月4日(日)

京都駅 12:00 発=奈良・興福寺 13:00 着~興福寺 14:00 発=国立奈良博物館 14:10 着~国立奈良博物館発 15:10 発=東大寺・南大門、東大寺ミュージアム 15:20 着~東大寺・南大門、東大寺ミュージアム 16:20 発=東大寺戒壇堂 16:30 着~東大寺戒壇堂 17:00 発

<春日ホテル内・和風レストラン春日 17:10 着~夕食~18:00 発>=東大寺駐車場 18:10 着<お水取り見学 19:00~20:00>=東大寺駐車場 20:10 発=コンフォートホテル 20:20 着

②.3月5日(月)

ホテル 8:30 発=唐招提寺 9:30 着~唐招提寺 10:30 発=薬師寺 10:40 着~薬師寺 11:40 発=<斑鳩・小路 12:40 着~昼食~13:30 発>=法隆寺 13:40 着~法隆寺 15:10 発~中宮寺・法輪寺・法起寺 16:00 発=奈良・かめや 17:00 着~夕食~18:00 発>~お買物タイム~コンフォートホテル

③.3月6日(火)

ホテル 8:30 発=田辺観音寺 9:30 着~10:00 発=平等院 10:30 着~平等院 11:00 発=嵯峨釈迦堂前・味生 12:00 着~昼食~12:50 発>=広隆寺 13:00 着~広隆寺 14:00 発=神護寺 15:00 着~神護寺 16:00 発=京都駅 17:30 着~お買物タイム~新幹線乗車 18:29 発 東京駅 21:10